デジタルカメラ

EXILIM（エクシリム）

EX-ZR62

取扱説明書(保証書付き)

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- 本機をご使用になる前に、必ず別冊「クイックスタートガイド」に記載の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://casio.jp/dc/）またはカシオホームページ（http://casio.jp/）でご覧になることができます。

カシオメンバーズ会員サイト登録のおすすめ

カシオメンバーズは、カシオ製品にご興味をお持ちの方向けに提供するカシオの会員サイトです。
ご入会されますと以下のサービスをご利用いただけます。

1. 様々なカシオ製品のユーザー登録ができます。
2. キャンペーンの応募などに便利です。
3. 情報満載のメールマガジンをご登録いただけます。

https://members.casio.jp/jp/

CASIO

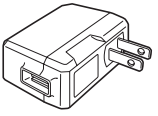
JA

はじめにご覧ください（基本的な操作）
静止画を撮影する(応用)
動画を撮影する
撮りたいシーンを選んで撮影する（ベストショット）
よりよい撮影のための設定(REC MENU)
静止画や動画を再生する
再生時のその他の機能(PLAY MENU)
カメラとスマートフォンを接続する（無線接続）
プリント(印刷)する
パソコンを利用する
その他の設定について(SETTING)
付録

付属品を確認する

箱を開けたら、以下の付属品がそろっているか確認してください。そろっていないときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リチウムイオン充電池
（NP-160）

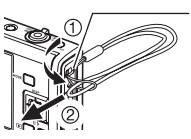


USB-ACアダプター※
（AD-C54UJ）

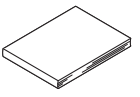
マイクロUSBケーブル

ストラップ

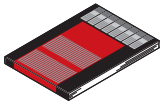
取り付けかた



ストラップ
取り付け部



日本語
クイックスタートガイド
（保証書付き）



13言語
ベーシックリファレンス
（日本語除く）

※付属のアダプターは日本向けプラグとなります。

あらかじめご承知ください

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 万一、EXILIM Connect（アプリケーションソフト）の使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えません。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えません。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、高精度な技術で作られており、有効画素は99.99%以上です。点灯しない画素や常時点灯する画素が存在することがありますが、液晶パネルの特性で、故障ではありません。

撮影前は試し撮りを

必ず事前に試し撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

目次

付属品を確認する 2
あらかじめご承知ください 4

■ 各部の名称 16

■ 液晶モニターの表示内容と切り替えかた 19

■ はじめにご覧ください(基本的な操作) 24

このカメラでできること 24
液晶モニターを開閉する 27
箱を開けたら、電池を充電する 29
■ 電池を入れる 29
■ 充電する 31
最初に電源を入れたらメッセージの言語を選び時計を合わせる 38
メモリーカードを準備する 40
■ 使用できるメモリーカード 40
■ メモリーカードを入れる 41
■ 新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する 43
電源を入れる/切る 45
カメラの正しい構えかた 46

静止画を撮影する 48
■ オート撮影モードを設定する 48
■ 撮影する 50
撮影した静止画を見る 54
撮影した静止画や動画を消去する 55
静止画撮影時のご注意 58

■ 静止画を撮影する(応用) 60

撮影モードを設定する 60
操作パネルを使う 62
セルフタイマーを使う .....(セルフタイマー)... 63
色合いを調整する .....(ホワイトバランス)... 65
ピントの合わせ方を変える.....(フォーカス方式)... 68
ISO感度を変える.....(ISO感度)... 71
人物の顔を美しく撮影する.....(メイクアップ)... 72
明るさを補正する .....(露出補正)... 73
フラッシュを使う .....(フラッシュ)... 75
光の測りかたを変える .....(測光方式)... 78
ズーム撮影する 79
■ ズーム時の画面表示について 81
■ 静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる.....(超解像ズーム).... 84
■ ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する.....(プレミアムズーム).... 85

何枚も連続して撮影する ..... (連写モード) ...86
■ 高速連写で撮影する 86
■ パスト連写で撮影する 88
■ オートフォーカスしながら連写撮影する ..... (AF連写) 91
被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす ....(モーションシャッター) ...93
■ モーションシャッターの設定を変更する ..... (モーションシャッター) 96
いろいろな作風で撮影する ..... (アートショット) ...97
■ HDRアートでの撮影で効果なしの画像も
同時に保存する ..... (ダブル保存(HDRアート)) ...100
自分撮りで個性的な画像を撮影する ..... (セルフィーアート) ..101
タイマーを使って自分撮りをする ..... (セルフィータイマー) ..103
■ フロントシャッターにセルフィータイマーの機能を割り当てる 103
■ セルフィータイマーを使って自分撮りをする 104

■ 動画を撮影する 105

動画を撮影する 105
■ 音声について 108
高精細な動画を撮影する 110
ハイスピード動画を撮影する 111
撮影開始前のシーンも動画に記録する ..... (パストムービー) ..114
タイムラプス動画を撮影する ..... (タイムラプス) ..117
動画撮影中に静止画を撮影する ..... (スチルインムービー) ..121

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット) 122

ベストショットで撮影する. 122
人物の顔を美しく撮影する. . . . . (メイクアップ). . 125
肌の色が異なる画像を3枚撮影する. . . . . (メイクアップBKT). . 126
撮りたい瞬間を逃さず撮影する. . . . . (トリプルショット). . 127
デジタル処理で手ブレ補正をする. . . . . (HS手ブレ補正). . 129
暗い場所でフラッシュを使わずに明るく撮影する . . . . . (HSナイトショット). . 130
デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する. . . . . (HDR). . 131
背景をぼかした写真を撮影する. . . . . (背景ぼかし). . 132
画像全体にピントを合わせて撮影する . . . . . (全焦点マクロ). . 134
パノラマ画像を撮影する . . . . . (スライドパノラマ). . 135
超広角画像を撮影する . . . . . (ワイドショット). . 138
テレビに映しながら静止画を撮影する . . . . . (HDMIテレビ出力). . 142

よりよい撮影のための設定(REC MENU) 144

撮影設定を変更する.....144
何枚も連続して撮影する.....(連写モード)..146
カメラとスマートフォンを接続する .....(無線モード)..147
被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす....(モーションシャッター)..147
フロントシャッターを使用した撮影方法を設定する...(フロントシャッター)..148
左右キーに機能を割り当てる .....(左右キー)..150
セルフタイマーを使う.....(セルフタイマー)..151
明るさを補正する.....(露出補正)..151
色合いを調整する.....(ホワイトバランス)..151
ISO感度を変える .....(ISO感度)..151
ISO感度の上限を設定する.....(ISO感度上限)..152
ピントの合わせ方を変える .....(フォーカス方式)..153
オートフォーカスの測定範囲を変更する.....(AFエリア)..154
人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する.....(顔検出)..156
人物の顔を美しく撮影する .....(メイクアップ)..158
常にオートフォーカスを動作させる .....(コンティニュアスAF)..158
光の測りかたを変える.....(測光方式)..158
手ブレや被写体ブレを軽減する .....(手ブレ関連補正)..159
静止画の画像サイズを設定する .....(静止画サイズ)..161
静止画の画質を設定する.....(静止画画質)..164

動画の画質を設定する .....(動画画質).. 165
画像の明るさを最適化する.....(ライティング).. 167
鮮鋭さを変える .....(シャープネス).. 167
色の鮮やかさを変える .....(彩度).. 168
明暗の差を変える .....(コントラスト).. 168
フラッシュの明るさを変える.....(フラッシュ光量).. 168
静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる .....(超解像ズーム).. 169
デジタルズームを設定する.....(デジタルズーム).. 169
ピント合わせを補助するライト.....(AF補助光).. 170
HDRアートでの撮影で効果なしの画像も保存する.(ダブル保存(HDRアート)).. 170
動画撮影時の風の音を低減する.....(風音低減).. 171
撮影直後の画像を表示する.....(撮影レビュー).. 171
画面上のアイコンの意味を確認する.....(アイコンガイド).. 172
撮影時の液晶モニター表示を変更する .....(アシスト表示).. 173
各種設定を記憶させる .....(モードメモリー).. 176

静止画や動画を再生する 177

撮影した静止画を見る 177
撮影した動画を見る 177
撮影したパノラマ画像を見る..... 179

連写した静止画を見る 180
■ 連写画像の消去 182
■ 連写画像をグループ解除する ..... (グループ解除) ... 184
■ 連写画像をコピーする ..... (コピー) ... 186
画像を拡大して表示する 187
画像を一覧表示する 188
テレビで静止画や動画を見る 188

II 再生時のその他の機能(PLAY MENU) 192

カメラとスマートフォンを接続する ..... (無線モード) .. 192
フロントシャッターに機能を割り当てる ..... (フロントシャッター) .. 192
コラージュ画像を作成する ..... (クイックコラージュ) .. 194
自動的にページ送りして楽しむ ..... (スライドショー) .. 195
■ 好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする 197
動画の一部をカットする ..... (ムービーカット) .. 199
2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする ..... (ムービー結合) .. 201
動画から静止画を作成する ..... (モーションプリント) .. 202
画像の明るさを最適化する ..... (ライティング) .. 202
画像の色味を変える ..... (ホワイトバランス) .. 203
画像の明るさを変える ..... (明るさ編集) .. 204
印刷する画像を選ぶ ..... (プリント設定) .. 204
ファイルを消去できないようにする ..... (プロテクト) .. 205

撮影画像の日時を修正する.....(日時編集)..208
画像を回転させる .....(回転表示)..208
画像サイズを小さくする .....(リサイズ)..209
静止画の一部を切り抜く .....(トリミング)..210
ファイルをコピーする ..... (コピー)..211
連写画像を1枚の静止画にまとめる.....(連写マルチプリント)..212
連写画像をグループ解除する.....(グループ解除)..212
連写画像を編集する .....(グループ編集)..213

カメラとスマートフォンを接続する(無線接続) 214

スマートフォンでできること.....214
無線モードについて 218
スマートフォンをカメラに接続するための準備 220
■スマートフォンに“EXILIM Connect”をインストールする 221
■最初に無線接続設定をする 222
スマートフォンをカメラのリモコンとして使う .....(スマートフォンで撮影)..225
カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る.....(選択して送る)..226
フロントシャッターを押すと、画像を送るように設定する.....(クイック送信)..227
カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る ...(スマートフォンから見る)..228

無線接続の設定をする.....230
■本機を機内モードにする.....（機内モード）...230
■撮影ごとに画像をスマートフォンに送信する.....（自動送信）...231
■自動送信で送信する画像を選ぶ.....（自動送信ファイル設定）...232
■静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する.....（送信時リサイズ）...232
■無線LAN接続時のカメラのパスワードを変更する.....（無線LANパスワード）...233
■ペアリングを解除する.....（ペアリング解除）...234

プリント(印刷)する 235

静止画のプリント方法.....235
プリントする画像や枚数を指定しておく.....（プリント設定(DPOF)）..236

パソコンを利用する 242

パソコンを使ってできること.....242
Windowsパソコンを利用する.....243
■画像をパソコンに保存する／パソコンで見る.....244
■動画を再生する.....250
Macintoshを利用する.....251
■画像をパソコンに保存する／パソコンで見る.....252
■動画を再生する.....255
ファイルとフォルダーについて.....257
メモリー内のデータについて.....258

その他の設定について(SETTING) 260

省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす .....(エコモード)..260
液晶モニターの明るさを変える.....(液晶設定)..261
カメラの音を設定する .....(操作音)..262
画像保存用のフォルダーを作成する.....(フォルダー作成)..263
日付や時刻を写し込む .....(タイムスタンプ)..263
撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する .....(縦画像回転再生)..264
画像の連番のカウント方法を切り替える .....(ファイルNo.)..264
電池の消耗を抑える .....(スリープ)..265
電池の消耗を抑える .....(オートパワーオフ)..266
液晶モニターを開いたときの動作を設定する .....(液晶開閉)..266
【▶】の動作を設定する .....(PLAY)..267
画像の消去操作ができないようにする.....(消去キー)..267
海外旅行先での時刻を設定する.....(ワールドタイム)..268
カメラの日時を設定し直す.....(日時設定)..269
日付の表示の並びを変える.....(表示スタイル)..270
表示言語を切り替える .....(Language)..270
HDMI端子の出力方法を変える .....(HDMI出力)..271
メモリーをフォーマットする.....(フォーマット)..271
各種設定を購入直後の設定に戻す.....(リセット)..272
カメラのファームウェアのバージョンを確認する .....(バージョン情報)..272

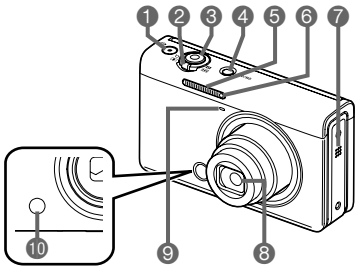
付録 273

使用上のご注意.....273
電源について.....299
■充電について.....299
■電池に関するご注意.....300
■海外で使うときは.....301
メモリーカードについて.....302
リセット操作でリセットされる内容.....304
故障かな？と思ったら.....308
■現象と対処方法.....308
■画面に表示されるメッセージ.....316
撮影可能枚数／撮影可能時間.....320
主な仕様／別売品.....323
索引.....328

各部の名称

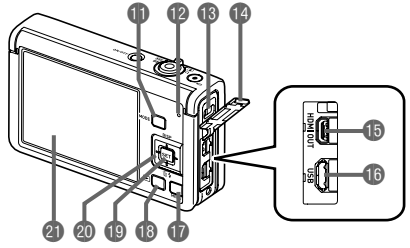
各部の説明が記載されている主なページを( )内に示します。

前面



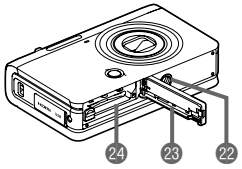
❶【●】(ムービー)ボタン
(105ページ)
❷ズームレバー(50、80、187ページ)
❸シャッター(45、49ページ)
❹【ON/OFF】(電源)(38、45ページ)
❺フラッシュ(75ページ)
❻前面ランプ(64、170ページ)
❼スピーカー
❽レンズ
❾マイク(108ページ)
❿フロントシャッター
(148、192、227ページ)

後面



⓫【MODE】ボタン
（49、60、105ページ）
⓬後面ランプ（33、35、45、51、76ページ）
⓭ストラップ取り付け部
（2ページ）
⓮端子カバー
⓯【HDMI OUT】
HDMI output（マイクロ）端子（142、188ページ）
⓰【USB】端子
（32、34ページ）
⓱【MENU】ボタン
（105、144ページ）
⓲【▶】（再生）ボタン
（45、54ページ）
⓳【SET】ボタン
（62、105、144ページ）
⓴コントロールボタン
（【▲】【▼】【◀】【▶】）
（62、105、122、144ページ）
㉑液晶モニター
（19、49ページ）

底面



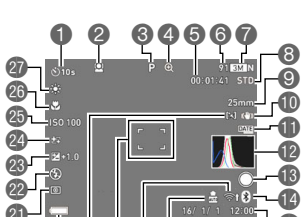
㉒三脚穴
　三脚に取り付けるときに使用します。
㉓電池カバー
㉔電池／メモリーカード挿入部(29、41ページ)

液晶モニターの表示内容と切り替えかた

液晶モニターには、さまざまな情報がアイコンや数字などで表示されます。

- 下の画面は、情報が表示される位置を示すためのものです。液晶モニターが実際にこの画面のようになることはありません。

■ 静止画撮影時（1枚撮影時）



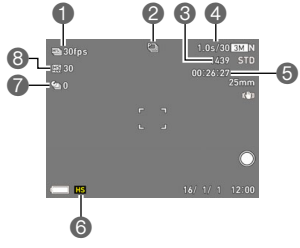
❶ セルフタイマー（63ページ）
❷ 顔検出（156ページ）
❸ 撮影モード（48ページ）
❹ デジタルズーム／超解像ズーム（82ページ）
❺ 動画撮影可能時間（106ページ）
❻ 静止画撮影可能枚数（320ページ）
❼ 静止画の画像サイズ／画質（161、164ページ）
❽ 動画画質（FHD/STD動画）（105、110ページ）／撮影速度（ハイスピード動画）（111ページ）
❾ 焦点距離（35mmフィルム換算）（81ページ）
❿ 手ブレ関連機能（159ページ）
⓫ タイムスタンプ（263ページ）
⓬ ヒストグラム（173ページ）
⓭ フロントシャッターの動作（148ページ）
⓮ Bluetoothの通信状況（219ページ）／機内モード（230ページ）
⓯ 日付／時刻（38、269ページ）
⓰ 自動送信（231ページ）
⓱ 無線LANの通信状況（219ページ）

⑱フォーカスフレーム(51、155ページ)
⑲AFエリア(154ページ)
⑳電池残量表示(37ページ)
㉑測光方式(78ページ)
㉒フラッシュ(75ページ)
㉓露出補正(73ページ)
㉔メイクアップ(72ページ)
㉕ISO感度(71ページ)
㉖フォーカス方式(68ページ)
㉗ホワイトバランス(65ページ)

参考

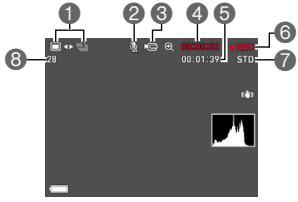
- 撮影時の設定によっては、絞り値、シャッター速度、ISO感度が表示されない場合があります。AE(自動露出)が適正でないときは赤色に表示されます。

■ 静止画撮影時(連写時)



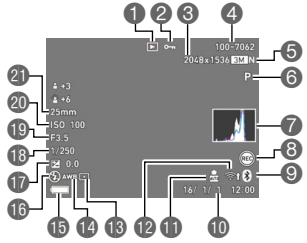
❶連写撮影速度(86ページ)
❷撮影モード(48ページ)
❸静止画撮影可能枚数(320ページ)
❹連続撮影可能時間※/連続撮影可能枚数(86ページ)
※バースト連写時は表示されません。
❺動画撮影可能時間(321ページ)
❻連写モード(86ページ)
❼バースト連写枚数(88ページ)
❽最大連写枚数(86ページ)

■ 動画撮影時



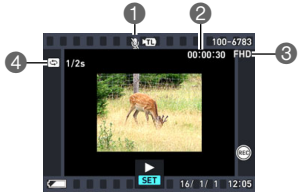
1. 静止画撮影モード（スチルインムービー）（121ページ）
2. 録音オフ（111ページ）
3. 動画アイコン（106ページ）
4. 動画の撮影時間（106ページ）
5. 動画の残り撮影時間（106ページ）
6. 動画撮影中（106ページ）
7. 動画画質（FHD/STD動画）（105、110ページ）／撮影速度（ハイスピード動画）（111ページ）
8. 静止画撮影可能枚数（320ページ）

■ 静止画再生時



1. ファイル形態
2. プロテクト表示(205ページ)
3. 静止画の画像サイズ(161ページ)
4. フォルダー名／ファイル名(257ページ)
5. 静止画の画質(164ページ)
6. 撮影モード(48ページ)
7. ヒストグラム(173ページ)
8. フロントシャッターの動作(192ページ)
9. Bluetoothの通信状況(219ページ)／機内モード(230ページ)
10. 日付／時刻(269ページ)
11. 自動送信(231ページ)
12. 無線LANの通信状況(219ページ)
13. 測光方式(78ページ)
14. ホワイトバランス(203ページ)
15. 電池残量表示(37ページ)
16. フラッシュ(75ページ)
17. 露出補正(73ページ)
18. シャッター速度
19. 絞り値
20. ISO感度(71ページ)
21. 焦点距離(35mmフィルム換算)

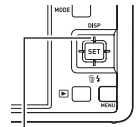
■ 動画再生時



❶音声なし
❷動画の撮影時間(177ページ)
❸動画画質(FHD/STD動画)(105、110ページ)／撮影速度(ハイスピード動画)(111ページ)
❹撮影間隔(118ページ)
タイムラプスで撮影した動画に表示されます。

■ 液晶モニターの表示内容を切り替える

【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます。撮影モード、再生モードでそれぞれ設定できます。



【▲】(DISP)

撮影モード

情報表示あり	設定内容などの情報を表示します。
情報表示なし	設定内容などの情報を表示しません。

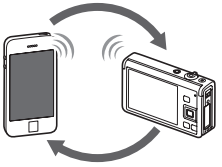
再生モード

情報表示あり	撮影時の設定内容や日付、時刻などの情報に加え、ヒストグラム(173ページ)が画面の右側に表示されます。
情報表示なし	撮影時の情報が表示されません。

はじめにご覧ください(基本的な操作)

このカメラでできること

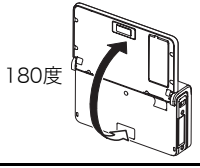
このカメラに搭載されているさまざまな機能から、代表的な機能を紹介します。



無線接続

スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに送信できます。

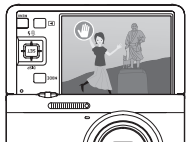
→214ページ



液晶モニター開閉

液晶モニターが最大で180度開きます。自分撮りやカメラを低い位置にしても楽な姿勢で撮影できます。

→27ページ



モーションシャッターで自分撮り

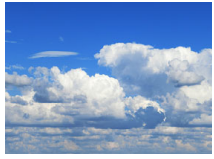
離れた場所から手を振ったりしてセルフタイマーを操作することができるので、自分撮りをするときに便利です。

→93ページ

セルフィーアート

自分撮りに最適な効果がかかった写真に仕上げることができます。

→101ページ



タイムラプス

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます。

→117ページ

メイクアップブラケティング(メイクアップBKT)

1回の撮影で肌の色が異なる画像を3枚撮影できます。

→126ページ

アートショット

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。

→97ページ

プレミアムオート PRO

被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、一般的なオート撮影よりも高画質で撮影することができます。

→48ページ

クイックコラージュ

撮影した複数の静止画を組み合わせ、1枚にまとめた画像（コラージュ画像）を作成できます。

→194ページ

液晶モニターを開閉する

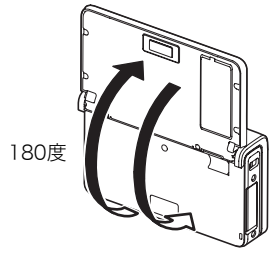
本機の液晶モニターは、上部を軸に180度開閉できます。

■ 液晶モニターを開ける

図のように液晶モニターの上部を軸に開きます。

■ 液晶モニターを閉じる

図のように液晶モニターの上部を軸に閉じます。



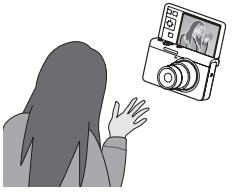
重要

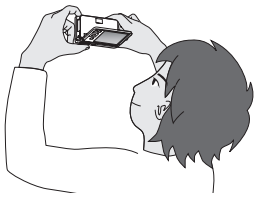
- お買い上げ直後は、液晶モニターを開くとカメラの電源が入ります。電源が入らないように設定を変更することもできます。詳しくは、266ページをご覧ください。
- 液晶モニターを閉じるときは、液晶モニターの下部に指などをはさまないようにご注意ください。
- 液晶モニターを強く押さないでください。液晶モニターが破損することがあります。

参考

- カメラを使用しないときは、液晶モニターを閉じてください。

■ こんな使い方ができます

自分撮り	低い位置からの撮影
液晶モニターを180度開くと、液晶モニターで確認しながら撮影できます。 	液晶モニターの角度を調整すると、楽な姿勢で撮影できます。

高い位置からの撮影
カメラを上下逆に構えて液晶モニターの角度を調整すると、高い位置（ハイアングル）からの撮影ができます。液晶モニターに表示される情報表示や撮影画像は自動で180度回転します。 

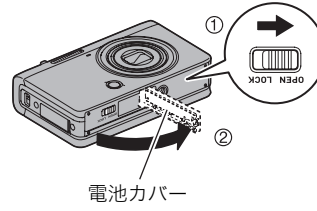
箱を開けたら、電池を充電する

お買い上げ直後は、電池はフル充電されていません。次の手順でカメラに電池を入れた後に充電してください。

- 本機は、当社の専用リチウムイオン充電池(NP-160)を電源として使用します(NP-160以外の電池は使用できません)。

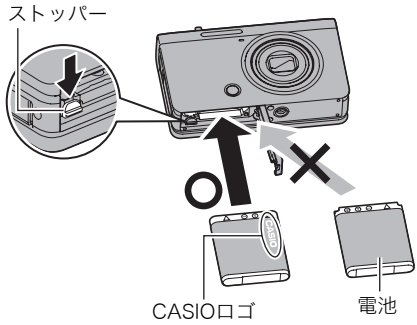
電池を入れる

1. 電池カバーを開ける

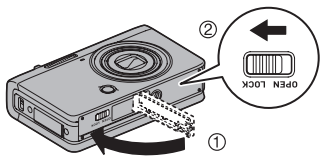


2. 電池を入れる

電池のCASIOのロゴのある面を上(レンズ側)にして、電池の側面でストッパーを矢印の方向にずらしながら電池を入れます。ストッパーが電池にかかるまでしっかり押し込んでください。



3. 電池カバーを閉める

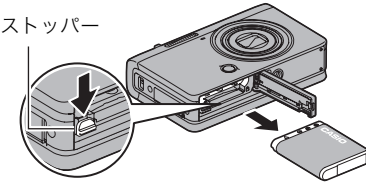


電池を交換する

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

2. 電池を取り出し、新しい電池を入れる

3. 電池カバーを閉める



重要

- 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ったとき、後面ランプ(17ページ)が緑色に点滅している間は電池を取り出さないでください。データが消えたり、変化したりすることがあります。

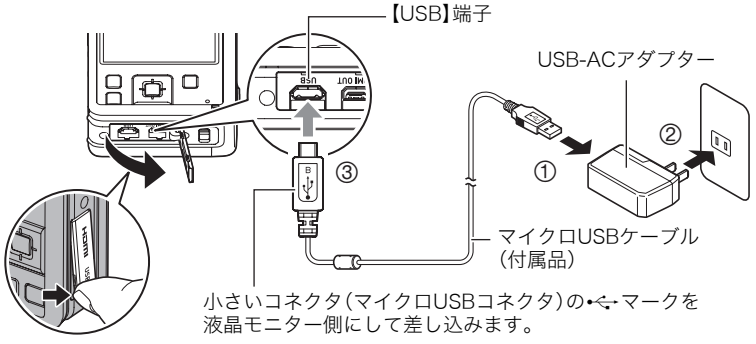
充電する

本製品は、以下の3つの方法で充電できます。

①USB-ACアダプター(AD-C54UJ)で充電する
②パソコンのUSB端子から充電する(付属のマイクロUSBケーブルを使用)
③専用充電器(BC-110L(別売品))で充電する

■ USB-ACアダプターで充電する

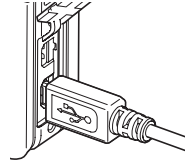
電池をカメラに装着したまま充電します。
カメラの電源が切れた状態で、①、②、③の順に接続します。
充電時間：約2時間40分



- カメラからアダプターを外す場合は、必ずカメラ側（上の図の③）から先に外してください。

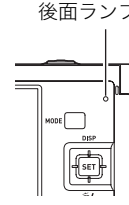
重要

- 長期間電池を使わなかった場合や周囲の温度によっては、充電時間がさらに延びる場合があります。また、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、299ページをご覧ください。
- USBケーブル接続時は、ケーブルのコネクタをカチッとクリック感があるまでカメラへ押し込んでください。完全に挿入しないと、通信不良や製品の故障の原因となります。
- 完全に挿入しても、イラストのようにコネクタの金属部が見えます。
- USB-ACアダプターがカメラと接続された状態で【ON/OFF】(電源)ボタンを押すと、電池からの電源供給によってカメラが起動します。このとき、充電は停止します。
- 充電中、USB-ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。



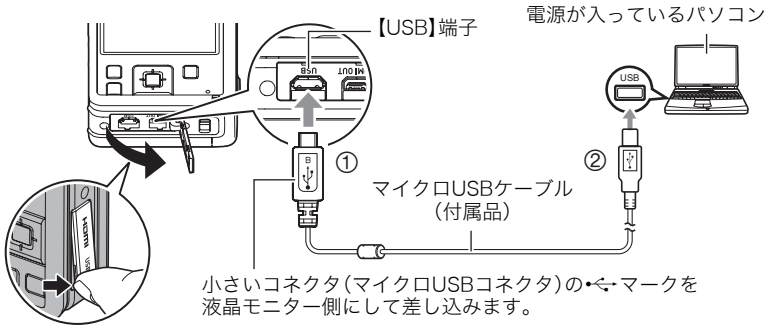
後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／USB-ACアダプターの異常／電池の異常(299ページ)
消灯	充電完了



■ パソコンのUSB端子から充電する

電池をカメラに装着したまま充電します。
カメラの電源が切れた状態で、①と②の接続をします。



- パソコンに接続する前にカメラの電源が入っているときは、【ON/OFF】（電源）を押して電源を切ってください。

重要

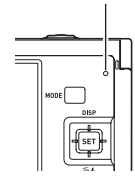
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

- 長期間電池を使わなかった場合や、パソコンの種類や接続環境によっては、充電時間がさらに延びる場合があります。また、後面ランプが赤く点滅することがあります。その場合は、299ページをご覧ください。
- より早く充電を完了するためには、付属のUSB-ACアダプターで充電することをおすすめします。
- パソコンでカメラを充電している最中は、撮影できません。撮影するときはUSBケーブルを抜いてください。
- パソコンでカメラを充電している最中に、カメラの電源を入れると充電を継続したまま、パソコンとのUSB通信状態に移行します。ただし、パソコンの種類や接続環境により給電能力が低い場合は、充電のみ停止します。このとき後面ランプは緑色に点灯します。
- パソコンが休止状態のときは充電できません。

後面ランプの動作

動作	内容
赤点灯(オレンジ点灯/点滅)	充電中
赤点滅	周辺温度の異常／充電時間の異常／電池の異常(299ページ)
消灯(緑点灯)	充電完了

後面ランプ



- (　)内は、充電中にカメラの電源を入れたときの動作です。

■ 専用充電器(BC-110L(別売品))で充電する

充電池(NP-160)を直接充電できます。充電方法については、BC-110Lに付属の取扱説明書を参照ください。
約3時間でフル充電されます。

その他充電についてのご注意

- 充電池(NP-160)は本書指定の方法で充電してください。
- 本機はUSB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。
- USB充電に対応する機器や電源機器には、一定の規格があります。粗悪なもの、規格から外れるもののご使用は、機器の誤動作、故障の原因になることがあります。
- 自作のパソコンや改造したパソコンでの動作は保証できません。市販のパソコンでもUSBポートの仕様によっては、USBケーブルを接続しても充電されないことがあります。
- 使用直後の熱くなった電池は、十分に充電されない場合があります。電池が冷めるのを待ってから充電してください。
- 電池は使用しない場合でも、自己放電します。必ず充電してからご使用ください。
- 充電中、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。その場合、テレビやラジオからできるだけ離れたコンセントをご使用ください。
- 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって若干変化します。
- USB-ACアダプター(AD-C54UJ)は本機以外には使用しないでください。
- 充電は、本書で指定したUSB-ACアダプター、USBケーブルをご使用ください。指定以外のもので充電した場合は、正しく充電できないことがあります。

電池の残量を確認するには

電池が消耗すると、液晶モニターに表示される電池残量表示が下記のように変化します。

電池の残量	多い ←					→ 少ない
電池残量表示		→		→		→
残量表示の色	白色	→	白色	→	赤色	→ 赤色

“ ”は電池残量が少ないことを表しています。早めに充電してください。

“ ”の状態では撮影できません。すぐに充電してください。

- 撮影モードと再生モードを切り替えた場合、電池残量表示の状態が変わることがあります。
- 電池が入っていない、または消耗している状態でカメラを約20日放置すると、日時の設定がリセットされます。新たに電源を入れたとき、日付の設定をお知らせする画面が表示されますので、日付を設定してください(269ページ)。
- 電池寿命と撮影枚数に関しては325ページをご覧ください。

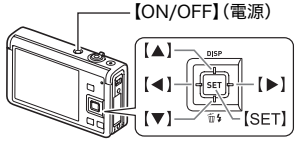
電池を長持ちさせるために

- エコモードに設定することで、省電力状態になります(260ページ)。このとき、液晶モニターが少し暗くなります。
- フラッシュを使用しなくてよいときは、フラッシュの発光方法を“”(発光禁止)にする(75ページ)。
- オートパワーオフ機能(266ページ)やスリープ機能(265ページ)を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。
- “コンティニュアスAF”を“切”にする(158ページ)。

最初に電源を入れたらメッセージの言語を選び時計を合わせる

お買い上げ後、最初に電源を入れたときは、画面に表示されるメッセージなどの言語および時計を設定する画面が表示されます。時計を設定しないと、撮影した画像に正しい日時が記録されません。

• 日本で使う場合の操作例です。



1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

2. 【▲】【▼】を押して“日本語”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】を押して日付の表示スタイルを選び、【SET】を押す

例)2016年7月10日
“年／月／日”→“16/7/10”と表示
“日／月／年”→“10/7/16”と表示
“月／日／年”→“7/10/16”と表示

4. 日付と時刻を合わせる

【◀】【▶】で年、月、日、時、分を選び、【▲】【▼】で数字を合わせます。
12時間／24時間表示を切り替えるには、“24h”を選び、【▲】【▼】で切り替えます。

5. 日付／時刻合わせが終了したら、【◀】【▶】を押して“決定”を選び、【SET】を押す

表示言語や日付／時刻を間違って設定した場合、上記の手順では直せません。下記のページをご覧になり、設定し直してください。
- 表示言語:270ページ
- 日付／時刻: 269ページ

参考

- 時計を設定しても、すぐに電池を抜くと、設定した時刻がリセットされる場合があります。時計を設定後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。

メモリーカードを準備する

撮影する画像を保存するため、市販のメモリーカードをご用意ください(本機にメモリーカードは付属していません)。本機はメモリーを内蔵しており、この内蔵メモリーだけでも数枚程度の静止画や短い動画の撮影はできます。メモリーカードを入れているときはメモリーカードに、入れていないときは内蔵メモリーに記録されます。

• 保存できる映像の数量については320ページをご覧ください。

使用できるメモリーカード

– SDメモリーカード
– SDHCメモリーカード
– SDXCメモリーカード

• 使用できるメモリーカードの種類は2015年10月現在のものです。
• SD規格に準拠したメモリーカードに対応しており、規格上の容量は、SDメモリーカードが2GB以下、SDHCメモリーカードが2GB超～32GB以下、SDXCメモリーカードが32GB超～2TB以下となります。上記のメモリーカードであっても容量をはじめ、すべてのカードで動作を保証するものではありません。

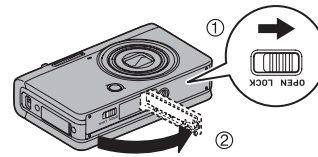
当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。具体的なメーカー名や対応容量などの詳細は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(http://casio.jp/support/dc/)をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

■ メモリーカードのご使用上の注意

メモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、“●REC”が黄色になります。

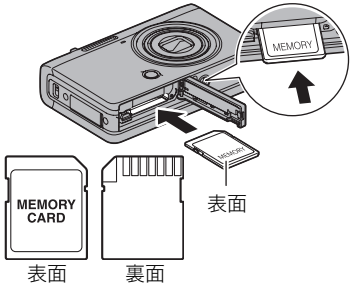
メモリーカードを入れる

1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切り、電池カバーを開ける

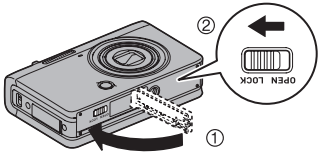


2. メモリーカードを入れる

メモリーカードの表面を上(レンズ側)にして、メモリーカード挿入口にカチッと音がするまで押し込みます。



3. 電池カバーを閉じる

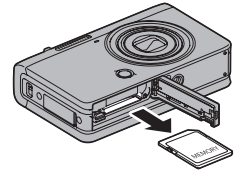


重要

- メモリーカード挿入口には指定のメモリーカード(40ページ)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にご連絡ください。

メモリーカードを交換する

メモリーカードを押すとカードが少し出てきますので、引き抜いて別のメモリーカードを入れます。



重要

- メモリーカードの交換は、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。
- 【ON/OFF】(電源)を押して電源を切ったとき、後面ランプ(17ページ)が緑色に点滅している間はメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像が記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

新しいメモリーカードをフォーマット(初期化)する

本機で初めて使用するメモリーカードはカメラでフォーマットしてください。

重要

- すでに静止画などが保存されているメモリーカードをフォーマットすると、その内容がすべて消去されます。フォーマットは通常行う必要はありませんが、画像の記録速度が遅くなったなどの異常が見られる場合にフォーマットしてください。
- メモリーカードをフォーマットするときは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットするとSD規格非準拠となり、処理速度が著しく遅くなるなど、互換性や性能等で問題が生じる場合があります。

1. 電源を入れて【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“⚙ SETTING”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押す

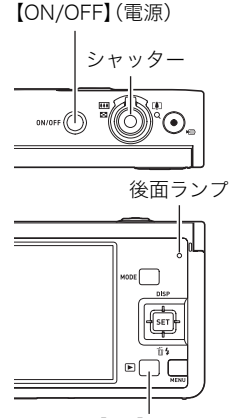
5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【ON/OFF】(電源)を押すと、撮影モードになり、撮影できる状態になります。
この状態で、【▶】(再生)を押すと再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます(54、177ページ)。

- 【▶】(再生)を押して電源を入れることもできます。
- 再生モード中にシャッターを押すと、撮影できる状態に戻ります。
- レンズを押さえたりぶつけたりしないようにしてください。レンズを手で押さえ込んでレンズの動きを妨げると、故障の原因になります。
- 【▶】(再生)を押して再生モードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。
- スリープ機能(265ページ)、オートパワーオフ機能(266ページ)により、一定時間操作しないと、自動的に液晶モニターが消灯したり電源が切れたりします。
- パソコンでカメラを充電している最中は、【ON/OFF】(電源)や【▶】(再生)を押しても、カメラは起動しません(34ページ)。



■ 電源を切る

【ON/OFF】(電源)を押します。

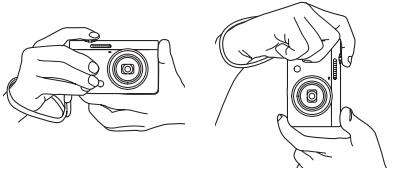
参考

・【▶】(再生)を押して、電源が切れるように設定することもできます(267ページ)。

カメラの正しい構えかた

シャッターを押すときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。図のように持ち、脇をしっかり締めて正しく構えてください。シャッターを静かに押し、シャッターを押し切った瞬間とその直後はカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときはシャッター速度が遅くなるので、注意してください。

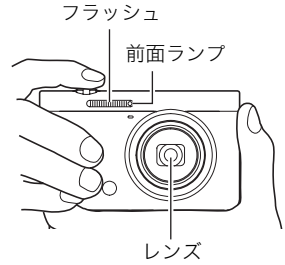
横に持つとき　　**縦に持つとき**



レンズよりフラッシュが上にくるように持ちます。

参考

- 指やストラップが図に示す部分をふさがないようにしてください。
- 誤ってカメラを落とすことのないように、必ずストラップを取り付け、ストラップに指や手首をかけて操作してください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途には使用しないでください。
- “縦画像回転再生”の設定を“入”にして画像を撮影すると、撮影時のカメラの向きに合わせて画像が回転して再生されます(264ページ)。



重要

- フラッシュに指がかかったり、近づきすぎないでください。フラッシュ撮影時、影が写り込んだりする原因になります。

静止画を撮影する

オート撮影モードを設定する

本機には2つのオート撮影モードがあり、目的に応じて切り替えることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
P プログラムオート		一般的なオート撮影モードです。
プレミアムオート PRO		被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影します。 • 撮影に関する設定の変更は制限されます。 • プログラムオートよりも、電池寿命はやや短くなります。

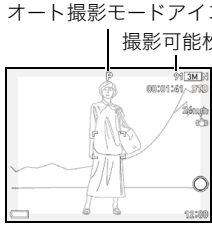
1. 【ON/OFF】(電源)を押して電源を入れる

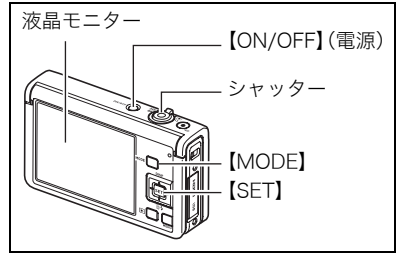
撮影モードになり、カメラが撮影できる状態になります。

• 再生モードになっているときは、シャッターを押してください。

2. 【MODE】を押す

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“P”(プログラムオート)または“🎥”(プレミアムオートPRO)を選び、【SET】を押す**

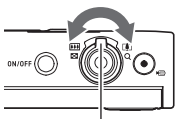




撮影する

1. カメラを被写体に向ける

- プレミアムオート PROで撮影しようとすると、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。
- ズームの倍率を変更できます。



ズームレバー

広角

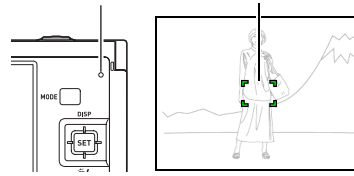
望遠

カメラが三脚に乗って静止していることを検出すると表示されます

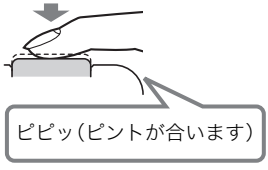
プレミアムオート PROで撮影時に、連写撮影が必要とカメラが判断した場合は、自動的にHSシーン撮影に切り替わり、"HS"が表示されます。HSシーン撮影では連写撮影した画像を合成するので、手ブレや被写体ブレに気をつけて、撮影が完了するまでカメラを動かさないでください。

2. シャッターを半押ししてピントを合わせる

ピントが合うと“ピピッ”と音がして、後面ランプとフォーカスフレームが緑になります。



半押し　軽く押して止まるところまで

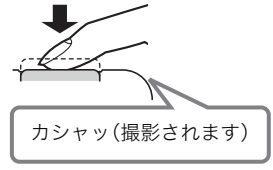


シャッターを半押しすると、カメラを向けている被写体に対して自動的に露出やピントを合わせます。どのくらいの力で押し込むと半押しになるかを覚えるのが、きれいな静止画を撮影するコツです。

3. カメラを固定したままシャッターを最後まで押し込む

静止画が撮影されます。

全押し　最後まで



動画を撮影するには

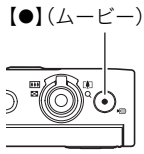
【●】(ムービー)を押すと動画の撮影が開始されます。もう一度【●】(ムービー)を押すと終了します。

詳しくは下記をご覧ください。

標準的な動画(STD動画)→105ページ

高精細な動画(FHD動画)→110ページ

ハイスピード動画(HS動画)→111ページ



■ ピントが合っていないとき

フォーカスフレームが赤のままで、後面ランプが緑に点滅しているときは、ピントが合っていません(被写体との距離が近すぎるときなど)。カメラを被写体に向け直して、ピントを合わせてみてください。

■ オートで撮影するとき

被写体が中央にない場合は

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したい場合は、フォーカスロック(70ページ)を使います。

動く被写体を追いかけてピントを合わせるには

シャッターを半押しすることで、動く被写体を追いかけてピントを合わせることができます("追尾"(155ページ))。

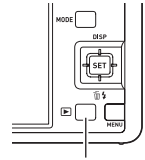
■ プレミアムオート PROで撮影するとき

- プレミアムオート PROでは使用できないメニューがあります(144ページ)。設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。
- シャッター速度、絞り値、ISO感度などに加えて、カメラが次の機能なども自動的に作動させて撮影します。
  - コンティニュアスAF(158ページ)
  - 顔検出(156ページ)
  - HSシーン撮影(53ページ)
- プレミアムオート PROで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- プレミアムオート PROで撮影すると、“プレミアムオート高画質化の処理中です”と表示される場合があります。画像処理時間が気になる場合は、プログラムオートに切り替えて撮影することをおすすめします。
- プレミアムオート PROでは、撮影環境の検出が適切にできない場合があります。その場合は、プログラムオートに切り替えて撮影してください。
- “HS”が表示されたときは連写撮影によって1枚の画像が撮影されます。連写撮影をやめたい場合は、操作パネル(62ページ)の“HSシーン撮影”を“切”に設定してください。
- フラッシュ(75ページ)の設定状態によっては、プレミアムオート PROで検出できる撮影環境が限定されます。

撮影した静止画を見る

撮影した静止画を液晶モニターで見ることができます。

- 動画の再生方法については177ページをご覧ください。
- 連写で撮影した画像については180ページをご覧ください。



【▶】(再生)

1. 電源を入れ、【▶】(再生)を押して、再生モードにする

- 記録されている静止画の1つが液晶モニターに表示されます。
- 表示されている静止画についての情報も表示されます(22ページ)。
- 情報表示を消して、静止画だけを見ることもできます(23ページ)。
- ズームレバーを【[◀)]】側にスライドさせると画像を拡大して表示します(187ページ)。大切な写真を撮影したときは、撮影した画像を拡大表示して画像を確認することをおすすめします。

2. 【◀】【▶】で前後の静止画に切り替える

- 押し続けると、早送りができます。

参考

- 再生モード時やメニュー画面を表示している最中にシャッターを半押しすると、すぐに撮影モードに切り替わります。

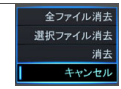
撮影した静止画や動画を消去する

メモリーがいっぱいになっても、撮影した静止画や動画を消去することによりメモリーの残り容量を確保して、また新しい写真撮影ができるようになります。

重要

- 消去したファイルは元に戻せません。
- 連写で撮影した画像については182ページをご覧ください。
- “ SETTING”のメニュー内にある“消去キー”(267ページ)を“無効”に設定すると、【▼】( )(消去)を押しても、消去メニューは表示されません。画像を消去したいときは、“消去キー”を“有効”にしてください。

■ 1ファイルずつ消去する



1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑 ϟ)を押す

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

- 続けて別のファイルを消去する場合は手順2～3を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。
- 連写グループ(180ページ)を表示しているときは、表示中のグループ内にある全画像が消去されます。

■ 選択したファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑 ϟ)を押す

2. 【▲】【▼】で“選択ファイル消去”を選び、【SET】を押す

- 消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに青枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイル左下の□にチェックが入り、青枠が次の画像に移動します。
- □のチェックを外すときは、チェックを外したいファイルに青枠を移動し、【SET】を押してください。
- ズームレバーを【🔍】(🔍)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

4. 手順3を繰り返して、消去したいファイルをすべて選択したら、【MENU】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す
- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順5で“いいえ”を選び、【SET】を押してください。

■ すべてのファイルを消去する

1. 【▶】(再生)を押して再生モードにしたあと、【▼】(🗑ϟ)を押す

2. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す
すべてのファイルが消去され、“ファイルがありません”と表示されます。

静止画撮影時のご注意

操作について

- 後面ランプが緑に点滅しているときに電池カバーを開けないでください。撮影した画像が正しく保存されない、記録されている画像が壊れてしまう、カメラが正常に動作しなくなる、などの原因になります。
- 不要な光がレンズに当たるときは、手でレンズを覆って撮影してください。

撮影時の画面について

- 被写体の明るさにより、液晶モニターの表示の反応が遅くなったり、ノイズが出ることがあります。
- 液晶モニターに表示される被写体の画像は、確認のための画像です。実際は、設定した画質(164ページ)で撮影されます。

蛍光灯の部屋での撮影について

- 蛍光灯のごく微妙なちらつきにより、撮影画像の明るさや色合いが変わることがあります。

その他のご注意

- CMOS撮像素子の特性上、シャッター速度が遅くなるほど、撮影した画像にノイズが目立って発生するようになります。そのため、本機ではシャッター速度が遅くなると自動的にノイズ低減処理を行います。このノイズ低減処理により、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。ノイズ低減処理が行われるシャッター速度は、設定や環境によって異なります。

- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- CMOS撮像素子の原理上、撮影モードによっては、動きの速い被写体が歪むことがあります。

■ オートフォーカスの制限事項

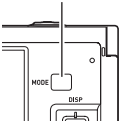
- 次のような被写体に対しては、ピントが正確に合わないことがあります。
  - 階調のない壁など、コントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - AF補助光が届かないほど遠くにある被写体
  - 手ブレをしているとき
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- プログラムオート撮影時にピントが合わない場合は、フォーカスロック(70ページ)やマニュアルフォーカス(69ページ)で撮影してみてください。

静止画を撮影する(応用)

撮影モードを設定する

本機にはさまざまな撮影モードがあります。撮影する前に、被写体に合った撮影モードに設定してください。

【MODE】



1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で使用したい撮影モードを選び、【SET】を押す

プレミアムオート PRO	
	被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影します(48ページ)。
P プログラムオート	
	一般的なオート撮影モードです(48ページ)。

BS ベストショット	
	あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、選んだシーンに合わせてカメラの設定が切り替わります(122ページ)。
ART アートショット	
	見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます(97ページ)。
ART セルフィーアート	
	自分撮りに最適な効果がかかった写真に仕上げることができます(101ページ)。
TL タイムラプス	
	自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を撮影できます(117ページ)。

重要

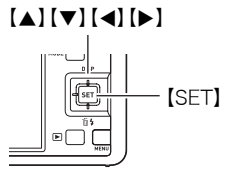
- 露出オーバー、露出アンダー時は、シャッターの半押し時にISO感度とシャッター速度と絞り値が赤色に表示されます。

操作パネルを使う

本機では、操作パネルを使って、撮影に関しての設定を変更することができます。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

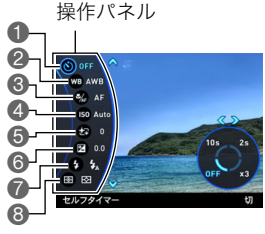
- 【▼】を押して操作パネルを表示させることもできます。



2. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【◀】【▶】で設定したい内容を選ぶ

操作パネルのアイコン部分の設定が可能になります。※

❶セルフタイマー（63ページ）
❷ホワイトバランス（65ページ）
❸フォーカス方式（68ページ）
❹ISO感度（71ページ）
❺メイクアップ（72ページ）
❻露出補正（73ページ）
❼フラッシュ（75ページ）
❽測光方式（78ページ）



※撮影モードによって、項目が変わります。

3. 【SET】を押して決定する

選んだ内容に決定され、撮影モードの画面に戻ります。

参考

- 前記以外に、撮影に関してさまざまな内容の設定を変更することができます（144ページ）。

セルフタイマーを使う（セルフタイマー）

シャッターを押してから一定の時間後にシャッターが切れる（撮影される）ようにすることができます。

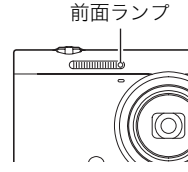
1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“”（セルフタイマー）を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
10s 10秒	10s	10秒後に撮影されます。
2s 2秒	2s	2秒後に撮影されます。シャッター速度が遅くなる条件下で撮影するときに使うと、手ブレ防止ができます。
x3 x3（トリプルセルフタイマー）	x3	10秒後に1枚、その後撮影準備完了ごとに2枚の合計3枚撮影されます。撮影準備ができるまでの時間は、画像サイズ、画質の設定やメモリーカードの有無、フラッシュの充電状態によって異なります。
OFF 切	なし	セルフタイマー撮影は行いません。

- 設定した時間をカウントしている最中は前面ランプが点滅します。
- カウントダウン中に【SET】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。



参考

- セルフタイマーが使用できない撮影機能
  高速連写でパスト連写を行っているとき、パストムービー、スライドパノラマ、ワイドショット、トリプルショット
- トリプルセルフタイマーのみが使用できない撮影機能
  動画撮影、タイムラプス、高速連写、プレミアムズーム、HSナイトショット、背景ぼかし、全焦点マクロ

色合いを調整する(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写る、または白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写るなどの現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整します。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“WB”(ホワイトバランス)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
AWB **オートWB**	なし	自動的にホワイトバランスを調整
太陽光		晴天時の野外での撮影用
曇天		薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰		晴天時のビルや木の陰などの撮影用
昼白色蛍光灯		白色･昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
昼光色蛍光灯		昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球		電球の雰囲気を消した撮影用

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
MWB マニュアル WB	MWB	さまざまな光源下で適正な色に手動で調整することができます。 ①“マニュアルWB”を選ぶ ②撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す ③【SET】を押す 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されます。

- “AWBオートWB”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。この場合は、太陽光、曇天などの撮影条件を指定してください。

ピントの合わせ方を変える(フォーカス方式)

- メイクアップ(72ページ)および顔検出機能(156ページ)を“切”にしないと、オートフォーカス以外のフォーカス方式に設定することはできません。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“%”(フォーカス方式)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	用途	ピントの合わせかた		ピントが合う距離※1	
			静止画	動画	静止画	動画
AF AF(オートフォーカス)	なし	一般的な撮影	自動	自動※3	約5cm～∞(無限遠)(W端)※2	
マクロ		近くのものを撮影			約5cm～約50cm(W端)※2	
MF MF(マニュアルフォーカス)	MF	手動でピントを合わせたい場合	手動		約5cm～∞(無限遠)(W端)※2	

※1 ピントが合う距離はレンズ表面からの距離です。
※2 ピントが合う距離は光学ズームの位置で変わります。

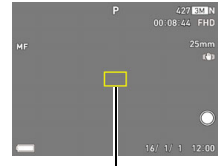
※3 ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、“MF”(マニュアルフォーカス)でピントを合わせてから撮影してください。

マニュアルフォーカス時のピント合わせ方法

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】(近く)【▶】(遠く)でピントを合わせる

- このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。



ピント合わせの黄色枠

参考

- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- AF(オートフォーカス)/マクロ/MF(マニュアルフォーカス)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。オートフォーカスのときのみオートマクロの範囲を含んだ距離の範囲を表示します。
  例:○○※cm - ∞
  ※ ○○には数字が入ります。

• マニュアルフォーカスを選択しているとき、“左右キー”で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(150ページ)。

フォーカスロックについて

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックを使います。

• AFエリアは、“[·]スポット”または“[ ]追尾”にしておきます(154ページ)。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

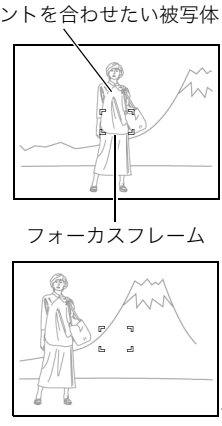
2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図にカメラを動かす

• AFエリアを“[ ]追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。

3. シャッターを最後まで押し込む

参考

• フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。



ISO感度を変える(ISO感度)

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“ISO”(ISO感度)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容		
Auto(オート)	なし	撮影条件により自動調整します。		
ISO 80	ISO 80	感度が低い	シャッター速度が遅い	なめらかに撮れる（ノイズが減る）
ISO 100	ISO 100	↑	↑	↑
ISO 200	ISO 200	↑	↑	↑
ISO 400	ISO 400	↑	↑	↑
ISO 800	ISO 800	↑	↑	↑
ISO 1600	ISO 1600	↑	↓	↓
ISO 3200	ISO 3200	感度が高い	シャッター速度が速い（暗い場所での撮影向き）	多少ざらつく（ノイズが増える）

参考

- “Auto(オート)”設定時のみ被写体ブレ補正(159ページ)が働きます。
- ISO感度を高い値に設定すると、ノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間が長くなります。その間はキー操作を行わないでください。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

人物の肌の色味や肌質を調整したり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影することができます。メイクアップ機能は、以下の撮影モードで使用できます。

- プログラムオート
- プレミアムオート PRO
- 一部のベストショットシーン

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“”(メイクアップ設定)を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“肌の色”または“肌のなめらかさ”を選び、【◀】【▶】で値を変更する

肌の色	肌の色味を褐色+6～0(切)～美白+6で調整します。
肌のなめらかさ	肌質を0(切)～+12(強)で調整できます。

4. 【SET】を押す

5. 撮影する

参考

- “肌の色”または“肌のなめらかさ”のレベルを“0(切)”以外にすると、以下の設定になります。
  - 顔検出:“入”
  - フォーカス方式:“AF”(オートフォーカス)
- 下記の機能では、メイクアップを使用できません。
  ベストショット撮影の一部、アートショット、高速連写、タイムラプス

明るさを補正する(露出補正)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。

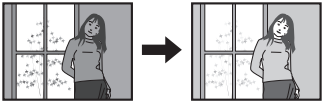
- 露出補正値:−2.0EV〜+2.0EV
- 補正単位:1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す

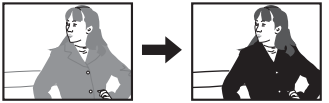
2. 【▲】【▼】で操作パネルの“㊢”(露出補正)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で露出補正値を選ぶ

【▶】：＋方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。



【◀】：－方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。次に露出補正を変えるまで、設定した露出補正値で撮影できます。ただし、電源を切ると設定は“0.0”に戻ります。

露出補正値

参考

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

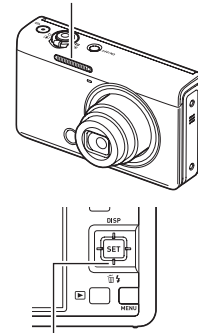
フラッシュを使う(フラッシュ)

1. 撮影モードで【▼】(🗑ϟ)を1回押す

2. 【◀】【▶】で発光方法を選び、【SET】を押す

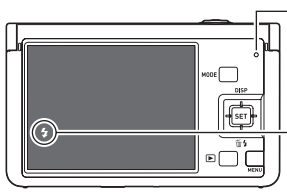
設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
フラッシュオート	なし	露出(光の量や明るさ)に応じて自動的に発光します。
発光禁止		常に発光しません。
強制発光		常に発光します。日中、逆光で被写体が暗く写るときに設定すると、明るく撮影できます(日中シンクロ撮影)。
赤目軽減		自動的に発光します。人の目が赤く写る現象を軽減できます。

フラッシュ



【▼】(🗑ϟ)

3. シャッターを押して撮影する



後面ランプ
フラッシュ充電中はオレンジ色に点滅します。
- 充電が完了してオレンジ色の点滅が消えるまでは、次のフラッシュ撮影はできません。

フラッシュ発光時は“ ”を表示

- フラッシュが届く範囲については、324ページをご覧ください。

重要

- フラッシュの発光面が汚れている場合、汚れがフラッシュの光に反応し、多少、煙や異臭が発生する場合がありますが故障ではありません。フラッシュの発光面に手の脂などの汚れが残ると落としにくくなりますので、こまめに乾いた柔らかい布などで、軽く拭き取ってください。

参考

- フラッシュが指やストラップで隠れないようにしてください。
- 被写体までの距離が遠すぎたり近すぎたりすると、適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間(325ページ)は、使用条件(電池の状態や周囲の温度など)により異なります。
- 暗い場所でフラッシュを発光禁止にして撮影すると、シャッター速度が遅くなり、手ブレの原因になります。この場合、カメラを三脚などで固定してください。
- 赤目軽減機能では、フラッシュは露出に合わせて自動的に発光します。明るい場所では発光しません。
- 外光や蛍光灯など他の光源があると、色味が変わることがあります。
- フラッシュ撮影が禁止されている場所では指示に従い、フラッシュを"⊘"(発光禁止)に設定してください。

赤目軽減について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写される人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)をすることにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す

2. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”(測光方式)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で測光方式を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
マルチ	なし	画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出で撮影できます。
中央重点		中央部を重点的に測光します。自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。
スポット		センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

ズーム撮影する

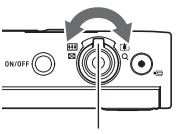
本機のズームには光学ズーム、HDズーム、超解像ズーム（シングル超解像ズーム）、プレミアムズーム（マルチ超解像ズーム）、デジタルズームがあります。最大倍率は画像サイズ、デジタルズーム入/切の設定によって異なります。

光学ズーム	レンズの焦点距離を変える方式で、画質の劣化はありません。
HDズーム	切り出した画像を拡大することなくズームアップ効果を得る方式で、画質の劣化はありません。
超解像ズーム（シングル超解像ズーム）	シングル超解像技術により画質の劣化を抑える方式（84ページ）です。
プレミアムズーム（マルチ超解像ズーム）	高速連写撮影を行い、画像を合成することで、画質の劣化を抑える方式です。ベストショットモードの“プレミアムズーム”を選んだときのみ、プレミアムズームが有効になります（85ページ）。
デジタルズーム	画像中央をデジタル処理で拡大する方式で、画質の劣化が起こります。

1. 撮影モードにして、ズームレバーをスライドさせる

広角

望遠



ズームレバー

【広角】：被写体が小さくなり、写る範囲が広くなります。
【望遠】：被写体が大きくなり、写る範囲が狭くなります。

2. シャッターを押して撮影する

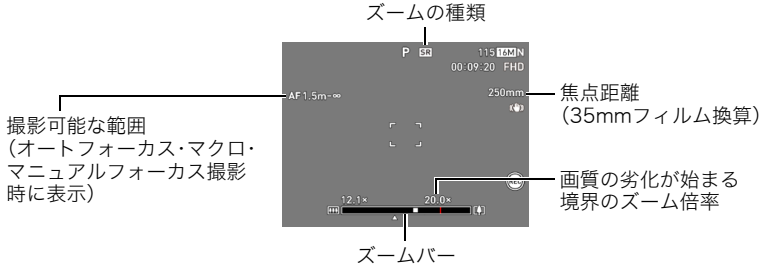
参考

- 望遠で撮影するときは、手ブレがおきやすくなるため三脚の使用をおすすめします。
- 光学ズームを働かせると、レンズの絞り値が変わります。
- 動画撮影中もズームの操作ができます。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 下記の撮影では、ズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
  スライドパノラマ、ワイドショット、全焦点マクロ

ズーム時の画面表示について

ズーム操作時にはズームについてさまざまな情報が表示されます。

■ ズームの種類を示すアイコン



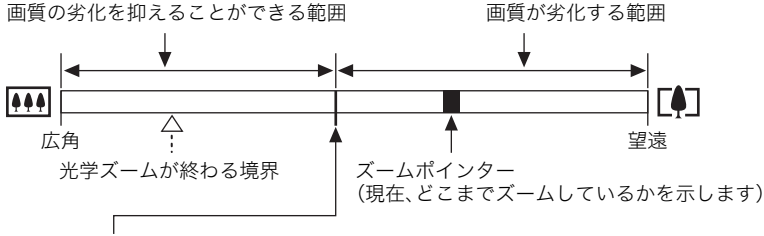
ズーム倍率によって画面上に表示されるズームの種類を示すアイコンが変化します。

ズームの種類	画面に表示されるアイコン
光学ズーム	なし
HDズーム	なし
超解像ズーム(シングル超解像ズーム)	SR(白)

ズームの種類	画面に表示されるアイコン
プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)	SR(黒)
デジタルズーム	

■ ズームバーの見かた

ズーム中は、ズームバーでおおよその倍率が確認できます。



- 画像サイズ、超解像ズームの設定やプレミアムズームの使用の有無によって境界の位置が変わります。

■ ズーム倍率について

デジタルズームの倍率は画像サイズ(161ページ)、超解像ズームの設定、“プレミアムズーム”の使用の有無(85ページ)によって異なります。

- ベストショットモードの“プレミアムズーム”を選んだときのみ、プレミアムズームが有効になります。

画像サイズ	光学ズーム	画質の劣化を抑えることができる最大倍率		総合最大倍率(デジタルズーム併用時)
		超解像ズーム:切(HDズーム)	プレミアムズーム 超解像ズーム:シングル	
16M	10.0倍	10.0倍	20.0倍	40.0倍
3:2	10.0倍	10.0倍	20.0倍	40.0倍
16:9	10.0倍	10.0倍	20.0倍	40.0倍
10M	10.0倍	12.6倍	25.3倍	50.5倍
3M	10.0倍	22.5倍	45.0倍	89.8倍

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

超解像ズームには“シングル超解像ズーム”と“プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム)”があります。シングル超解像ズームは、超解像技術により、画質の劣化を最小限に抑えながらズームの範囲を広げることができます。プレミアムズームは、高速連写撮影を行い、画像を合成することで、解像感のある高品位な画質のままズームの範囲を広げることができます。超解像ズームが有効な倍率の範囲については83ページをご覧ください。ここでは、シングル超解像ズームの設定方法を説明します。プレミアムズームについては85ページをご覧ください。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“超解像ズーム”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“シングル”(シングル超解像ズーム)を選び、【SET】を押す

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- 動画撮影時は機能しません。
- 下記の機能では、超解像ズーム(シングル超解像ズーム)は使用できません。
  トリプルセルフタイマー、アートショット、セルフィーアート、プレミアムズーム、タイムラプス、トリプルショット、ベストショット撮影の一部

ズーム領域を拡大し解像感を高めた写真を撮影する(プレミアムズーム)

マルチ超解像技術の応用と連写した複数枚の画像を用いることにより、ズーム領域を拡大し、画像全体の解像感をさらに高めた画像を撮影することができます(プレミアムズーム(マルチ超解像ズーム))。

1. ベストショットモードで“プレミアムズーム”を選ぶ(122ページ)

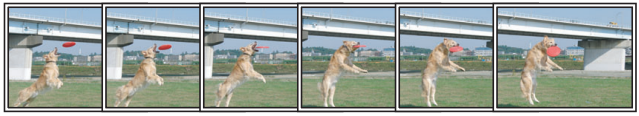
2. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能はきめ細かい模様などを撮影するときに効果があります。
- この機能での撮影では、下記の機能は使用できません。
  超解像ズーム、トリプルセルフタイマー、シャープネス、コントラスト
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ関連機能(159ページ)が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- 撮影する環境や構図によっては、十分な効果が得られない場合があります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”(71ページ)は“ISO3200”に設定することはできません。

何枚も連続して撮影する(連写モード)

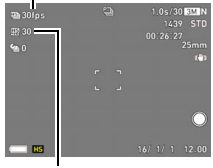
高速連写で撮影する



シャッターを押している間、連続撮影されます。
設定できる撮影速度と1回の撮影で記録できる画像枚数は、以下のとおりです。

撮影速度(高速連写fps)	3枚/秒(3fps)、5枚/秒(5fps)、10枚/秒(10fps)、15枚/秒(15fps)、30枚/秒(30fps)
最大連写枚数	5枚、10枚、20枚、30枚

撮影速度



最大連写枚数

1. 撮影モードをプログラムオートにする(60ページ)

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“高速連写”を選び、【SET】を押す
撮影画面の撮影モードのアイコン表示が“ ”になります。

6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”（高速連写fps）を選ぶ

8. 【◀】【▶】で連写の速度を選ぶ
- 被写体の動きが速いときは、“高速連写fps”を上げてください。

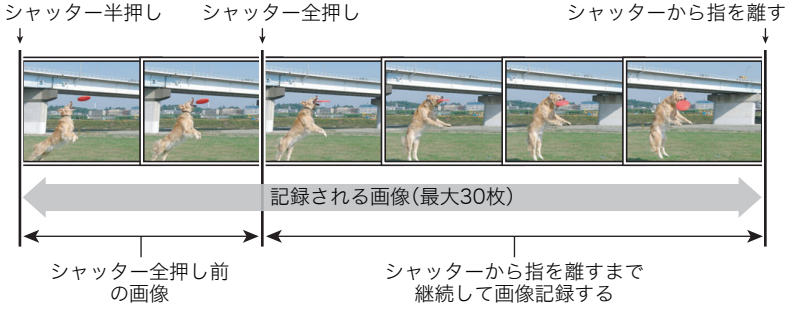
9. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”（最大連写枚数）を選ぶ

10. 【◀】【▶】で記録する最大枚数を選び、【SET】を押す

11. シャッターを全押しし続ける
シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

パスト連写で撮影する

シャッターを半押ししている間、常に静止画を一時的に記録することができるので、シャッターを全押しする前の画像を撮影することができます。決定的シーンの撮り逃しを防ぐのに利用できます。



1. 撮影モードをプログラムオートにする(60ページ)

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“高速連写”を選び、【SET】を押す
撮影画面の撮影モードのアイコン表示が“ ”になります。

6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”（高速連写fps）を選ぶ

8. 【◀】【▶】で連写の速度を選ぶ
- 被写体の動きが速いときは、“高速連写fps”を上げてください。

9. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”（最大連写枚数）を選ぶ

10. 【◀】【▶】で記録する最大枚数を選ぶ

11. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”（パスト連写枚数）を選ぶ

12. 【◀】【▶】でシャッター全押し前の連写枚数を選び、【SET】を押す
- “0枚”、“3枚”、“5枚”、“10枚”、“15枚”、“20枚”、“25枚”から選ぶことができます。
- “0枚”を選ぶと、シャッター半押し中の画像は保存されません。

13. シャッターを半押しして、パスト連写を開始する

シャッターを半押し中は、一時的にシャッター全押し前までの画像を設定枚数分繰り返し記憶します。

- シャッター半押し中は、シャッター音は出ません。
- シャッターの半押しをやめると、それまでに記録した画像は消去されます。

14. シャッターを全押しし続ける

シャッターを全押しすると、全押しする直前からの画像とシャッターを全押ししていたときの画像を記録します。シャッターを押し続けている間、または“高速連写fps”で設定した枚数が撮影されるまで連続撮影されます。

参考

- 連写枚数が多いほど、撮影後の保存に時間がかかります。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないでください。
- 連写中はズーム操作はできません。
- この機能での撮影では、静止画の画質が自動的に“標準-N”となります。
- この機能での撮影では、露出／フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”（発光禁止）となります。
- この機能での撮影では、画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“16M”で撮影されます。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
  モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム
- 連写撮影時は、一部の機能の設定項目がグレーで表示され、選ぶことができなくなります。
- パスト連写ではセルフタイマー機能が使用できません。

• “フロントシャッター”(148ページ)に“連写モード”を割り当てると、フロントシャッターを押すだけで、高速連写モードに切り替えることができます。

オートフォーカスしながら連写撮影する(AF連写)

被写体に常にピントを合わせながら、最大30枚連写します。動きの速い子どもを撮影するときなどに便利です。連写速度は、撮影環境に合わせて自動で1秒間に3〜6枚に設定されます。

1. 撮影モードをプログラムオートにする(60ページ)

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“連写モード”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“AF連写”を選び、【SET】を押す
撮影画面の撮影モードのアイコン表示が“ ”になります。

6. シャッターを全押しし続ける
シャッターを押し続けている間、最大で30枚連続撮影されます。

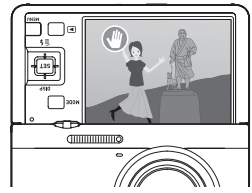
参考

- 連写中は、ズーム操作はできません。
- この機能での撮影では、画像サイズを“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“16M”で撮影されます。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
  モーションシャッター、トリプルセルフタイマー、超解像ズーム
- この機能での撮影では、以下の設定に固定されます。

静止画画質	標準-N
フラッシュ	発光禁止
フォーカス方式	AF
AFエリア	スポット

被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす（モーションシャッター）

液晶モニターで設定したアイコン付近でカメラが動きを感知すると、自動でセルフタイマーのカウントが始まり撮影できます。離れた場所から手を振ったりしてセルフタイマーを操作することができるので、自分撮りをするときに便利です。



1. 撮影モードをプログラムオート、プレミアムオートPRO、ベストショットの“メイクアップ”に設定する

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“モーションシャッター”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“モーション設定”を選び、【SET】を押す

6. 【▲】【▼】で“常時”または“180度のみ”を選び、【SET】を押す

- “180度のみ”を選んだ場合は手順7に進んでください。“常時”を選んだ場合は、モーションシャッターが起動します。手順8に進んでください。

7. 手順6で“180度のみ”を選んだ場合は、カメラの液晶モニターを180度開く（27ページ）

モーションシャッターが起動します。

8. 静止画を撮影する場合はシャッターを、動画の場合は【●】（ムービー）を押す

- シャッターまたは【●】（ムービー）を押してから約3秒後に撮影待機状態になります。撮影待機状態になると、セルフタイマー起動アイコン“”が点滅から青表示に変わります。

9. カメラに向かって手を振るなどして、セルフタイマー起動アイコン“”付近で動く

設定したアイコン付近で被写体の動きを感知すると、設定したタイミングで撮影されます。

- 動画の撮影をやめるには、再度【●】（ムービー）を押してください。

参考

- 静止画撮影後は、撮影待機状態に戻ります。以下のいずれかを操作すると、撮影が終了します。
  - モーションシャッターでの静止画撮影を30回繰り返す
  - 撮影待機状態のときにシャッターを押す
  - 液晶モニターを開閉する
  - カメラを回転する
- アイコン付近の背景と被写体の色の差が少ないときや、被写体が離れすぎて小さいときは、正常に撮影できない場合があります。
- 静止画を撮影すると、撮影レビューアイコン“▶”が表示されます。“▶”アイコン付近で動きを感知すると、撮影した画像が3秒間表示されます。
- この機能での撮影では、AFエリアを“追尾”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“スポット”で撮影されます。
- モーションシャッターで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する（スチルインムービー）ことはできません。

モーションシャッターの設定を変更する(モーションシャッター)

モーションシャッターの設定を変更できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“モーションシャッター”を選び、【▶】を押す

4. モーションシャッターの設定を変更する

設定項目	設定内容
モーション設定	モーションシャッターを起動する動作を設定します。 常時: 液晶モニターの開閉状態に関係なく、常にモーションシャッターが起動します。 180度のみ: 液晶モニターを180度開いた状態のとき、モーションシャッターが起動します。 切: モーションシャッターは動作しません。
タイマー設定	カメラが動きを感知してから撮影されるまでの時間を設定します。 0.5秒、1秒、2秒、10秒から選ぶことができます。
モーション位置	セルフタイマー起動アイコン“ ”と撮影レビューアイコン“ ”の位置を変更します。 【▲】【▼】【◀】【▶】:アイコンを移動します。 【MODE】:移動するアイコンを切り替えます。

いろいろな作風で撮影する(アートショット)

見慣れた被写体でも、普段と変わった印象的な写真に仕上げることができます。

シーン	内容
HDRアート	HDR合成(131ページ)を応用し、従来の写真表現を超えた作品が作れます。
トイカメラ	周辺を暗くして、色合いを変えてトイカメラ風に仕上げます。
ソフトフォーカス	全体をぼかし、やわらかく幻想的に仕上げます。
ライトトーン	コントラストを弱めに、上品で落ち着いた雰囲気に仕上げます。
ポップ	彩度を強調し、色彩豊かに仕上げます。
セピア	セピアカラーにして、レトロ風に仕上げます。
モノクロ	コントラストを強調し、粒状感をつけ、印象的に仕上げます。
ミニチュア	一部をぼかし、ミニチュアの模型のように仕上げます。
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような、ユーモラスな作風に仕上げます。
トゥインクルショット	やわらかい雰囲気にして、光の点をキラキラ輝かせます。
宙玉(そらたま)	宙に浮かぶ玉に写り込ませた様な、幻想的な作風に仕上げます。
アートショットブラケティング	1回のシャッターでHDRアート、トイカメラ、モノクロ、宙玉の撮影をします。また同時に、先頭にアート効果がない状態(プログラムオートで撮影)の画像も保存します。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ART”(アートショット)を選び、【SET】を押す
アートショットのシーン一覧が表示されます。

3. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す
- 別のシーンを選び直すときは、下記の操作を行ってください。
  - 手順1からの操作を繰り返す
  - 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“ART”を選んで【SET】を押したあと、シーンを選ぶ

4. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの上から5番目の項目を選ぶ
選んだシーンの効果の強弱等が設定できます。

シーン	調節内容
HDRアート	効果の強さ
トイカメラ	色合い
ソフトフォーカス	効果の強さ
ライトトーン	色合い
ポップ	効果の強さ
セピア	効果の強さ
モノクロ	効果の強さ
ミニチュア	ピントが合う位置

シーン	調節内容
フィッシュアイ	効果の強さ
トゥインクルショット	効果の種類
宙玉(そらたま)	効果の種類

- アートショットブラケティングを選んだ場合、4種類のシーンの効果はシーンごとに現在設定されているレベルで撮影されます。効果の強弱を変えたい場合は、変更したいシーンを選んで、手順4の操作で効果を変更してください。

5. 【◀】【▶】で効果を設定し、【SET】を押す

6. シャッターを押して撮影する

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】

参考

- アートショットのシーンによっては、使用できないメニュー項目があります。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- “トゥインクルショット”および“アートショットブラケティング”では、動画撮影はできません。
- “アートショットブラケティング”で撮影すると、画像の保存が終了するまで、次の撮影はできません。
- “動画画質”の設定は“HD”または“STD”のみとなります（165ページ）。他のモードで“STD”以外に設定されていた場合は、“HD”で撮影されます。
- “HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。
- アートショットのシーンで撮影した画像は、アート効果がない状態の画像に変換できません。

HDRアートでの撮影で効果なしの画像も同時に保存する（ダブル保存（HDRアート））

HDRアートで撮影したとき、HDRアート画像と同時に、アート効果がない状態（プログラムオートで撮影）の画像も保存できます。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ART”（アートショット）を選び、【SET】を押す

3. 【MENU】を押す

4. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“ダブル保存（HDRアート）”を選び、【▶】を押す

6. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

“切”を選ぶと、HDRアート画像のみが保存されます。

7. シャッターを押して撮影する

参考

- HDRアート以外のアートショットのシーンで撮影したとき、アート効果がない状態の画像を同時に保存することはできません。

自分撮りで個性的な画像を撮影する（セルフィーアート）

自分撮りに最適な効果がかかった写真に仕上げることができます。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ART”（セルフィーアート）を選び、【SET】を押す

3. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“ART”（セルフィーアート）を選んで【SET】を押す

セルフィーアートのシーン一覧が表示されます。

4. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

5. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、以下の設定に固定されます。

ISO感度	Auto
フォーカス方式	AF
AFエリア	スポット
顔検出	入
超解像ズーム	切

タイマーを使って自分撮りをする(セルフィータイマー)

自分撮りに便利なタイマー(セルフィータイマー)を起動して、静止画を撮影します。セルフィータイマーは、2秒～5秒で設定できます。

- セルフィータイマーを使うには、フロントシャッターにセルフィータイマーの機能を割り当てる必要があります。

フロントシャッターにセルフィータイマーの機能を割り当てる

1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フロントシャッター”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

設定項目	撮影画像 アイコン表示	設定内容
セルフィー タイマー		カウントダウン後、1回撮影します。
×3セルフィー タイマー		カウントダウン後に1枚、その後2秒ごとに2枚の 合計3枚撮影します。

セルフィータイマーを使って自分撮りをする

1. カメラの液晶モニターを180度開く（27ページ）

2. フロントシャッターを押し続けて、セルフィータイマーの時間を設定する

- セルフィータイマーは2秒～5秒に設定できます。フロントシャッターを押している時間が長いほど、セルフィータイマーの時間は長くなります。

3. フロントシャッターから指を離す

セルフィータイマーのカウントが始まり、カウントが0になると撮影します。

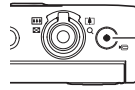
参考

- 一部のシーン撮影では、この機能は使用できません。
- 動画撮影時は、セルフィータイマーを使用できません。
- モーションシャッターが起動しているときは、セルフィータイマーで撮影できません。フロントシャッターを押すとモーションシャッターで撮影されます。

動画を撮影する

動画を撮影する

ここでは、標準的な動画(STD動画)の撮影方法を説明します。
本機はプレミアムオート PRO(107ページ)での動画撮影に対応しています。他の動画撮影については下記をご覧ください。
高精細な動画(FHD動画)→110ページ
ハイスピード動画(HS動画)→111ページ



1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“**P**”(プログラムオート)または“iP”(プレミアムオート PRO)を選び、【SET】を押す

3. 【MENU】を押す

4. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

6. 【▲】【▼】で“STD”(スタンダード)を選び、【SET】を押す

- 画像サイズが640×480 pixels、フレームレートが30フレーム／秒で撮影されます(STD動画)。画像サイズの変更はできません。
- 動画で撮影できる範囲は、静止画よりも狭くなります。動画の撮影範囲は、“アシスト表示”(173ページ)で表示させることができます。

7. 【●】(ムービー)を押す

撮影が開始され、液晶モニターに“●REC”が表示されます。
撮影中は音声(モノラル)も録音されます。

- 動画撮影中に【SET】を押すと、再度コンティニュアスAF(158ページ)が動作します。

8. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- 撮影可能な動画は、1ファイル最長29分間です。29分を超えると自動的に撮影は終了します。また、撮影中に【●】(ムービー)を押すと、撮影は途中で終了します。

プレミアムオート PROを利用した動画撮影

プレミアムオート PROに設定した状態(48ページ)で撮影すると、被写体や撮影環境などをカメラが自動的に判断し、プログラムオートよりも高画質で撮影することができます。撮影時には、カメラが検出した撮影環境が画面の下に表示されます。

- FHD動画とSTD動画の撮影のみで有効です。
- プログラムオートでの動画撮影よりも電池寿命はやや短くなります。

ベストショットを利用した動画撮影

ベストショット(122ページ)を利用して、カメラが提案するシーンを選ぶだけできれいな動画を撮影できます(一部のシーンでは動画撮影できません)。

動画撮影時の手ブレ軽減

FHD動画、STD動画(HDRアート動画を除く)では、手ブレを軽減しながら動画撮影することができます(159ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。

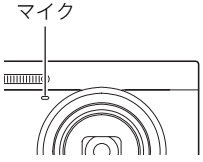
音声について

撮影中は音声(モノラル)もマイクで録音されます。

- 本機では、動画撮影時の風の音を低減する機能(風音低減)を搭載しています(171ページ)。

■ 録音時のご注意

- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などでマイクをふさがないでください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にズーム操作を行うと、ズームやオートフォーカスの動作音が録音されることがあります。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が録音されることがあります。



- 動画画質が“HS”の場合は、フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

重要

- 動画を長時間撮影した場合、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。また、本体の発熱を抑えるため、液晶モニターの明るさ設定が変わることがあります。

- 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。また、内部温度の上昇により動画撮影の途中で強制的に動画撮影が終了する場合があります。その場合は本機の温度が下がってから動画撮影を行うようにしてください。
- 内蔵メモリー使用時やメモリーカードの種類によっては、処理速度が遅くなる場合があります。特に高品位の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、"●REC"が黄色になります。

参考

- 動画撮影中もズームの操作ができます(79ページ)。ただし、ハイスピード動画撮影中はズーム操作はできません。ハイスピード動画撮影でズームを使いたいときは、【●】(ムービー)を押す前にズーム操作をしてください。
- 動画撮影時は超解像ズーム、プレミアムズームは無効です(84、85ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- "フォーカス方式"を"AF"(オートフォーカス)または"マクロ"にした場合、動画撮影中(ハイスピード動画を除く)は常時"コンティニュアスAF"が動作します(158ページ)。
- 動画(FHD、STD、ハイスピード)撮影中は、顔検出機能は無効となります。ただし、プレミアムオートPROの動画(FHD、STD)撮影中は、顔検出機能は動作します。
- 下記の機能では動画撮影はできません。
  トリプルショット、プレミアムズーム、ベストショット撮影の一部

高精細な動画を撮影する

本機は高精細な動画(FHD動画)が撮影できます。この動画はアスペクト比が16:9、画像サイズが1920×1080 pixels、フレームレートが30フレーム／秒になります。画質、画像サイズの変更はできません。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“**P**”(プログラムオート)または“📷”(プレミアムオートPRO)を選び、【SET】を押す

3. 【MENU】を押す

4. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

6. 【▲】【▼】で“FHD”を選び、【SET】を押す

7. 通常の動画撮影と同様に撮影する(105ページ)
【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

ハイスピード動画を撮影する

本機では最高1000コマ／秒のハイスピード動画が撮影できます。動画のアスペクト比はフレームレート（動画の撮影速度）によって異なります。

- フレームレートが“30-120fps”または“30-240fps”の場合に限り、30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。これ以外のフレームレートでは録音されません。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“P”（プログラムオート）を選び、【SET】を押す

3. 【MENU】を押す

4. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“📷 REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

6. 【▲】【▼】で撮影速度(フレームレート)を選び、【SET】を押す

フレームレートを速く(1000fps)すると画像サイズが小さくなります。

動画画質	撮影画面のアイコン表示	撮影速度(フレームレート)	画像サイズ(pixels)
HS1000	HS 1000	1000fps	224×64
HS480	HS 480	480fps	224×160
HS240	HS 240	240fps	512×384
HS120	HS 120	120fps	640×480
HS30-240	HS30 240	30-240fps	512×384
HS30-120	HS30 120	30-120fps	640×480

- fps(frame per second)は1秒間あたりの画像の数を示す単位です。

7. 通常の動画撮影と同様に撮影する(105ページ)

【●】(ムービー)を押すと撮影が開始し、再度押すと終了します。

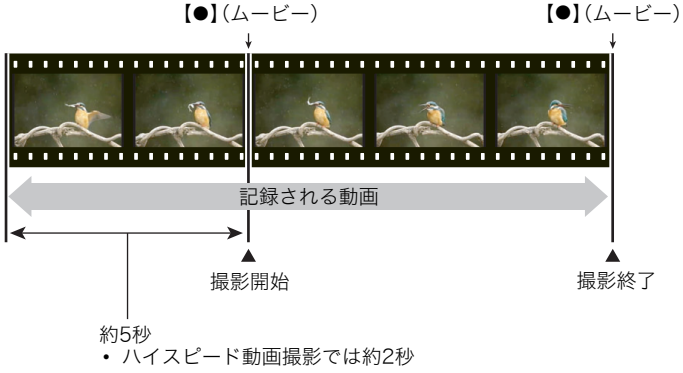
- ハイスピード動画(HS120、HS240、HS480、HS1000時)の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影を始める前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
- "HS30-120"または"HS30-240"の30fpsでの撮影時はコンティニュアスAFが動作しますが、120fpsまたは240fpsに切り替わったときはその時点でフォーカス位置が固定されます。
- "HS30-120"または"HS30-240"の撮影では、撮影前は30fpsに固定されます。撮影中のみ30fpsと120fps、または30fpsと240fpsのスピードに切り替えが可能です。スピードの調節は、【◀】【▶】または【SET】を押して切り替えてください。30fpsでの撮影中のみ音声が録音されます。

参考

- 撮影速度(フレームレート)が高くなるほど、撮影時の周囲の明るさが必要になります。ハイスピード動画撮影時は明るい環境で撮影してください。
- 動画の種類によっては、撮影中の画面が狭くなります。ハイスピード動画の撮影時は画面の上下左右に黒い帯が入ります。
- ハイスピード動画では光源フリッカ(ちらつき)が横帯として写ることがあります。
- ハイスピード動画撮影時は、液晶モニターの表示内容の切り替えはできません。

撮影開始前のシーンも動画に記録する(パストムービー)

撮影開始の約5秒前(ハイスピード動画時は約2秒前)から動画を記録することができ、決定的シーンの撮り逃しを防ぐことができます。



■ パストムービーの準備をする

1. 撮影モードを“BS”(ベストショット)にする(60ページ)

2. 【MENU】を押す

3. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブを選んで【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“動画画質”を選び、【▶】を押す

5. 【▲】【▼】で撮影したい動画画質を選び、【SET】を押す

6. 【SET】を押す

7. 【▲】【▼】で操作パネルの“ ”を選び、【SET】を押す

8. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押す
液晶モニターに“ ”(パストムービー)が表示されます。

■ パストムービーを撮影する

1. カメラを被写体に向け、【●】(ムービー)を押して撮影を開始する

【●】(ムービー)を押す約5秒前(ハイスピード動画撮影時は約2秒前)から動画の撮影が始まっています。

2. もう一度【●】(ムービー)を押して撮影を終了する

- パストムービー撮影をやめ、静止画撮影状態に戻るには、【MODE】を押して、"**P**"(プログラムオート)または"iP"(プレミアムオート PRO)を選んでください。
- ハイスピード動画撮影の"HS30-120"または"HS30-240"でのパストムービー撮影では、過去の動画撮影記録時は、fpsの切り替えができません。【●】(ムービー)を押したあとは、fpsの切り替えができます。

参考

- パストムービーで動画撮影を開始する前は、シャッターを押しても、静止画撮影はできません。動画撮影中は静止画の撮影ができます(FHD動画/STD動画の場合のみ)。

タイムラプス動画を撮影する(タイムラプス)

自然の移り変わりや街の流れをまるで早送りしているかのように見える動画を作成できます。

- カメラを三脚に固定して撮影することをおすすめします。
- 撮影中の電池切れを防ぐため、十分に充電された電池を使用してください。
- 撮影時は、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- ピントは撮影開始時に固定されます。
- 明るさ、ホワイトバランスはシーンによっては撮影開始時に固定されます。

1. 撮影モードにして【MODE】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“TL”(タイムラプス)を選び、【SET】を押す

タイムラプスのシーン一覧が表示されます。

3. 用途に合ったシーンを選び、【SET】を押す

- 別のシーンを選び直すときは、下記の操作を行ってください。
  - 手順1からの操作を繰り返す
  - 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“TL”を選んで【SET】を押したあと、シーンを選ぶ

4. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“⚙”(タイムラプス設定)を選んで【SET】を押す

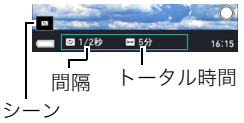
5. 【▲】【▼】で“間隔”または“トータル時間”を選んで【▶】を押したあと、【▲】【▼】で値を設定する

各シーンにはシーンに合った“間隔”と“トータル時間”があらかじめ設定されています。必要に応じて設定を変更することができます。

間隔	何秒ごとに撮影するかを決めます。
トータル時間	撮影時間を決めます。“OFF”を選んだ場合は、撮影中に再度シャッターを押すまで撮影が続きます。

6. 【SET】を押す

- タイムラプスの設定内容は画面下部に表示されます。



7. シャッターを押し、撮影を開始する

- 手順5で設定した撮影間隔ごとに撮影を繰り返します。
- 手順5で設定した撮影時間が経過する、または再度シャッターを押すと、撮影が終了します。
- 残りの撮影時間は、“トータル時間”が“OFF”の場合は表示されません。

参考

- タイムラプスでの撮影中は“スリープ”(265ページ)の設定に従って液晶モニターが消えますが、消したくない場合は“スリープ”を“切”に設定してください。ただし電池寿命は短くなります。
- “スリープ”(265ページ)を設定した場合は、撮影中に一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消えますが、撮影は継続しています。このとき、後面ランプが点滅します。液晶モニターの表示が消えているときにカメラを操作すると、表示が元に戻ります。ただし、以下の操作ではカメラの表示は元に戻りません。
  – 【ON/OFF】(電源)を押す
  – シャッターを全押しする
- タイムラプスでの撮影中は、オートパワーオフ機能は無効となります(266ページ)。
- この機能での撮影では、以下の機能は使用できません。
  超解像ズーム、手ブレ関連機能、ライティング、コンティニュアスAF、トリプルセルフタイマー、モーションシャッター、顔検出、測光方式、ISO感度、ISO感度上限、メイクアップ
- この機能での再生は、フレームレートは20フレーム／秒になります。また、動画画質は選んだシーンによって異なります。
  シーン1～6:FHD
  シーン7～11:HD
- この機能での撮影では、音声は録音されません。
- タイムラプス動画をスライドショーで再生するときに、タイムラプス動画のみを再生するように設定することもできます(195ページ)。
- “ HDRアート”で動画を撮影する場合、アート効果の強さは動画用の設定に固定されます。
- タイムラプスで動画撮影中に、シャッターを押して静止画を撮影する(スチルインムービー)ことはできません。
- タイムラプスの“間隔”および“トータル時間”の設定内容は、リセット操作(272ページ)を行うと初期値にリセットされます。設定内容はタイムラプスの各シーンによって異なります。

• タイムラプスの“ 夜景”のシーンでの撮影で、明るさを調整する場合は、操作パネルの“ S”（シャッタースピード）（62ページ）で調整してください。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の（前の）シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】

動画撮影中に静止画を撮影する(スチルインムービー)

本機では動画撮影中でも静止画を撮影することができます。1枚撮影モードでは1枚ずつ撮影できます。また、連写撮影モードでは1回の撮影で約10fps(1秒間で約10枚)の速さで、最大7枚まで連写撮影可能です。1回の動画撮影中には合計で、最大28枚まで撮影可能です。

1. 動画撮影中に、シャッターを押す

- 動画画質はFHD動画またはSTD動画に設定してください(165ページ)。
- 【◀】、【▶】、【SET】のいずれかを押すと、1枚撮影モードと連写撮影モードの切り替えができます。画面の“▣”が白くなると連写撮影モードになり、“■”が白くなると1枚撮影モードになります。
- 連写撮影モードでは、シャッターを押し続けている間、連続撮影します。

参考

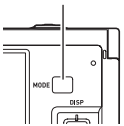
- 動画撮影中の静止画撮影(スチルインムービー)では、フラッシュ撮影はできません。
- FHD動画、STD動画撮影時以外はスチルインムービーでの静止画撮影はできません。
- スチルインムービーでの静止画撮影ではピント合わせはできません。動画撮影時のピントと同じになります。
- FHD動画撮影中に撮影した静止画は、FHD動画より広い範囲で撮影されます。
- 静止画の画質は自動的に“標準-N”になります。
- スチルインムービーはプログラムオートで撮影されます。
- モーションシャッターおよびタイムラプスで動画撮影中は、静止画を撮影できません。

撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

さまざまな撮影シーンがカメラに収録されています。各シーンには被写体や撮影条件に合った最適なカメラの設定が記録されています。望みのシーン(ベストショット)を選ぶだけで最適なカメラの設定が完了します。

ベストショットで撮影する

1. 撮影モードにして【MODE】を押す



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BS”(ベストショット)を選び、【SET】を押す

ベストショットのシーン一覧が表示されます。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ

- 【▲】【▼】を押していくと、別のシーン一覧が表示されます。
- 通常の静止画撮影に戻るには、【MODE】を押して、“P”（プログラムオート）または“”（プレミアムオート PRO）を選んでください。

4. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンを選び直すときは、下記の操作を行ってください。
  - 手順1からの操作を繰り返す
  - 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”を選んで【SET】を押したあと、シーンを選ぶ

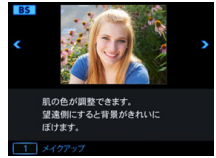
5. 静止画を撮影するときはシャッターを、動画を撮影するときは【●】（ムービー）を押す

- シーンによっては、シャッターを押したあと、“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示されます。メッセージが表示されるまでは撮影中ですので、そのままカメラ本体を動かさないでください。メッセージが表示されてから処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。メッセージ表示中は撮影できません。

■ シーンの説明画面での操作

選んだシーンの説明画面を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせてください。

- 一覧表示に戻る→ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する→【◀】【▶】
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る→【SET】



■ ベストショット撮影の注意

- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではなく、効果や効能を説明するためのイメージです。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。
- 下記のベストショット撮影では、静止画撮影はできません。
  パストムービー
- 下記のベストショット撮影では、動画撮影はできません。
  背景ぼかし、全焦点マクロ、メイクアップBKT、HS手ブレ補正、ワイドショット、HSナイトショット、スライドパノラマ、HDMIテレビ出力
- 各ベストショットのシーンが選ばれているときの動画撮影は、FHD/STD動画撮影では各シーンに適した動画撮影となりますが、ハイスピード動画撮影では選択されているシーンには依存せずプログラムオートでの動画撮影となります。
- 高速連写を応用したベストショットでは、“超解像ズーム”の設定は無効になります。

• 下記のベストショット撮影では、撮影環境によって撮影範囲が狭くなることがあります。
HS夜景と人物、HSナイトショット

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

人物の肌の色味や肌質を調整したり、日差しによる顔の影をやわらげたりして、人物の顔を美しく撮影できます。

1. ベストショットモードで“メイクアップ”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”(メイクアップ設定)を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“肌の色”または“肌のなめらかさ”を選び、【◀】【▶】で値を変更する

肌の色	肌の色味を褐色+6～0(切)～美白+6で調整します。
肌のなめらかさ	肌質を0(切)～+12(強)で調整できます。

4. 【SET】を押す

5. 撮影する

肌の色が異なる画像を3枚撮影する(メイクアップBKT)

メイクアップブラケティング(メイクアップBKT)で撮影すると、1回の撮影で肌の色が異なる画像を3枚撮影できます。肌の色は、メイクアップ設定画面で設定した“肌の色”とその前後のレベルになります。

1. ベストショットモードで“メイクアップBKT”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”(メイクアップ設定)を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“肌の色”または“肌のなめらかさ”を選び、【◀】【▶】で値を変更する

肌の色	肌の色味を褐色+6～0(切)～美白+6で調整します。
肌のなめらかさ	肌質を0(切)～+12(強)で調整できます。

4. 【SET】を押す

5. シャッターを押して撮影する
手順3で設定した“肌の色”のレベルを基準に、合計3枚の画像が保存されます。

参考

- メイクアップBKTで撮影すると、画像の保存が終了するまで次の撮影はできません。
- 肌の色を“褐色+6”または“美白+6”に設定した場合、画像は2枚だけ保存されます。
- メイクアップBKTでは、動画撮影はできません。

撮りたい瞬間を逃さず撮影する(トリプルショット)

シャッターを押すと、連写によって3枚の画像が保存されます。子どものちょっとしたしぐさなどを逃さず撮影できます。

1. ベストショットモードで“トリプルショット”を選ぶ(122ページ)

2. 被写体にカメラを向けてシャッターを半押しする

カメラ内に静止画を一時的に記録します。

- シャッターを全押しする前にシャッターの半押しをやめると、それまでの半押し中に記録した画像は消去されます。

3. シャッターを全押しして撮影する

連写によって、全押ししたときの画像とその前後の画像の合計3枚が保存されます。

- シャッターを半押しせずに全押しすると、連写によって全押し時と、全押し後の合計2枚が保存されます。

参考

- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。

セルフタイマー	切
フラッシュ	発光禁止
静止画画質	標準-N
超解像ズーム	切
顔検出	入
フォーカス方式	AF

- この機能での撮影では、AFエリアを“追尾”に設定できません。他のモードですでに設定していた場合は、“スポット”で撮影されます。

デジタル処理で手ブレ補正をする(HS手ブレ補正)

光学的に手ブレ補正を行うとともに、1回シャッターを押すと連写をし、連写した画像を自動的に合成することで、光学手ブレ補正で補正できないような場面でも手ブレが軽減された撮影ができます。

1. ベストショットモードで“HS手ブレ補正”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“🚫”(発光禁止)になります。
- この機能の許容範囲以上の手ブレがあったり、被写体が動いていたりするときは、補正できずにブレた画像となることがあります。
- この機能での撮影では、“ISO感度”(71ページ)と“ISO感度上限”(152ページ)は“オート”に固定されます。

暗い場所でフラッシュを使わずに明るく撮影する（HSナイトショット）

複数の画像を連続撮影し、合成することで、フラッシュを使用せずに、暗い環境でも明るく撮影することができます。

フラッシュを発光させずに“プログラムオート”で撮影

“HSナイトショット”で撮影

1. ベストショットモードで“HSナイトショット”を選ぶ（122ページ）

2. シャッターを押して撮影する

- 手ブレと被写体ブレに注意して撮影してください。
- 液晶モニターで被写体が確認できる程度の明るさで撮影してください。

参考

- この機能での撮影では、“ISO感度”(71ページ)は“オート”に固定されます。
- この機能での撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- この機能での撮影では、画像サイズを“16M”、“3:2”、“16:9”に設定することはできません。他のモードですでに設定していた場合は、“10M”で撮影されます。

デジタル処理で白とびや黒つぶれのない写真を撮影する(HDR)

露出の異なる複数の画像を連写して合成することで、明暗差の大きな被写体でも白とびや黒つぶれのない写真が撮影(HDR撮影:ハイダイナミックレンジ撮影)できます。

1. ベストショットモードで“HDR”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“HDR”(HDRレベル)を選ぶ

3. 【◀】【▶】でHDRレベルを設定し、【SET】を押す

- HDRレベルは“レベル1”、“レベル2”、“レベル3”の3つから設定できます。

4. シャッターを押して撮影する

参考

- 三脚で固定して撮影すると、より大きな効果が得られます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”（発光禁止）になります。
- この機能の撮影では、手ブレをしている場合は手ブレ補正処理を行うため、通常より撮影範囲が狭くなることがあります。
- 手ブレや被写体ブレをしている場合は、十分な効果が得られないことがあります。

背景をぼかした写真を撮影する（背景ぼかし）

連写で撮影した複数の画像を解析して、主な被写体の背景をぼかし、一眼レフカメラで撮影したように被写体が浮き上がって見える写真を撮影することができます。また、ぼかし効果を三段階で調節することができます。

“プログラムオート”で撮影

“背景ぼかし”で撮影

1. ベストショットモードで“背景ぼかし”を選ぶ（122ページ）

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”（ぼかし効果）を選ぶ

3. 【◀】【▶】でぼかし効果レベルを設定し、【SET】を押す

- ぼかし効果レベルは“レベル1”、“レベル2”、“レベル3”の3つから設定できます。

4. シャッターを押して撮影する

- 被写体になるべく近寄って撮影してください。また、ぼかしたい背景と被写体との距離は、できるだけ離すようにしてください。この距離はズームの倍率によって異なります。

  例:ズームがW端の場合　被写体までの距離:30cm
  被写体から背景までの距離:1m以上

参考

- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ関連機能(159ページ)が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラがぼかし処理できないと判断した場合、“ぼかし処理できませんでした　通常記録します”と表示されます。ぼかし処理できない場合でも画像は保存されます。

画像全体にピントを合わせて撮影する(全焦点マクロ)

連写で撮影した複数の画像を解析して、近景から遠景まですべての領域にピントが合った写真を撮影できます。

“プログラムオート”で撮影

“全焦点マクロ”で撮影

1. ベストショットモードで“全焦点マクロ”を選ぶ(122ページ)

2. シャッターを押して撮影する

- 被写体になるべく近寄り、手ブレと被写体ブレに注意して撮影してください。

参考

- この機能の撮影では、光学ズームがワイド端に固定された状態で、デジタルズーム撮影(79ページ)ができます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“”(発光禁止)になります。
- この機能での撮影では、手ブレ関連機能(159ページ)が自動的に“標準”になりますが、手ブレや被写体ブレが大きい場合は、十分な効果が得られないことがあります。
- カメラが処理できないと判断した場合、“合成できませんでした　通常記録します”と表示されます。処理できない場合でも画像は保存されます。

パノラマ画像を撮影する(スライドパノラマ)

カメラを動かしている間、複数の画像を撮影し、画面上で合成することで、レンズの広角度を超えた最大360度のパノラマ画像を撮影することができます。

- 合成した画像は、下記のサイズで保存されます。
  スライド方向が右／左方向の場合:最大11520×1080 pixels
  スライド方向が上／下方向の場合:最大1920×7296 pixels
- スライドパノラマ撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- パノラマ画像は最大で、横方向で約360度、縦方向で約180度の角度で撮影できます。
- 横方向の撮影角度が360度に満たなかった場合は、撮影できた領域によって60度、120度、180度、240度、300度のいずれかのパノラマ画像になります。

1. ベストショットモードで“スライドパノラマ”を選ぶ(122ページ)

2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“”(スライド方向)を選ぶ

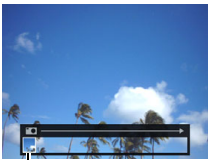
3. 【◀】【▶】でスライド方向（カメラを動かす方向）を選び、【SET】を押す

スライド方向は、右／左／上／下の4種類があります。

4. 被写体の端にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

5. シャッターを全押しし、画面上に表示されるスライドカーソルが画面の端（スライド方向が右の場合は右端）に着くまで、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- スライドカーソルが画面の端に着くまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。



スライドカーソル

参考

- 以下の場合は、スライドパノラマ撮影に適していません。
  - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  - 主な被写体とカメラとの距離が近い
  - 動いている被写体
  - 周囲が暗い場合
- 以下の場合、スライドパノラマ撮影が中断されることがあります。
  - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- スライドパノラマ撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”(発光禁止)になります。

超広角画像を撮影する(ワイドショット)

複数の画像を連続して撮影し、つなぎ合わせることで、搭載されているレンズの制限(ワイド端)を上回る超広角画像を撮影することができます。35mmフィルム換算で焦点距離が約15mm、または19mmの広角画像を撮影することができます。

25mm(レンズのワイド端)

19mm

15mm

1. ベストショットモードで“ワイドショット”を選ぶ(122ページ)

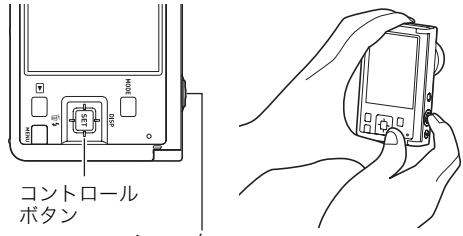
2. 【SET】を押し、【▲】【▼】で操作パネルの“ ”(ワイドレベル)を選ぶ

3. 【◀】【▶】で撮影したいワイドレベル(広角サイズ)を選び、【SET】を押す

“19mm”と“15mm”の2種類があります。“19mm”より“15mm”のほうが広く撮影できます。

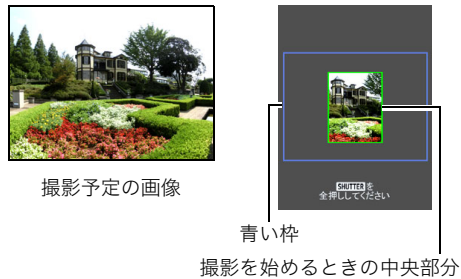
4. コントロールボタンとシャッターの位置が下側になるように、カメラを縦に構える

- このときにレンズを地面（真下）に向けないでください。カメラ内部の縦横位置を感知するセンサーが誤動作し、撮影が開始できないことがあります。



5. 画像の中央にしたい被写体にカメラを向けてシャッターを半押しし、ピントを合わせる

- 画面上の外側の青い枠までが撮影できる範囲です。



6. シャッターを全押しし、画面上に表示されるガイドと矢印に従って、カメラを矢印の方向にゆっくり動かす

- カメラを両手でしっかり持ち、ガイド表示に従って水平、垂直に体を中心に弧をえがくように、ゆっくり一定の速度でスライドさせて撮影してください。
  - 左右にスライドさせるときは、体を左右に平行移動するのでなく、体を軸にして左右に撮影してください。
  - 上下にスライドさせるときは、体を上下に平行移動するのでなく、肩を軸に上下に撮影してください。
  - 斜めにスライドさせたり、ゆれたりしないようにご注意ください。
- ガイド表示が終わるまでカメラを動かすと、画像の合成が始まります。
- カメラを動かすのを止めると、自動的に画像の合成が始まります。

参考

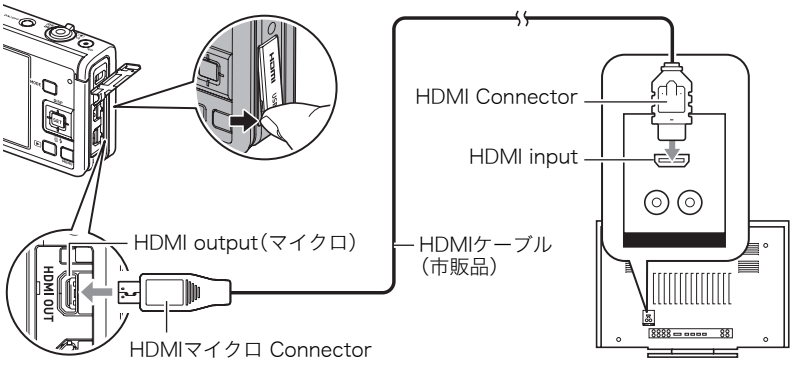
- “15mm”や“19mm”という画角を表す数値は、あくまで参考値であり、画角自体を保証するものではありません。
- ワイドショット撮影ではズーム操作はできません。ワイド端に固定されます。
- この機能では、画角が最大15mmまたは19mmの広角画像が撮影できますが、撮影状況によってはこの画角より狭くなることがあります。

- 以下の場合は、ワイドショット撮影に適していません。
  - 電灯や太陽など、周囲と明るさの差が大きい被写体
  - 川、波、滝など、模様が常に変化する被写体
  - 空や砂浜など、似たような模様が続く被写体
  - 主な被写体とカメラとの距離が近い
  - 動いている被写体
  - 周囲が暗い場合
  - 高層ビルなど、高い建物を近くで見上げるような場合
- 以下の場合、ワイドショット撮影が中断されることがあります。
  - 被写体ブレ、または手ブレが大きい場合
  - カメラを動かす速度が早すぎた、または遅すぎた場合
  - 撮影ルートから外れた場合
  - 指定された方向に撮影しなかった場合
- 撮影時にシャッターを半押ししてピント合わせをした場所の画像と、合成した他の画像で明るさや色合い、ピント位置が極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このような場合は、ピント合わせの位置を変えてみてください。
- 複数の画像を合成するため、合成後のつなぎ目が滑らかにならないことがあります。
- ちらつきのある光源(蛍光灯など)がある場所で撮影した場合、合成された画像の明るさや、色合いが一定でなくなることがあります。
- ワイドショット撮影時の露出とホワイトバランスは、シャッターを半押ししたときの状態に固定されます。
- この機能での撮影では、フラッシュは自動的に“ ”(発光禁止)になります。

テレビに映しながら静止画を撮影する(HDMIテレビ出力)

液晶モニターに表示される内容をテレビに映しながら、アスペクト比が16:9の静止画を撮影できます。

1. カメラの電源を切り、市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ



2. カメラの電源を入れる

3. ベストショットモードで“HDMIテレビ出力”を選ぶ(122ページ)

液晶モニターの表示が消え、テレビに被写体が表示されます。

4. テレビで確認しながら、シャッターを押して撮影する

参考

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、188ページをご覧ください。
- デジタルビデオ信号の形式を変更する場合は、HDMIケーブルをカメラから抜いてから行ってください(191ページ)。
- この機能での撮影は、以下の設定に固定されます。

静止画サイズ	16:9
AFエリア	スポット
コンティニュアスAF	切
顔検出	切
メイクアップ	0
ホワイトバランス	オートWB
測光方式	マルチ

よりよい撮影のための設定(REC MENU)

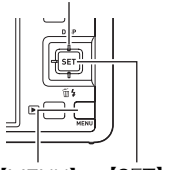
本機では、メニューを操作していろいろな設定ができます。

- メニュー画面で操作できる機能の一部は、操作パネル(62ページ)からも設定できます。両方で設定できる機能については、操作パネルからの操作方法を別途記載していますので、該当するページをご覧ください。

撮影設定を変更する

■ メニュー画面の操作例

【▲】【▼】【◀】【▶】



1. 撮影モードにして【MENU】を押す

メニュー画面(📷 REC MENU)が表示されます。

- メニューの内容は、撮影モード(📷 REC MENU)と再生モード(▶ PLAY MENU)で異なります。

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で設定したい項目のあるタブを選んで【▶】または【SET】を押す

例: “ REC MENU” タブ、“セルフタイマー” 選択時

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】または【SET】を押す

- ズームレバーをスライドすると、前後のページが表示されます。

4. 【▲】【▼】で設定したい内容を選ぶ

5. 【SET】を押して決定する

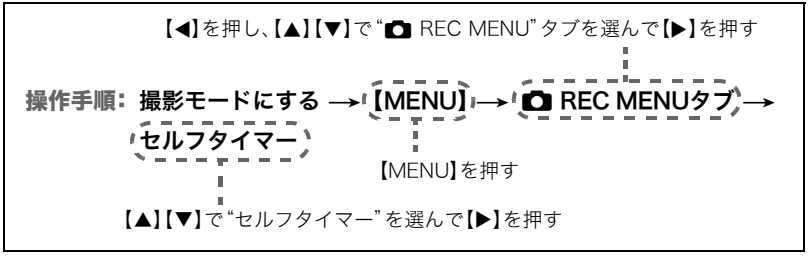
- 【◀】を押すと、選んだ内容に決定され、メニュー画面に戻ります。
- 【MENU】を押すと、選んだ内容がキャンセルされ、メニュー画面に戻ります。
- 他のタブを選ぶときは、青枠を設定項目に移動してから【◀】を押し、【▲】【▼】で切り替えたあと、【▶】を押します。

参考

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。プレミアムオート PROでは、設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。

■ メニュー操作の本書記載について

本書ではメニュー操作の手順を下記のように記載します。前記の「メニュー画面の操作例」(144ページ)の操作手順を例とすると次のような表記になります。



何枚も連続して撮影する(連写モード)

操作手順: 撮影モードにする → 【MENU】 → REC MENUタブ → 連写モード

詳しくは86ページをご覧ください。

カメラとスマートフォンを接続する(無線モード)

操作手順: **撮影モードにする → 【MENU】 → REC MENUタブ → 無線モード**

詳しくは218ページをご覧ください。

被写体の動きを感知してセルフタイマーを動かす(モーションシャッター)

操作手順: **撮影モードにする → 【MENU】 → REC MENUタブ → モーションシャッター**

詳しくは93ページをご覧ください。

フロントシャッターを使用した撮影方法を設定する（フロントシャッター）

操作手順：撮影モードにする → 【MENU】 → REC MENUタブ → フロントシャッター

撮影モード時にフロントシャッターを押した場合の撮影方法を設定できます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
標準		通常どおり、カメラの設定で撮影します。
AFレス		フロントシャッターを半押しすると、フォーカス位置の調整をせずにすぐに撮影します。あらかじめ天面のシャッターボタンでピントを合わせておくと、フロントシャッターで撮影のタイムラグを少なくして撮影することができます。1枚撮影時のみ、使用できます。
セルフィータイマー		フロントシャッターを押し続けた長さに応じたタイマーが起動します（103ページ）。
×3セルフィータイマー		

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
連写		撮影速度が10fpsで、最大10枚連写します。撮影モードがプログラムオートで、メニュー項目の“連写モード”(86ページ)を“切”にしたときのみ、使用できます。
切		フロントシャッターを押しても、撮影されません。

参考

- 一部の撮影モードでは、フロントシャッターで撮影できません。
- 再生モード時のフロントシャッターについては、192ページをご覧ください。
- “切”以外に設定すると、動画撮影に静止画を撮影(スチルインムービー)できますが、一枚撮影モードになります。連写撮影モードでは撮影できません。

左右キーに機能を割り当てる(左右キー)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→左右キー

【◀】【▶】キーに以下の7つのうちどれか1つの機能を割り当てると、【◀】【▶】を押すだけで割り当てた機能を変更できます。

設定項目	設定内容
連写モード	連写モードに切り替える→86ページ
露出補正	明るさを補正する→73ページ
ホワイトバランス	色合いを調整する→65ページ
ISO感度	ISO感度を変える→71ページ
測光方式	光の測りかたを変える→158ページ
セルフタイマー	セルフタイマーの時間を設定する→63ページ
モーションシャッター	モーションシャッターに入る動作を設定する→93ページ
切	【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

セルフタイマーを使う(セルフタイマー)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ セルフタイマー

詳しくは操作パネルからの操作方法(63ページ)をご覧ください。

明るさを補正する(露出補正)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 露出補正

詳しくは操作パネルからの操作方法(73ページ)をご覧ください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ ホワイトバランス

詳しくは操作パネルからの操作方法(65ページ)をご覧ください。

ISO感度を変える(ISO感度)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ ISO感度

詳しくは操作パネルからの操作方法(71ページ)をご覧ください。

ISO感度の上限を設定する(ISO感度上限)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ ISO感度上限

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
オート	なし	“ISO感度”(71ページ)の設定のとおりのISO感度で撮影されます。
ISO 200		“ISO感度”(71ページ)の設定が“Auto(オート)”の場合、ここで選んだISO感度が上限となります。
ISO 400		
ISO 800		
ISO 1600		
ISO 3200		

参考

- “ISO感度”（71ページ）の設定が“Auto（オート）”以外の場合は“ISO感度上限”の設定は無効となり、“ISO感度”で選択した設定で撮影されます。
- “HSナイトショット”（130ページ）では下記の中からの設定になります。
  オート、ISO1600、ISO3200、ISO6400、ISO12800、ISO25600
- 下記の撮影では、“ISO感度上限”は設定できません。
  プレミアムオート PRO、ベストショット撮影の一部
- プレミアムズームの場合は、“ISO3200”に設定できません。他の撮影モードで“ISO3200”を選んでいた場合は、プレミアムズームに切り替えると“ISO1600”になります。

ピントの合わせ方を変える（フォーカス方式）

操作手順：撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→フォーカス方式

詳しくは操作パネルからの操作方法（68ページ）をご覧ください。

オートフォーカスの測定範囲を変更する(AFエリア)

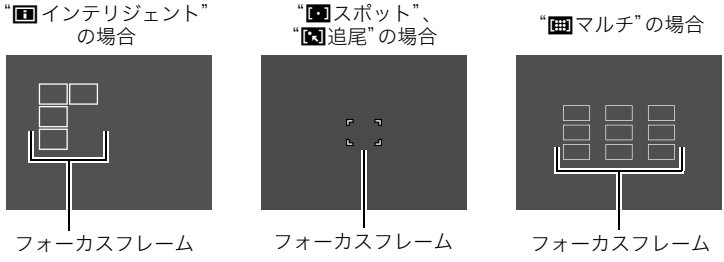
操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ AFエリア

静止画撮影時のオートフォーカスの測定範囲を変更することができます。

• 動画撮影時の設定は"スポット"に固定になります。

設定項目	設定内容
インテリジェント	画面の中でピントを合わせるべき部分をカメラが自動的に判断し、その部分へピントを合わせます(自動認識AF)。 • 顔検出(156ページ)も自動的に動作します。
スポット	中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(70ページ)を活用した撮影に便利です。
マルチ	シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合った部分のフォーカスフレームが緑色で表示されます。 さらに、この測定範囲を以下の手順で上下左右に移動できます。 ①撮影待機中に【◀】または【▶】を押す ②【◀】【▶】【▲】【▼】で距離点を移動する • ズームレバーをスライドすると、現在選んでいる測定範囲の中央のみが選択されます。 ③測定範囲が決定したら【SET】を押す

設定項目	設定内容
追尾	シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。



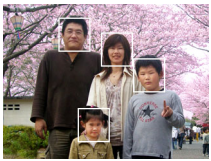
重要

- フォーカス方式(68ページ)で“MF”(マニュアルフォーカス)を選んでいると、どのAFエリアを選んでもオートフォーカスは動作しません。
- “追尾”で追尾しているときはレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。
- 一部のベストショット撮影では、選んだAFエリアが使用できなかったり、選択できない等の制限があります。
- AFエリアを“マルチ”にすると、【◀】【▶】で測定範囲が変更されます。“左右キー”(150ページ)に機能を割り当てていても、【◀】【▶】で割り当てた機能を変更できません。

人物の顔にピントと明るさを合わせて撮影する(顔検出)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→顔検出

人物を撮影するときに、一度に最大10人まで人物の顔を検出し、ピントと明るさを合わせて撮影します。



1. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押す

2. 人物にカメラを向ける

人物の顔を検出すると、顔にフレームが表示されます。

3. シャッターを半押しする

ピントと明るさが合った顔に、緑色のフレームが表示されます。

4. シャッターを全押しして撮影する

よりよい顔検出撮影のために

- 顔が検出できない場合は、設定されているAFエリア(154ページ)に従ってピントを合わせます。
- フォーカス方式は必ずオートフォーカス(AF)となります。
- 次のような場合、顔が検出できません。
  - 顔の一部が頭髪、サングラス、帽子などでさえぎられている人物、または顔に濃い影が落ちている人物
  - 顔が横を向いていたり斜めに傾いていたりする人物
  - 距離が遠すぎて顔が小さすぎる人物、または距離が近すぎて顔が大きすぎる人物
  - 極端に暗い場所での人物
  - ペットなど人物以外の被写体

重要

- 下記の撮影では、顔検出撮影はできません。
  - ベストショット撮影の一部
  - アートショットの一部
  - 動画撮影(ハイスピード動画撮影を行う一部のベストショットを含む)
  - 高速連写でパスト連写を行っているとき(高速連写撮影を行う一部のベストショットを含む)
- “顔検出”を使用すると“フォーカス方式”は必ず“AF”(オートフォーカス)に固定されます。“フォーカス方式”を切り替えたいときは“顔検出”を“切”にしてください。

人物の顔を美しく撮影する(メイクアップ)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ メイクアップ

詳しくは操作パネルからの操作方法(72ページ)をご覧ください。

常にオートフォーカスを動作させる(コンティニュアスAF)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ コンティニュアスAF

“入”にすると、静止画撮影時はシャッターを半押しするまで常にオートフォーカス動作を行い、ピントを合わせ続けます。

- シャッターを半押しする前は画面の中央にピントを合わせ続けます。シャッターの半押し中は、“顔検出”が“入”の場合は顔検出したエリアにピントを合わせます。
- コンティニュアスAFで撮影中はレンズの振動と動作音がしますが、故障ではありません。

光の測りかたを変える(測光方式)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 測光方式

詳しくは操作パネルからの操作方法(78ページ)をご覧ください。

手ブレや被写体ブレを軽減する(手ブレ関連補正)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 手ブレ関連補正

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。手ブレ関連機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
強		手ブレ補正に加えて、"標準"よりもシャッター速度を速めることで、被写体ブレもさらに低減します。なお、"標準"よりもISO感度が上がる場合があります。 "強"は(高速連写を除く)プログラムオート、プレミアムオート PRO、ベストショット撮影の"HS手ブレ補正"で使用できます。
標準		手ブレを軽減します。
切	なし	ブレ軽減は行いません。

参考

- FHD動画／STD動画撮影時は手ブレ補正だけが動作します。
- ハイスピード動画・HDRアートムービー・タイムラプス撮影時は手ブレ関連機能は動作しません。
- “ISO感度”を“Auto(オート)”(71ページ)に設定して、“手ブレ関連機能”を使用したときは、シャッターを半押ししても、画面上にISO感度、絞り、シャッター速度が表示されません(撮影レビュー(171ページ)を“タイプ1”に設定しているときは、撮影直後の画像確認画面に表示されます)。
- “手ブレ関連機能”を使用して撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きいときは、ブレを軽減できない場合があります。
- 三脚使用時は、手ブレ補正が正常に動作しません。“手ブレ関連機能”の設定を“切”に設定してください。
- “手ブレ関連機能”を“強”に設定しても、撮影状況によっては効果がない場合があります。

静止画の画像サイズを設定する(静止画サイズ)

操作手順: **撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→静止画サイズ**

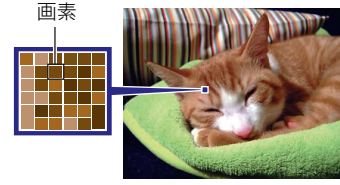
画素数(pixels)	撮影画面のアイコン表示	プリント時の用紙サイズの目安や用途	特徴
16M (4608×3456)	16M	ポスタープリント	精細な画像が得られ、トリミング(210ページ)しても画像が粗くなりにくいです。
3:2 (4608×3072)	3:2	ポスタープリント	
16:9 (4608×2592)	16:9	HDTVサイズ	
10M (3648×2736)	10M	ポスタープリント	精細な画像が得られます。
3M (2048×1536)	3M	L判プリント	画質より、撮影枚数を優先したいときに有効です。

- お買い上げいただいたときは、“16M”で撮影するように設定されています。
- “3:2”を選ぶと、プリント用紙の一般的な横縦の比率(3:2)に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。
- HDTVとはHigh Definition TeleVision(高精細テレビ)の略です。HDTVの画面の横縦比は16:9になります。本機はこのHDTVの画面の横縦比に合わせて撮影することができます。
- プリント用紙のサイズは、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- 一部機能では画像サイズの制限があります。

16M	“HSナイトショット”では選択できません。他のモードで“16M”を選んでいた場合は、“HSナイトショット”に切り替えると“10M”になります。
3:2、16:9	“高速連写”と“HSナイトショット”では選択できません。他のモードで“3:2”または“16:9”を選んでいた場合は、“高速連写”に切り替えると“16M”に、“HSナイトショット”に切り替えると“10M”になります。

■ 画素数と画像サイズについて

デジタルカメラの画像は、小さな点（画素・pixels）の集まりでできています。
画素数は、数が多いほど精細な写真が撮れますが、サービスサイズ（L版）へのプリント、Eメールに添付して送る、パソコンの画面で見る、などの用途では画素数が少なくても良い場合があります。その画像がいくつの画素でできているかを示すものが画像サイズで、横×縦の画素数で表します。



例：

画像サイズ	画素数
16M	4608×3456（約1600万画素）
3M	2048×1536（約300万画素）

- 画像サイズが大きいほど画素数が多くなり、メモリーに保存できる枚数が少なくなります。
- 画像サイズ、画質と保存できる枚数→320ページ
- 動画の画像サイズについて→165ページ
- 撮影済み静止画の画像サイズを小さくする（リサイズ）→209ページ

静止画の画質を設定する(静止画画質)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 静止画画質

設定項目	撮影画面のアイコン表示	設定内容
高精細-F	F	画質を優先
標準-N	N	標準

- 枝や木の葉が密集しているようなきめ細かい自然画や複雑な模様を撮影するときは、“高精細-F”にすることで、緻密な画質で撮影できます。
- 画質によって、撮影できる枚数が異なります(320ページ)。

動画の画質を設定する(動画画質)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 動画画質

動画の画質と動画の撮影モードを設定することができます。

設定項目 (画質(pixels))	撮影画面のアイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
FHD	FHD	14.2メガビット/秒 (30フレーム/秒)	高精細な動画(FHD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります(110ページ)。
HD	HD	10.9メガビット/秒 (12、15、20、30フレーム/秒)	アートショット(97ページ)またはタイムラプス(117ページ)のアートショット系シーンでの撮影時に、高精細な動画(HD動画)を撮影するときに選びます。アスペクト比が16:9の画像になります。 • フレームレートは選択したシーンによって異なります。
STD	STD	3.8メガビット/秒 (30フレーム/秒)	標準的な動画を撮影するときに選びます。アスペクト比が4:3で撮影されます(STD動画)。

設定項目 (画質(pixels))	撮影画面の アイコン表示	転送レート (フレームレート)	設定内容
HS1000	HS 1000	40.0メガビット/秒 (1000フレーム/秒)	ハイスピード動画を撮影するときに選びます。動画の画像サイズはフレームレート(動画の撮影速度)によって異なります(111ページ)。
HS480	HS 480	40.0メガビット/秒 (480フレーム/秒)	
HS240	HS 240	40.0メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS120	HS 120	40.0メガビット/秒 (120フレーム/秒)	
HS30-240	HS30 240	5.2メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (240フレーム/秒)	
HS30-120	HS30 120	10.2メガビット/秒 (30フレーム/秒) 40.4メガビット/秒 (120フレーム/秒)	

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ ライティング

明るい所と暗い所の明るさのバランスを最適に調整して撮影できます。

設定項目	設定内容
入	明るさが補正されます。ただし撮影後、画像の保存までに時間がかかります。
切	明るさの補正は行いません。

参考

- 動画撮影時は、ライティング機能は無効になります。

鮮鋭さを変える(シャープネス)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ シャープネス

+2(もっとも鮮鋭度が高い)から−2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→彩度

+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から−2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→コントラスト

+2(明暗の差がもっとも大きい)から−2(明暗の差がもっとも小さい)までの5段階から選べます。

フラッシュの明るさを変える(フラッシュ光量)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→フラッシュ光量

+2(フラッシュの明るさが最も強い)から−2(フラッシュの明るさが最も弱い)までの5段階から選べます。

- 被写体が遠すぎたり近すぎたりする場合、強さが変わらないことがあります。

静止画の画質劣化を抑えてズーム範囲を広げる(超解像ズーム)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 超解像ズーム

詳しくは84ページをご覧ください。

デジタルズームを設定する(デジタルズーム)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ デジタルズーム

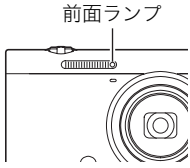
デジタルズーム(79ページ)を使用したいときは“入”にしてください。

- 下記の撮影では、デジタルズームは使用できません。
  - ハイスピード動画撮影中、ベストショット撮影の一部

ピント合わせを補助するライト(AF補助光)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ AF補助光

暗い場所での撮影のときなど、ピント合わせをしやすくするために、シャッター半押し時に必要に応じて前面ランプがAF補助光として発光します。至近距離で人物撮影をするときなどは“切”に設定することをおすすめします。



重要

- 前面ランプをのぞいたり、人の目に当てないでください。
- 前面ランプに指がかからないようにしてください。

HDRアートでの撮影で効果なしの画像も保存する(ダブル保存(HDRアート))

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ ダブル保存(HDRアート)

詳しくは100ページをご覧ください。

動画撮影時の風の音を低減する(風音低減)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 風音低減

動画撮影時に録音される風の音を低減したいときは“入”にしてください。ただし、音質が多少変化します。

撮影直後の画像を表示する(撮影レビュー)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ 撮影レビュー

撮影直後の画像が、約1秒間表示されます。

タイプ1	撮影した画像が、液晶モニターの全面に表示されます。
タイプ2/タイプ3	撮影した画像が、液晶モニターの一部に表示されます。タイプによって撮影レビューが出るときや消えるときの効果が異なります。
切	撮影した画像は表示されません。

- “撮影レビュー”を“タイプ1”にした場合、一部の機能での撮影では、シャッターを押したあとに“処理中です　しばらくお待ちください”とメッセージが表示され、メッセージ表示中は撮影できなくなります。処理が終了するまでしばらく時間がかかりますのでお待ちください。
- 撮影モードによって、撮影レビューが表示されない場合があります。

- 以下のモードやシーンで撮影中は、“タイプ1”を選んでも、“タイプ2”で撮影レビューが表示されます。
  - メイクアップBKT
  - 高速連写、AF連写、トリプルショット（ベストショット）
  - アートショットブラケティング（アートショット）
- ダブル保存（HDRアート）を“入”にしてHDRアートを撮影した場合は、アート効果がかかった画像と通常の画像の両方が表示されます。

画面上のアイコンの意味を確認する（アイコンガイド）

操作手順：撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→アイコンガイド

“入”にすると、各種撮影機能を切り替えるときに、アイコンの意味が表示されます。

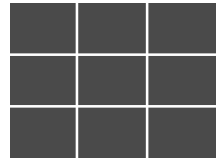
アイコンの意味を確認できる機能

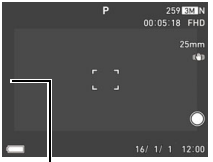
- 撮影モード
- “左右キー”で設定できる項目
- シャッター半押し時の露出警告

撮影時の液晶モニター表示を変更する(アシスト表示)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ アシスト表示

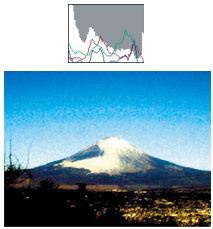
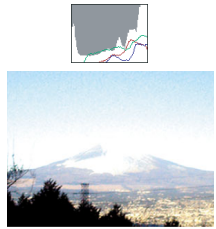
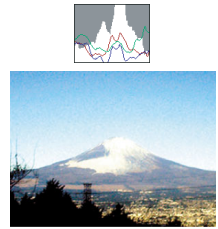
撮影時に、液晶モニターにグリッドやヒストグラム、動画撮影範囲を表示します。

グリッド	“入”にすると、液晶モニターに基準線が表示されます。カメラを水平や垂直に保つ目安線になります。	
ヒストグラム	“入”にすると、液晶モニターにヒストグラムが表示されます。露出を確認しながら撮影できます。 参考 • フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムでチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。 • ハイスピード動画の撮影時は、ヒストグラムは表示されません。	 ヒストグラム

動画撮影範囲	“入”にすると、液晶モニターに半透明のグレーの枠が表示されます。動画の場合は、枠の内側の範囲で撮影されます。	 半透明のグレーの枠

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正すると、ヒストグラムを左右に移動させることができます。グラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されるので、色ごとのオーバー・アンダー状況を把握することができます。

典型的なヒストグラムの例		
全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。	全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。	全体的に適切な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。
		

参考

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となるわけではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。

各種設定を記憶させる(モードメモリー)

操作手順: 撮影モードにする→【MENU】→ REC MENUタブ→ モードメモリー

“入”にすると電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。“切”にすると電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機能	切(初期設定)	入
連写モード	切	最後の状態
フラッシュ	オート	
フォーカス方式	AF	
ISO感度	Auto(オート)	
ホワイトバランス	オートWB	
露出補正	0.0	
AFエリア	スポット	
測光方式	マルチ	
セルフタイマー	切	
フラッシュ光量	0	
超解像ズーム	シングル	
デジタルズーム	入	
MF位置	MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置	
ズーム位置※	ワイド端	

※ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

静止画や動画を再生する

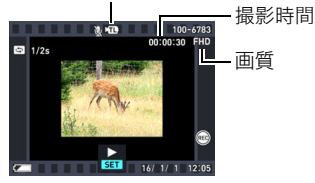
撮影した静止画を見る

操作方法については54ページを参照してください。

撮影した動画を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したい動画(ムービー)を表示させる

2. 【SET】を押して、再生を始める



動画の再生中にできること

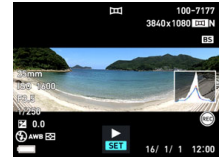
早送り／早戻しする	【◀】【▶】 • 押すごとに、早送り、早戻しのスピードが速くなります。 • 通常の再生に戻るときは【▼】を押します。
再生と一時停止を切り替える	【SET】

一時停止中にコマ送りする	**【◀】【▶】** • 押し続けると、連続してコマ送りします。
音量を調節する	**【▼】**を押したのち**【▲】【▼】**を押す • 音量調節は、再生中にだけできます。
情報表示のあり／なしを切り替える	**【▲】**(DISP)
ハイスピード動画の再生中(スロー再生)に通常の動画の再生速度にする	**【●】**(ムービー) • 再度**【●】**(ムービー)を押すと、元のスロー再生に戻ります。ただし、"HS30-120"、"HS30-240"で撮影した画像は再生速度を切り替えることができません。
拡大する	ズームレバーを**【[]】**(🔍)側にスライド • 拡大中は、**【▲】【▼】【◀】【▶】**で拡大部分を移動できます。動画は4.5倍まで拡大できます。
再生をやめる	【MENU】

- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。
- "回転表示"(208ページ)や"縦画像回転再生"(264ページ)で回転させた状態の動画は、拡大できません。

撮影したパノラマ画像を見る

1. 【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいパノラマ画像を表示させる



2. 【SET】を押して、パノラマ画像を再生する

パノラマ画像が、左右または上下にスクロールして再生されます。

再生中にできること

再生と一時停止を切り替える	【SET】
一時停止中にコマ送りする	【◀】【▶】(スライド方向が右方向、左方向の場合) 【▲】【▼】(スライド方向が上方向、下方向の場合) • 押し続けると、連続してコマ送りします。
情報表示のあり／なしを切り替える	【▲】(DISP)
再生をやめる	【MENU】

• パノラマ画像は下記の機能が使用できません。
クイックコラージュ、モーションプリント、ムービーカット、トリミング、リサイズ、ライティング、ホワイトバランス、明るさ編集、回転表示

連写した静止画を見る

本機では、1回の連写で撮影した複数の静止画は、1つのグループにまとまった形で再生されます。

1. **【▶】(再生)を押して、【◀】【▶】で再生したいグループを表示させる**

2. 【SET】を押して、連写画像を再生する

※“高速連写”で撮影した画像の場合に表示されます。

再生中にできること

【◀】【▶】	再生中は再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し • 画像の拡大中は再生スピードの調整はできません。
【SET】	一時停止、再生の切り替え
ズームレバー	拡大、縮小 • 拡大中は、【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分を移動できます。 • 拡大していないときにズームレバーを【▯▯▯】(▪▪▪)側にスライドさせると、この連写グループ内の画像を一覧表示します。
【MENU】	グループの再生終了
【▲】(DISP)	情報表示の切り替え
【▼】	“グループ編集”メニューの表示

連写画像の消去

再生中または一時停止中に消去できます。

■ 1ファイルずつ消去する

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す
- 続けて別のファイルを消去する場合は手順3～4を繰り返します。
- 消去をやめるには、【MENU】を押してください。

■ 選択したファイルを消去する

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム消去”を選び、【SET】を押す

消去ファイル選択用の一覧画面が表示されます。

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で消去したいファイルに青枠を移動し、【SET】を押す

- 選択したファイル左下の□にチェックが入り、青枠が次の画像に移動します。
- ズームレバーを【[◭]】(🔍)側にスライドさせると画像を拡大して表示します。

5. 消去したいファイルの選択が終了したら、【MENU】を押す

6. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

- 選択したファイルが消去されます。
- 消去をやめるには、手順6で“いいえ”を選び、【SET】を押してください。

■ グループ内のすべてのファイルを消去する

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全消去”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

連写画像をグループ解除する（グループ解除）

グループ内の画像を通常の静止画のように1枚ずつの画像にできます。

■ 1グループずつグループを解除する

1. 再生モードにして、【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“選択ファイル”を選び、【SET】を押す

5. 【◀】【▶】でグループを解除したい連写グループを表示する

6. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
- 続けて別のファイルを解除する場合は手順5～6を繰り返します。

■ すべてのグループを解除する

重要

- 一度、グループを解除すると再グループ化はできません。

1. 再生モードにして、【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ解除”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“全ファイル”を選び、【SET】を押す

5. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

連写画像をコピーする(コピー)

連写画像内の画像を1枚ずつ選んでグループ外にコピーすることができます。

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す
“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】でグループ外にコピーしたいファイルを表示させる

4. 【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押す

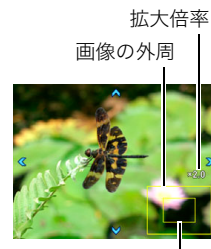
参考

- グループ内の静止画は下記の機能が使用できません。“コピー”で1枚の静止画として保存してから下記の機能をご使用ください。
  ホワイトバランス、明るさ編集、トリミング、回転表示、リサイズ

画像を拡大して表示する

1. 再生モードにして【◀】【▶】で再生したい画像を表示させる

2. ズームレバーを【🔔】(🔍)側にスライドさせて、画像を拡大表示させる



【▲】【▼】【◀】【▶】で、拡大表示される位置を変えることができます。ズームレバーを【▯▯▯】側にスライドさせると、縮小表示されます。

- 液晶モニターに情報を表示しているときは、画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 元の表示に戻るには【MENU】を押します。
- 最大8倍まで拡大できますが、画像のサイズによっては、8倍まで拡大できないことがあります。

• 拡大中に【SET】を押すと、静止画拡大倍率を保ったまま、【◀】【▶】で次の画像を見ることができます。もう一度【SET】を押すと、画像の拡大表示される位置を移動できる状態へ戻ります。

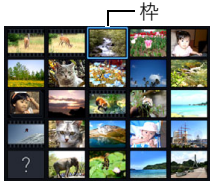
ただし、この機能は連写した画像や動画では使用できません。また、拡大した状態での【◀】【▶】では連写した画像、動画が表示されません。

画像を一覧表示する

1. 再生モードにしてズームレバーを【▮▮▮】(▪▪▪)側にスライドさせる

【▲】【▼】【◀】【▶】を押していくと、前後の画像を表示します。通常表示(1枚表示)で見たいときは【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、見たい画像に枠を合わせて【SET】を押します。

- 動画や連写した画像は先頭の画像が表示されます。
- 再生できない画像には“?”が表示されることがあります。



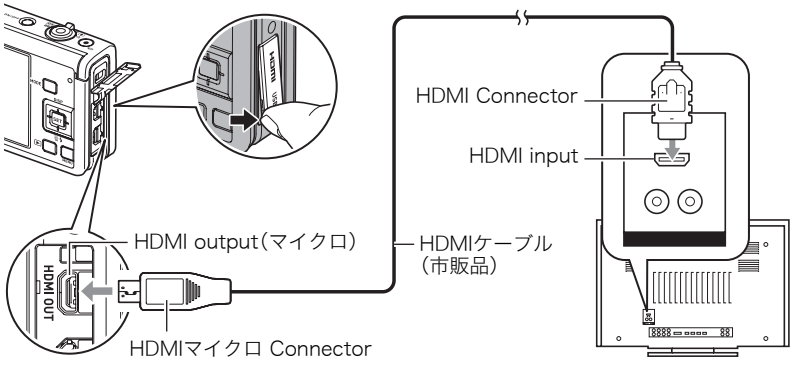
テレビで静止画や動画を見る

1. 市販のHDMIケーブルでカメラとテレビをつなぐ。

- HDMIケーブル(市販品)は右記の口ゴのあるものをお使いください。

HIGH DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

- ケーブルの抜き差しは、カメラ本体の電源を切ってから行ってください。テレビは、テレビの取扱説明書に従って設定をしてから、ケーブルの抜き差しを行ってください。



重要

- 撮影モード(“HDMIテレビ出力”(142ページ)を除く)ではテレビ出力できません。

2. テレビの映像入力を“HDMI入力”に切り替える

テレビに映像入力が2つ以上ある場合は、カメラをつないだ映像入力を選んでください。

3. 電源を入れ、【▶】(再生)を押す

テレビの画面に画像が表示されます(液晶モニターには何も表示されません)。

4. 以後、カメラで再生の操作を行う

重要

- 音声は最大で出力されます。はじめにテレビの音量を小さくしておき、テレビ側で音量を調節してください。

参考

- カメラ本体側はHDMIマイクロConnector、テレビ側はテレビのHDMI Connectorに合ったHDMIケーブルをご使用ください。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。
- カメラ本体と接続機器のHDMI output(出力端子)同士での接続は故障の原因となりますので行わないようにしてください。
- HDMI出力を行わない場合は、接続したHDMIケーブルを抜いてください。カメラ本体の表示が正常に動作しない場合があります。

■ HDMI出力の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→ HDMI出力

HDMIケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号の形式が変更できます。

オート	接続したテレビに合った形式に自動的に切り替わります。 通常はこの設定でご使用ください。
1080i	1080i形式で出力します。※
480p	480p形式で出力します。
576p	576p形式で出力します。

※1080iは、1080 60iに対応していますが、1080 50iには対応していません。そのため、1080iの60iに対応していないPAL受信地域でのデジタルTVをご使用の際には、576p出力となる場合があります。PAL受信地域で、オートで表示されない場合は、576pに設定を変更してください。

- “オート”でテレビに表示されない場合には、テレビに合わせて他の設定に変更してください。

重要

- テレビとカメラがHDMIケーブルで接続された状態では“HDMI出力”の設定は変更できません。いったんカメラからHDMIケーブルを抜いて“HDMI出力”の設定を変更してください。

再生時のその他の機能(PLAY MENU)

ここでは再生モードで操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作方法については、144ページをご覧ください。

カメラとスマートフォンを接続する(無線モード)

操作手順:【▶】(再生) → 【MENU】 → ▶ PLAY MENUタブ→ 無線モード

詳しくは218ページをご覧ください。

フロントシャッターに機能を割り当てる(フロントシャッター)

操作手順:【▶】(再生) → 【MENU】 → ▶ PLAY MENUタブ→ フロントシャッター

再生モード時にフロントシャッターを押した場合の動作を設定できます。

設定項目	再生画面のアイコン表示	設定内容
標準		撮影モードに切り替わります。

設定項目	再生画面のアイコン表示	設定内容
クイックコラージュ		コラージュ画像を自動で作成します(194ページ)。 フロントシャッターを押してコラージュ画像を作成するときは、レイアウトを選ぶことができません。
クイック送信		表示している画像を無線LAN経由でスマートフォンに送信します(227ページ)。
スライドショー		スライドショーを開始します(195ページ)。
グループ外コピー		表示しているグループ内の画像1枚をグループ外にコピーします(186ページ)。
切		フロントシャッターに機能を割り当てない。

コラージュ画像を作成する(クイックコラージュ)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→ クイックコラージュ

撮影した複数の静止画を組み合わせ、1枚にまとめた画像(コラージュ画像)を作成できます。

1. **【◀】【▶】で使用したいレイアウトを選ぶ**

2. **【SET】を押す**

コラージュ画像が作成され、保存されます。

- コラージュ画像は、クイックコラージュ操作に入る前に表示していた静止画を含む、3枚または4枚の静止画を組み合わせて作成されます。

参考

- フロントシャッター(192ページ)に“クイックコラージュ”を割り当てると、フロントシャッターを押すだけで簡単にコラージュ画像が作成できます。ただし、レイアウトは前回選択したものとなります。
- コラージュ画像作成時に、組み合わせる静止画は自由に選択できません。
- 以下の画像はコラージュ画像に加工できません。
  パノラマ画像、連写グループ画像、モーションプリント機能で作成した画像、クイックコラージュで作成した画像、動画
- 本機で再生できない画像があるときは、コラージュ画像を作成できない場合があります。その場合は“画像が足りないため　作成できませんでした。”というメッセージが表示されます。

自動的にページ送りして楽しむ(スライドショー)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→ スライドショー

開始	スライドショーを開始します。
表示画像	スライドショーで再生させるものを選びます。 全画像:静止画、動画、連写画像 除く全画像:連写画像以外の画像 のみ:静止画のみ のみ:動画のみ のみ:タイムラプスのみ
時間	スライドショー開始から終了までの時間を設定します。 3分、5分、10分、15分、30分、60分
間隔	切り替わりの間隔を設定します。 1秒、3秒、5秒、10秒、15秒、20秒、30秒、または"最速"を【▲】【▼】で選びます。 "最速"以外を選ぶと、動画と連写画像は最初から最後まで再生されます。 "最速"を選ぶと、動画と連写画像は最初の1コマだけ表示されます。

エフェクト	希望のエフェクト(特殊効果)を選びます。 パターン1～5:特殊効果をまじえながら画像を切り替えて表示します。 BGMも再生します。 • “パターン2～4”の特殊効果は同じですが、BGMがそれぞれ異なります。 • “パターン5”は静止画(連写画像、動画を除く)のみの再生となります。また“間隔”の設定も無効になります。 • グループ内の静止画は、グループごとではなく、1枚撮影モードで撮影された静止画と同じように表示されます。 • 下記の場合は、特殊効果が無効になります。 – 表示画像を“のみ”または“のみ”にした場合 – 間隔を“最速”、“1秒”にした場合 – 動画の再生の前後 切:特殊効果とBGMの再生をしません。

- 【SET】を押すとスライドショーを中断します。また、【MENU】を押すと中断してメニューに戻ります。
- 音量を調節するには、再生中に【▼】を押したのち【▲】【▼】を押します。
- 画面の切り替わり中はボタン操作ができません。
- 本機以外で撮影した画像では、切り替わる間隔が長くなる場合があります。

好みのBGMをパソコンからメモリーへコピーする

スライドショーの“エフェクト”を実行したときの内蔵BGMを、好みのBGMに切り替えることができます。

使用可能なファイル

- PCM形式(16ビット、モノラル／ステレオ)のWAVファイル
- サンプリング周波数:11.025kHz／22.05kHz／44.1kHz

使用可能なファイル数:9ファイル
ファイル名:SSBGM001.WAV～SSBGM009.WAV

- パソコンには、上記の名称で保存してください。
- どのエフェクトパターンを選んでも、切り替えたBGMをファイル名の順で繰り返し連続再生します。

1. カメラとパソコンを接続する(245、253ページ)

メモリーカードにBGMファイルを入れたいときは、あらかじめカメラにメモリーカードを入れておいてください。

2. 次のように操作して、メモリーカードまたは内蔵メモリーを開く

「リムーバブルディスク（ドライブ）」として認識します。

- Windows
  ① Windows 10：“スタート”→“エクスプローラー”の順でクリックし、サイドバーにある“PC”をクリックする
  Windows 8.1／Windows 8：“デスクトップ”→“エクスプローラー”の順でクリック
  Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピューター”の順でクリック
  ② “リムーバブルディスク”をダブルクリック
- Macintosh
  ① 表示されたドライブをダブルクリックする

3. “SSBGM”フォルダーを作成する

4. 作成した“SSBGM”フォルダーをダブルクリックし、好みのBGMファイルをコピーする

- ファイルのコピーのしかたは、パソコンに付属の取扱説明書を参照してください。
- メモリーカードと内蔵メモリーの両方にBGMファイルを入れた場合は、メモリーカードが優先されます。
- フォルダーについては258ページを参照してください。

5. カメラをパソコンから取り外す（248、254ページ）

動画の一部をカットする(ムービーカット)

操作手順:【▶】(再生)→カットしたい動画を表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→ムービーカット

以下の3通りの方法で動画の一部をカット(削除)できます。

前をカット	選択した場面から前をカットします。
中間をカット	選択した場面と場面の間をカットします。
後をカット	選択した場面から後をカットします。

1. 【▲】【▼】でカット方法を選び、【SET】を押す

2. 以下の操作で、カットしたい位置(境界のコマ)を探す

【◀】【▶】	再生中は、再生方向と再生スピードの調整 一時停止中はコマ送り、コマ戻し
【SET】	一時停止、再生切り替え

カットされる範囲
(青い部分)

3. カットしたい位置が決まったら、【▼】を押す

前をカット	カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
中間をカット	①カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す ②カットしたい最後の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す
後をカット	カットしたい先頭の場面(コマ)が決まったら、【▼】を押す

4. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押す

カットには、しばらく時間がかかります。“処理中です　しばらくお待ちください”の表示が消えるまで待ってください。カットする動画が長いときは時間がかかることがあります。

重要

- カット編集すると、元の動画は残りません。一度カットすると、カットした場面を元に戻すことはできません。

参考

- 5秒未満の短い動画は、カットできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- カットしようとしている動画ファイルよりも残りのメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。不要なファイルを消去するなどして、残りのメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けることはできません。
- 動画再生中に【SET】を押して一時停止し、【▼】を押してカットすることもできます。

2つの動画をつなぎ合わせて1つの動画にする(ムービー結合)

操作手順:【▶】(再生)→結合させたい動画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→ムービー結合

再生時間が10分未満で、動画画質とフレームレートが同じ2つの動画をつなぎ合わせて、1つの動画に加工できます。ただし、ハイスピード動画は、結合できません。

1. 【◀】【▶】で結合したい動画を選ぶ

【MENU】を押す前に表示していた動画に結合できる動画だけが表示されます。

2. 【▲】【▼】で"作成"を選び、【SET】を押す

手順1で選んだ動画が、【MENU】を押す前に表示していた動画の後に結合されます。

- 結合する前の2つの動画は、元のまま残ります。

参考

- 動画画質がFHDまたはHDの場合、撮影モードやシーンによってフレームレートが異なるため(165ページ)、選んだ動画によっては結合できないことがあります。
- 本機以外のカメラで撮影した動画は、結合できません。
- 結合前の動画も残るので、空き容量が十分にあるメモリーカードを使用してください。
- 動画によっては、結合に時間がかかることがあります。

動画から静止画を作成する(モーションプリント)

操作手順:【▶】(再生)→素材にしたい動画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→モーションプリント

1. 【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探す
【◀】【▶】を押し続けると、早戻し/早送りができます。

2. 【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押す
- このカメラで撮影した動画以外は、モーションプリントできません。

画像の明るさを最適化する(ライティング)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→ライティング

撮影した画像の明るい所と暗い所の明るさのバランスを+2(明るい)から0(補正なし)で調整できます。

参考
- 撮影時にライティング補正をした方が、より良好な結果が得られます(167ページ)。
- 補正した画像は、補正する前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の色味を変える(ホワイトバランス)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→ホワイトバランス

撮影した静止画像の色味を、さまざまな光源下で撮影したような色味に変えることができます。

太陽光	晴天時の野外で撮影したような色味
曇天	薄雲〜雨天の野外や木陰などで撮影したような色味
日陰	ビルや木の陰など極端に色温度が高いところで撮影したような色味
昼白色	白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
昼光色	昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えて撮影したような色味
電球	電球の雰囲気を消して撮影したような色味
キャンセル	色味の変更を中止

参考

- 撮影時にホワイトバランスを補正することもできます(65ページ)。
- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

画像の明るさを変える(明るさ編集)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→
▶ PLAY MENUタブ→明るさ編集

+2(画像がもっとも明るい)から−2(画像がもっとも暗い)までの5段階から選べます。

参考

- 補正前の画像はそのまま残ります。
- 補正した画像をカメラで表示した場合、日付は補正した日付ではなく、撮影した日付が表示されます。

印刷する画像を選ぶ(プリント設定)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→
▶ PLAY MENUタブ→プリント設定(DPOF)

詳しくは236ページをご覧ください。

ファイルを消去できないようにする(プロテクト)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→プロテクト

選択ファイル	ファイルごとにプロテクトをかけます。 ①【◀】【▶】でプロテクトをかけたいファイルを選ぶ •ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。 ②【SET】を押す プロテクトがかかり、"🔑"が表示されます。 ③続けて別のファイルにプロテクトをかける場合は手順①、手順②を繰り返す プロテクトの設定をやめるには、【MENU】を押します。プロテクトを解除するにはプロテクトがかかっているファイルを選び、【SET】を押します。
全ファイル	すべてのファイルにプロテクトをかけます。 ①【▲】【▼】で"全ファイル　オン"を選び、【SET】を押す ②【MENU】を押す すべてのファイルのプロテクトを解除するには、手順①で"全ファイル　オフ"を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(271ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ グループ内の画像ごとにプロテクトする

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んで消去できないようにすることができます。

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプロテクトしたい画像を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、“ ”が表示されます。

- ズームレバーをスライドすると、1枚表示に切り替わります。
- プロテクトを解除するには、プロテクトがかかっているファイルを選んで【SET】を押します。
- この操作を終えるには【MENU】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(271ページ)を行うと、消去されてしまいます。

■ グループ内のすべての画像をプロテクトする

連写グループ内のすべての画像が消去できないようにすることができます。

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プロテクト”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】で“全フレーム オン”を選び、【SET】を押す

プロテクトがかかり、“ ”が表示されます。

- すべてのファイルのプロテクトを解除するには、“全フレーム オフ”を選んで【SET】を押します。

重要

- プロテクトをかけたファイルでも、フォーマット操作(271ページ)を行うと、消去されてしまいます。

撮影画像の日時を修正する(日時編集)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→日時編集

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

日時を変更した後は“決定”にカーソルを合わせ、【SET】を押して修正結果を確定させます。

- 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、“am(pm)”/“24h”にカーソルを合わせ、【▲】【▼】を押します。

参考

- タイムスタンプ機能(263ページ)で写し込んだ日付と時刻は修正できません。
- プロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。
- 入力できる日付は、1980年～2049年です。

画像を回転させる(回転表示)

操作手順:【▶】(再生)→静止画または動画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→回転表示

1. 【▲】【▼】で“回転”を選び、【SET】を押す

【SET】を押すごとに、90° 左回りに回転します。

2. 希望の表示状態になったら【MENU】を押す

参考

- 連写画像はグループ単位で一括して回転されます。連写グループ内の画像を個別に回転することはできません。
- パノラマ画像は回転できません。
- 画像データそのものが回転するわけではありません。液晶モニターでの表示のしかたを変えているだけです。
- プロテクトをかけた画像、拡大表示された画像を回転させることはできません。
- 画像一覧表示では、回転前の画像が表示されます。

画像サイズを小さくする(リサイズ)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→リサイズ

撮影した静止画のサイズを小さくして、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。リサイズ後の画像は10M/3M/VGAの3種類が選択できます。

- "3:2"、"16:9"の画像をリサイズすると、画像の両脇が削られ、画像の横縦比が4:3になります。
- リサイズした静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。
- モーションプリントで作成した静止画はリサイズできません。

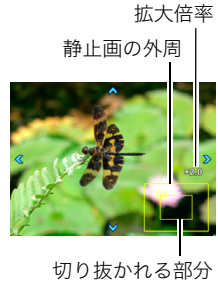
静止画の一部を切り抜く(トリミング)

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→トリミング

撮影した静止画の一部を切り抜いて、新しい静止画として保存できます。元の静止画も残ります。

ズームレバーで静止画を拡大/縮小、【▲】【▼】【◀】【▶】で表示位置を変えるなどして、切り抜く部分を決めて【SET】を押します。

- "3:2"、"16:9"の画像をトリミングすると、画像の横縦比が4:3になります。
- トリミング後の静止画の日付は、元の静止画を撮影した日付になります。



ファイルをコピーする(コピー)

操作手順:【▶】(再生)→静止画または動画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→コピー

内蔵メモリーからメモリーカードへ、またはメモリーカードから内蔵メモリーへ、ファイルをコピーすることができます。

内蔵→カード	内蔵メモリーからメモリーカードにコピーします。 この操作では、すべてのファイルがコピーされます。1ファイルずつ指定してコピーすることはできません。
カード→内蔵	カード内のファイルをひとつずつ内蔵メモリーにコピーできます。ファイルは、内蔵メモリーの一番大きい番号のフォルダーにコピーされます。 • 連写グループ画像はコピーできません(186ページ)。 ①【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選ぶ ②【▲】【▼】で"コピー"を選び【SET】を押す

参考

• コピーできるのは、カメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。

連写画像を1枚の静止画にまとめる(連写マルチプリント)

操作手順:【▶】(再生)→素材にしたい連写グループを表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→連写マルチプリント

1. 【▲】【▼】で“作成”を選ぶ

- 【◀】【▶】で他の連写グループを選ぶことができます。

2. 【SET】を押す

縦5コマ、横6コマの最大30コマの画像(16M(4608×3456))に変換します。

- このカメラで撮影した連写グループ以外は、連写マルチプリントできないか、正しく変換されないことがあります。
- 変換後の静止画の日付は、元の画像を撮影した日付になります。
- 縦方向に再生される連写グループと横方向に再生される連写グループとでは、変換後の画像の配置順と向きが異なります。

連写画像をグループ解除する(グループ解除)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→グループ解除

詳しくは184ページをご覧ください。

連写画像を編集する(グループ編集)

操作手順:【▶】(再生)→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→ グループ編集

詳しくは下記をご覧ください。

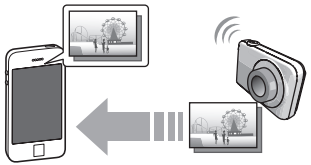
プリント設定(DPOF):236ページ
プロテクト:206ページ
コピー:186ページ
消去:182ページ

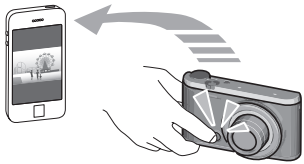
カメラとスマートフォンを接続する(無線接続)

スマートフォンでできること

本機はBluetooth無線技術での接続機能と無線LAN接続機能の２つを搭載しています。本機とスマートフォンを無線で接続すると、次のことができます。操作には、スマートフォンに専用アプリ“EXILIM Connect”をインストールする必要があります。

- 本機はBluetooth® Smart機器です。
- 本機とBluetooth Smart対応のスマートフォンをBluetooth無線技術で接続することができます。

できること	内容
自動送信 	Bluetoothでペアリング済みのスマートフォンに、撮影ごとに自動で画像を送信できます(231ページ)。

できること	内容
スマートフォンで撮影 	スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影できます(225ページ)。
クイック送信 	再生モードで表示している画像を、カメラのフロントシャッターを使ってスマートフォンに送ることができます。また、画像送信後にスマートフォンからSNSに送ることもできます(227ページ)。
スマートフォンへ送る 	カメラで撮影した静止画や動画を選んで、スマートフォンに送信できます。また、画像送信後にスマートフォンからSNSに送ることもできます(228ページ)。

できること	内容
スマートフォンから見る 	カメラに保存されている静止画をスマートフォンで見たり、静止画や動画をスマートフォンにコピーして見ることができます。また、パソコンでもカメラに保存されている静止画や動画を見たり、コピーすることができます(228ページ)。

本製品には電波法に基づく工事設計認証(認証番号:007-AC0201)を受けた特定無線設備を内蔵しています。

重要

- 航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、本機を機内モードに設定してください。
- スマートフォンの機種によっては、受け取った動画をスマートフォンで再生できないことがあります。
- スマートフォン、OSのバージョン、ストレージの空き状況によって、動画や静止画がスマートフォンに保存されないことがあります。スマートフォンで画像を受信したあとは、スマートフォンで保存されていることを確認してください。

- Android端末で受け取った動画について
  - “ギャラリー”アプリには動画は表示されません。動画は“EXILIM Connect”フォルダーに保存されます。
  - 再生には、動画(拡張子がMOVの動画ファイル)が再生できる動画プレーヤーが別途必要です。
  - お使いの動画プレーヤーによっては、動画が再生できなかったり、音声が出ないことがあります。
- 他社のカメラで撮影した画像は、送信できません。
- 本機で無線機能付きメモリーカードを使用すると、不具合が生じる可能性があります。

参考

- 無線機能を使用すると、通常よりも消費電力が大きくなります。電池が十分に残っている状態で使用してください。
- 操作可能範囲は、通信環境や接続するスマートフォンの機種によって変わります。

■ EXILIM Connectについて

専用アプリ“EXILIM Connect”の詳しい情報については、EXILIM Connectの取扱説明書(下記のWebサイトからダウンロードすることができます)を参照ください。

http://www.exilim.com/manual/

- EXILIM Connectの取扱説明書をダウンロードする場合は、最初に言語(Japanese／日本語)を選択してください。
- EXILIM Connectの取扱説明書を見るためにはAdobe Reader をインストールする必要があります。取扱説明書を見ることができない場合は、「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

無線モードについて

本機にはさまざまな無線モードがあります。必要に応じて選んでください。

1. 撮影モードまたは再生モードにして、【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“ REC MENU”タブまたは“ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“無線モード”を選び、【SET】を押す
無線モード画面が表示されます。

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】で使用したい無線モードを選び、【SET】を押す

スマートフォンへ送る	
	カメラで撮影した画像をスマートフォンで見るときに選びます(228ページ)。
ペアリング	
	本機とスマートフォンをBluetooth無線技術で接続するときに選びます(222ページ)。
スマートフォンで撮影	
	スマートフォンでリモート撮影するときに選びます(225ページ)。

無線設定
無線接続の設定をするときに選びます(230ページ)。

■ 無線接続時に画面に表示されるアイコンについて

カメラとスマートフォンの無線接続設定を行うと、カメラの画面に通信状態を示すアイコンが表示されます。

	半透明	ペアリングは完了していますが、Bluetooth無線技術による接続はされていません。
	不透明	ペアリングが完了し、Bluetooth無線技術で接続中です。
	半透明	無線LANはオンになっていますが、接続されていません。
	不透明	無線LANで接続中です。
	不透明	無線LANで接続中で、画像データを送信中です。
	不透明	カメラが機内モードになっています。

スマートフォンをカメラに接続するための準備

スマートフォンに専用アプリ“EXILIM Connect”をインストールすると、スマートフォンをカメラのリモコンとして使ったり、撮影した画像をスマートフォンに転送できます。専用アプリ“EXILIM Connect”は、Google PlayまたはApp Storeで“EXILIM Connect”を検索して、スマートフォンにインストールしてください。

■ アプリの動作保証について

EXILIM Connect(アプリ)は、すべてのスマートフォンまたはタブレットで動作を保証するものではありません。

重要

- アプリが対応しているOSのバージョンは、Google PlayおよびApp Storeで確認してください。
- アプリの機能および動作環境は、予告なしで変更される場合があります。

スマートフォンに“EXILIM Connect”をインストールする

■ Android端末の場合

1. “Google Play”を開く

2. 検索フィールドに“EXILIM Connect”と入力する

3. “EXILIM Connect”をインストールする

■ iPhone(iOS)の場合

1. “App Store”を開く

2. 検索フィールドに“EXILIM Connect”と入力する

3. “EXILIM Connect”をインストールする

最初に無線接続設定をする

初めてスマートフォンをカメラに無線で接続するときは、無線接続設定が必要になります。この操作は初回のみ必要になります。

■ Bluetooth Smart対応のスマートフォンの場合

本機とスマートフォンをBluetooth無線技術で接続すること（ペアリング）により、簡単に無線接続設定を行うことができます。

重要

- この操作を行うと、スマートフォンの無線LANの接続設定（224ページ）は自動的に行われます。
- スマートフォンの機種によっては、動作しない場合があります。
- すでにペアリングしている状態で再度ペアリングをすると、一度ペアリングを解除してから、ペアリングし直します。このとき未送信の画像は送信されなくなります。

カメラの操作

1. 無線モード画面を表示する（218ページ）

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ペアリング”を選び、【SET】を押す

3. “開始”を選び、【SET】を押す

スマートフォンの操作

4. “EXILIM Connect”を起動する

5. “カメラとペアリングする”をタップする

6. アプリおよびスマートフォンの指示に従って、接続作業を行う

カメラとスマートフォンをBluetooth無線技術で接続します。

- EXILIM Connectの無線接続設定操作については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(217ページ)。

カメラの操作

7. 【SET】を押す

8. 撮影ごとに画像をスマートフォンに送信したい場合は“入にする”を、画像をスマートフォンに送信しない場合は“入にしない”を選び、【SET】を押す

参考

- ペアリングした後は、カメラ本体の電源を切っても、Bluetooth無線技術が作動しているため、電池が消耗します。カメラを使用する前に、いったん電池を充電することをおすすめします。
- 電池を取り出すとBluetooth無線技術の接続は解除されますが、電池を入れてカメラの電源を入れ直すと、自動で再接続します。

■ Bluetooth Smart非対応のスマートフォンの場合

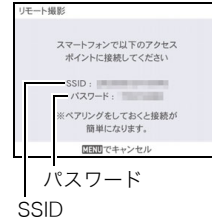
スマートフォンの無線LANの接続設定(カメラのSSIDとパスワードの入力)を行います。

1. 無線モード画面を表示する(218ページ)

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンで撮影”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“リモート撮影開始”を選び、【SET】を押す

スマートフォンから接続できる状態になり、SSIDとパスワードが表示されます。



4. スマートフォンのWi-Fiの設定にカメラのSSIDとパスワードを入力する

カメラの液晶モニターに“スマートフォンのアプリを起動してください”というメッセージが表示されたら、スマートフォンがカメラに無線LANで接続された状態になります。

- 無線LANで接続するための設定方法は、スマートフォンによって異なります。無線LAN(Wi-Fi)の接続方法については、スマートフォンの取扱説明書でご確認ください。

■ スマートフォンとカメラが無線LANで接続できないときは

すでに下記の無線LANと接続している可能性があります。スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラのSSIDを選んでください。

– 家庭内の無線LAN
– 公衆無線LAN
– 携帯型無線LAN機器

スマートフォンをカメラのリモコンとして使う（スマートフォンで撮影）

スマートフォンを使用して、離れたところからカメラを操作して撮影（リモート撮影）できます。スマートフォンからは、静止画や動画の撮影だけでなく、ズームやセルフタイマーなどの操作もできます。

1. 無線モード画面を表示する（218ページ）

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンで撮影”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“リモート撮影開始”を選び、【SET】を押す

以降、“スマートフォンで撮影”の使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください（217ページ）。

カメラで撮影した画像を選んでスマートフォンに送る（選択して送る）

カメラで撮影した静止画や動画を選んでスマートフォンに送信できます。一度に送信できるファイルは100枚、または合計容量が500MBまでです。また、画像送信後にSNSに送ることもできます。

1. 無線モード画面を表示する（218ページ）

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンへ送る”を選び、【SET】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択して送る”を選び、【SET】を押す

4. 【▲】【▼】【◀】【▶】でスマートフォンに送りたい画像に赤枠を移動して、【SET】を押す

選んだ画像にチェックマークが付きます。

- ズームレバーを【[🔍]】（🔍）側にスライドさせると画像を拡大して表示できます。
- スマートフォンに画像を送るのをやめるには、【▶】（再生）を押してください。

5. スマートフォンに送りたい画像をすべて選んだら、【MENU】を押す

以降、“選択して送る”の使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください（217ページ）。

フロントシャッターを押すと、画像を送るように設定する（クイック送信）

再生モードで表示している画像（動画を含む）を、カメラのフロントシャッターを使ってスマートフォンに送ることができます。また、画像送信後にSNSに送ることもできます。

- クイック送信で画像をスマートフォンに送るには、フロントシャッターにクイック送信の機能を割り当てる必要があります。

1. 再生モードにして【MENU】を押す

2. 【◀】を押し、【▲】【▼】で“▶ PLAY MENU”タブを選んで【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“フロントシャッター”を選び、【▶】を押す

4. 【▲】【▼】で“クイック送信”を選び、【SET】を押す

以降、“クイック送信”の使用方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください（217ページ）。

カメラで撮影した画像をスマートフォンで見る（スマートフォンから見る）

スマートフォンをカメラと無線LAN接続することで、最大8台のスマートフォンのブラウザーからカメラに保存されている静止画を見たり、静止画や動画をコピーして見ることができます。また、パソコンをカメラと無線LAN接続することで、パソコンでカメラに保存されている静止画や動画を見たり、コピーすることができます。この機能は、専用アプリ“EXILIM Connect”がスマートフォンにインストールされていない状態でも使用できます。

1. 無線モード画面を表示する（218ページ）

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“スマートフォンへ送る”を選び、【SET】を押す

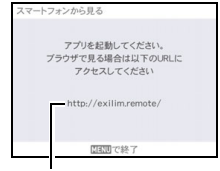
3. 【▲】【▼】で“スマートフォンから見る”を選び、【SET】を押す

スマートフォンがカメラに接続され、URLが表示されます。

- “スマートフォンで以下のアクセスポイントに接続してください”というメッセージが消えない場合は、スマートフォンのWi-Fi設定で本機を選んでください（222ページ）。
- 約60秒後にカメラの液晶モニターの表示が消えます。カメラの【SET】を押すと、表示が戻ります。

4. スマートフォンのブラウザーアプリを起動する

- カメラに表示されたURLにアクセスすると、カメラに保存されている画像が表示されます。
- 無線LAN機能を終了するには、カメラの【MENU】を押してください。



URL

重要

- スマートフォンの機種によっては、動画が再生できないことがあります。

参考

- パソコンの無線LANを設定してカメラと接続すると、パソコンのブラウザーでカメラに保存されている画像を見ることもできます。
- EXILIM Connectを起動して画像を見る方法については、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(217ページ)。

無線接続の設定をする

ここでは、無線モードでの操作や設定できる項目について説明します。

1. 無線モード画面を表示する（218ページ）

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“無線設定”を選び、【SET】を押す
無線設定画面が表示されます。

3. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【SET】を押す

4. 選んだ項目の設定を変更する

5. 設定の変更が完了したら、【SET】を押す
- 【MENU】を押すと、選んだ内容がキャンセルされ、無線モード画面に戻ります。

本機を機内モードにする（機内モード）

項目名：機内モード

“入”にすると、スマートフォンと無線で接続できなくなります。病院内や飛行機内など、電波を発信しないようにしたい場合は、本機を機内モードにしてください。

撮影ごとに画像をスマートフォンに送信する(自動送信)

項目名:自動送信

“入”にして撮影すると、ペアリングしているスマートフォンに画像が自動で送信されます。撮影時にスマートフォンと無線で接続していない場合は、スマートフォンと接続できしだい、画像が送信されます。

重要

- 自動送信は、カメラとスマートフォンがペアリング(222ページ)していないと“入”に設定できません。

参考

- 自動送信できるのは、Bluetooth Smart対応のスマートフォンだけです。また、カメラの画像が自動送信されるには、Bluetoothと無線LANの両方が接続されている必要があります。
- カメラとスマートフォンが接続中は、カメラの画面に以下のアイコンが表示されます。
  - 無線LANで接続中:
  - Bluetooth無線技術で接続中:
- 送信する静止画の画像サイズは、“送信時リサイズ”(232ページ)で設定できます。
- スマートフォンで受け取った画像は以下で確認できます。
  - iPhone:“写真”アプリの“カメラロール”
  - Android端末:“ギャラリー”、”フォト”などの写真閲覧アプリ
- 機内モード(230ページ)を“入”にすると、自動送信は停止します。“切”にすると送信が再開します。
- 自動送信を“入”にして撮影した画像は、自動送信を“切”に設定してもスマートフォンに送信されます。
- 自動送信を“入”にすると、ファイルを消去するときと電源を切るときにメッセージが表示される場合があります。

- 未送信の画像が残った状態でカメラの電源を切ろうとすると、メッセージが表示されます。画像を送信する場合は、送信が完了するまで電源を切らずにそのままお待ちください。再度【ON/OFF】(電源)を押すと電源を切ることができます。
- 未送信の画像が残った状態でカメラとスマートフォンの接続が切れた場合、メッセージが表示されてから1分後に自動的にカメラの電源が切れます。この場合は、再度カメラの電源を入れたときに送信が再開します。

自動送信で送信する画像を選ぶ(自動送信ファイル設定)

項目名:自動送信ファイル設定

自動送信機能でスマートフォンに送信する画像の種類を指定します。

静止画と動画	静止画と動画が送られます。
静止画のみ	静止画のみが送られます。

重要

- 自動送信機能で送信できる動画の1ファイルサイズは100MBまでです。

静止画をリサイズしてスマートフォンに送信する(送信時リサイズ)

項目名:送信時リサイズ

"クイック送信"または"スマートフォンで撮影"で直前に撮影した画像をスマートフォンに送信する、または"スマートフォンへ送る"を使用して画像を送信するときにリサイズできます。

3M	3Mにリサイズされて送信されます。 • 3M以下の画像の場合は、撮影時のサイズで送信されます。
切	撮影時の画像サイズで送信されます。

無線LAN接続時のカメラのパスワードを変更する（無線LANパスワード）

項目名：無線LANパスワード

カメラにスマートフォンを無線LANで接続するときに使用するパスワードを変更できます。

重要

- 無線LANパスワードの変更は、ペアリングを解除してから行ってください（234ページ）。

1. **【◀】【▶】で変更したい値にカーソルを合わせる**

2. **【▲】【▼】で値を変更する**

3. **設定が完了したら、カーソルを“決定”に合わせて【SET】を押す**

参考

- 無線LANパスワードを変更すると、スマートフォンとの接続が解除されますので、再度無線接続設定を行ってください（222ページ）。なお、Bluetooth Smart非対応のスマートフォンの場合は、下記のように操作して、スマートフォンのWi-Fi設定も変更してください。
  - iPhone：
    Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄の右矢印をタップし、ネットワークの設定を削除してください。削除後、再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。
  - Android端末：
    Wi-Fiの設定のカメラのSSIDを表示している欄をタッチし、いったん切断を選択してください。再びカメラのSSIDを選択して、新しいパスワードを入力してください。

ペアリングを解除する(ペアリング解除)

項目名: ペアリング解除

ペアリングを解除します。

本機を他のスマートフォンに接続する場合は、ペアリングを解除してください。

参考

- ペアリングを解除するときは、スマートフォンでもペアリングを解除する操作を行ってください。詳しくは、EXILIM Connectの取扱説明書をご覧ください(217ページ)。
- ペアリングを解除すると、未送信の画像は送信されなくなります。

プリント(印刷)する

静止画のプリント方法

お店で　プリントする※

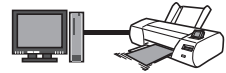
画像が入ったメモリーカードを、**プリントサービスのお店**に持参してプリントします。

プリンターで　プリントする※

プリンターのスロットにメモリーカードを直接セットしてプリントできます。詳しくは、プリンターに付属の説明書に従って操作してください。

パソコンを使って　プリントする

画像をパソコンに取り込んだ後、市販のプリントソフトを使ってプリントします。



※プリントしたい画像や枚数、日付の情報を設定しておくことができます。→236ページ

プリントする画像や枚数を指定しておく(プリント設定(DPOF))

■ DPOF(Digital Print Order Format)とは

プリントしたい「画像の種類」「枚数」「日付印刷の有無」を設定し、メモリーカードなどの記録媒体に記録するための規格です。DPOF対応の家庭用プリンターやプリントサービス店でプリントすることができます。

- プリンターによっては、DPOFに対応していない場合があります。
- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合があります。

■ 画像ごとにプリント枚数を指定する

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→▶ PLAY MENUタブ→プリント設定(DPOF)→選択画像

1. **【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる**

2. **【▲】【▼】でプリントする枚数を決める**

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は"00"にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を"あり"にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順1～2を繰り返してください。

3. **【SET】を押す**

■ すべての画像に同じプリント指定をする

操作手順:【▶】(再生)→静止画を表示→【MENU】→ ▶ PLAY MENUタブ→プリント設定(DPOF)→全画像

1. **【▲】【▼】でプリントする枚数を決める**

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 連写グループ内のすべての画像も指定した枚数で印刷されます。
- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。

2. **【SET】を押す**

■ グループ内の画像ごとにプリント枚数を指定する

連写グループ内の画像を1枚ずつ選んでプリントする枚数を指定することができます。

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“選択フレーム”を選び、【SET】を押す

4. 【◀】【▶】でプリントしたい画像を表示させる

5. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。
- 他の画像をプリントする場合は、手順4～5を繰り返してください。

6. 【SET】を押す

■ グループ内のすべての画像に同じプリント指定をする

連写グループ内のすべての画像に同じプリント指定をすることができます。

1. 連写グループを再生しているとき、または一時停止中に【▼】を押す

“グループ編集”のメニューが表示されます。

2. 【▲】【▼】で“プリント設定(DPOF)”を選び【▶】を押す

3. 【▲】【▼】で“グループ内全フレーム”を選び【SET】を押す

4. 【▲】【▼】でプリントする枚数を決める

99枚まで設定できます。プリントしたくない場合は“00”にしてください。

- 日付をプリントしたい場合は、【●】(ムービー)を押して日付印刷を“あり”にします。

5. 【SET】を押す

プリントが完了してもDPOFの設定は解除されません

次回プリント時に前回設定した画像がある場合は、前回設定のままプリントされます。設定を解除する場合は、全画像プリントの枚数設定を“00”にしてください。

お店でプリントするときに気をつけていただきたいこと

お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像がプリントされたり、日付がプリントされないことがあります。

■ 日付プリントについて

以下の方法で、画像に撮影時の日付を入れてプリントできます。

カメラで設定する	DPOF機能で設定する（236ページ） 印刷するごとに、日付印刷の有無を指定できます。 日付を入れて印刷する画像と日付を入れない画像に分けることができます。
	タイムスタンプ機能で設定する（263ページ） • 撮影時点ですべての画像に日付が写し込まれますので、印刷時には必ず日付が印刷されます（写し込まれた日付は消去できません）。 • タイムスタンプ機能で日付を写し込んだ画像には、DPOF機能で日付印刷を設定しないでください。日付が二重に印刷されてしまいます。
パソコンで設定する	市販の画像編集ソフトで日付を入れてプリントする
お店に依頼する	プリントを注文するとき、お店に日付をプリントするよう依頼する

■ 本機の対応規格

- PRINT Image Matching III
  PRINT Image Matching III対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。PRINT Image MatchingおよびPRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

- Exif Print
  Exif Printは、対応プリンターをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。Exif Print対応プリンターの機種名やプリンターのバージョンアップ等については、各プリンターメーカーにお問い合わせください。

パソコンを利用する

パソコンを使ってできること

カメラをパソコンに接続して、次のことができます。

パソコンに画像を保存して見る	• 手動でパソコンに保存して見る（USB接続）（244、252ページ）。
動画を再生・編集する	• 動画を再生することができます（250、255ページ）。 再生ソフトは、使用するパソコンの動作環境に合わせてください。 • 動画を編集する場合は、必要に応じて、市販のソフトをご利用ください。

操作のしかたは、Windowsパソコンの場合とMacintoshの場合で異なります。

- Windowsパソコンの場合→「Windowsパソコンを利用する」（243ページ）
- Macintoshの場合→「Macintoshを利用する」（251ページ）

Windowsパソコンを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	Windows 10／ Windows 8.1／ Windows 8／ Windows 7／ Windows Vista	インストールする必要はありません。	244
動画の再生	Windows 10／ Windows 8.1／ Windows 8／ Windows 7	Windows Media Player 12	250
	Windows Vista	QuickTime 7以降 • 必要に応じて、ダウンロードしてご利用ください。	

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

カメラをパソコンに接続して、画像（静止画や動画などのファイル）をパソコンに保存したり、パソコンで見ることができます。

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

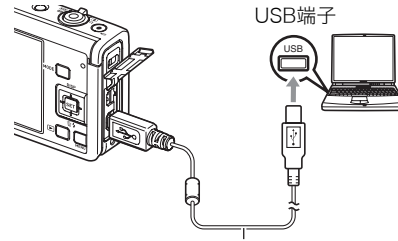
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、34ページをご覧ください。



2. 【ON/OFF】(電源)を押して、カメラの電源を入れる

カメラの電源が入ると、カメラの後面ランプが赤点灯から緑点灯またはオレンジ点灯に切り替わりますので、確認してください(35ページ)。なお、このときレンズは出てきません。また、液晶モニターは点灯しません。

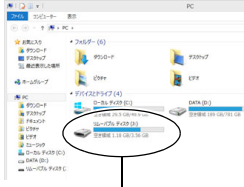
- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

3. Windows 10：“スタート”→“エクスプローラー”の順でクリックし、サイドバーにある“PC”をクリックする
Windows 8.1／Windows 8：“デスクトップ”→“エクスプローラー”の順でクリックする
Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“コンピューター”の順でクリックする

4. “リムーバブルディスク”をダブルクリックする

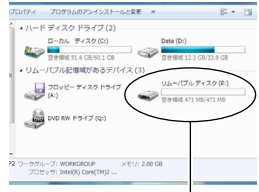
- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

Windows 8.1



リムーバブルディスク

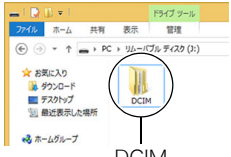
Windows 7



リムーバブルディスク

5. “DCIM”フォルダーを右ボタンでクリックする

Windows 8.1



DCIM

Windows 7

DCIM

6. メニューの“コピー”をクリックする

7. Windows 10／Windows 8.1／Windows 8：“ドキュメント”をクリックする
Windows 7／Windows Vista：“スタート”→“ドキュメント”の順でクリックする

- すでに“DCIM”フォルダーが保存されている場合は、上書きされてしまいます。すでに保存されている“DCIM”フォルダーの名前を変えるなどしてからコピーしてください。

8. Windows 10／Windows 8.1／Windows 8：“ドキュメント”メニューで、“ホーム”→“貼り付け”の順でクリックする
Windows 7／Windows Vista：“ドキュメント”メニューで、“整理”または“編集”→“貼り付け”の順でクリックする

“DCIM”フォルダー（画像ファイルが保存されているフォルダー）が“ドキュメント”フォルダーにコピーされ、画像も一緒にパソコンに保存されます。

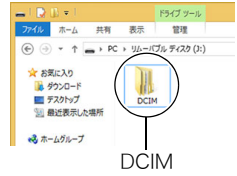
- コピーが完了したら、“DCIM”フォルダーを右ボタンでクリックし、フォルダーの名前を変更することをおすすめします。

9. コピーが終了したらカメラをパソコンから外す

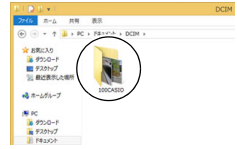
後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. コピーした“DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く

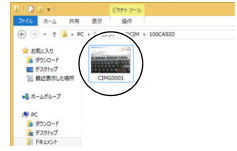


2. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く



3. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(258ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。



動画を再生する

パソコンに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。ご使用のOSによっては再生できない場合があります。その際は別途ソフトをインストールする必要があります。

- Windows 10／Windows 8.1／Windows 8／Windows 7では、Windows Media Player 12で再生することができます。
- 動画が再生できない場合は、下記アドレスからQuickTime 7以降をダウンロードし、パソコンにインストールして再生してください。
  https://www.apple.com/jp/quicktime/download/

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　：Windows 10／Windows 8.1／Windows 8／Windows 7／Windows Vista
CPU　：画質FHD、HDの場合：Core 2 Duo 3.0GHz以上
　画質STD、HSの場合：Pentium 4 3.2GHz以上
必要なソフトウェア：QuickTime 7以降（Windows 10／Windows 8.1／Windows 8／Windows 7の場合は不要です。）

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生のご注意

- 動画データは必ずパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。
- お使いのパソコンの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は以下をお試しください。
  - 動画の画質を“STD”に設定して撮影する。
  - 開いている他のソフトウェアを閉じたり、常駐ソフトを止める。

なお、パソコンで正しく動作しない場合でも、市販のHDMIケーブルを使ってHDMI端子を持ったテレビやパソコンで再生することができます。

Macintoshを利用する

使用目的	OSのバージョン	必要なソフト	参照ページ
パソコンに手動で画像を保存して表示	OS X	インストールする必要はありません。	252
パソコンに自動的に画像を保存／画像の管理	OS X	一部のMac製品本体に付属のiPhoto	–
動画の再生	OS X 10.5以降	QuickTime Player（パソコンにインストール済み）	255

画像をパソコンに保存する／パソコンで見る

内蔵メモリーやメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。
画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンに保存した画像で行ってください。

重要

- 画像を見たり保存している途中でケーブルを抜いたり、カメラの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS Xの10.0～10.4ではご使用できません。10.5～10.10のみで使用できます（OS標準のUSBドライバーを使用）。

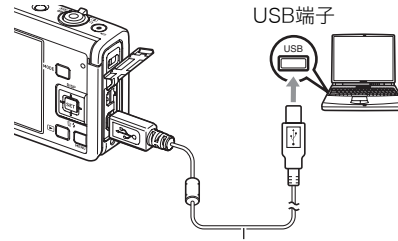
参考

- 市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットで、直接メモリーカードから画像を取り込むこともできます。詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

■ カメラとパソコンを接続してファイルを保存する

1. カメラの電源を切り、付属のマイクロUSBケーブルでカメラとパソコンのUSB端子を接続する

- カメラとの詳しい接続方法、接続時の注意などについては、34ページをご覧ください。



2. 【ON/OFF】（電源）を押して、カメラの電源を入れる

カメラの電源が入ると、カメラの後面ランプが赤点灯から緑点灯またはオレンジ点灯に切り替わりますので、確認してください（35ページ）。なお、このときレンズは出てきません。また、液晶モニターは点灯しません。

パソコンは、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。

- 初めてカメラをパソコンにUSBケーブルで接続したとき、パソコンにエラーメッセージが表示されることがあります。その場合はUSBケーブルを一度抜き差ししてください。

3. 表示されたドライブをダブルクリックする

4. “DCIM”フォルダーをデスクトップにドラッグアンドドロップして、画像をパソコンにコピーする

5. コピーが終了したらドライブを“取り出し”または“ゴミ箱”へドラッグアンドドロップする

6. カメラをパソコンから外す

後面ランプが赤く点滅していないのを確認してから、USBケーブルを外してください。

■ パソコンに保存した画像を見る

1. 表示されたドライブをダブルクリックする

2. “DCIM”フォルダーをダブルクリックして、フォルダーを開く

3. 見たい画像が入ったフォルダーをダブルクリックして開く

4. 見たい画像ファイルをダブルクリックして画像を表示させる

- ファイル名については「メモリー内のフォルダー構造」(258ページ)を参照ください。
- カメラ内で回転表示させた画像をパソコンで見た場合は、回転させる前の画像が表示されます。
- 連写グループをパソコンで見た場合、個別の画像で表示されます。グループ単位では表示されません。

動画を再生する

Macintoshに動画をコピーしてから、画像ファイルをダブルクリックして再生してください。

■ 動画再生時の動作環境

カメラで撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　　：Mac OS X 10.5以降

必要なソフトウェア：QuickTime Player（パソコンにインストール済み）

- 上記の動作環境は推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

■ 動画再生時のご注意

お使いのMacintoshの性能によっては、正しく動作しない場合があります。その場合は、以下をお試しください。

– STD動画で撮影する
– 実行中の他のソフトウェアを終了する

なお、Macintoshで正しく動作しない場合でも、市販のHDMIケーブルを使ってHDMI端子を持ったテレビやMacintoshで再生することができます。

重要

- 動画データは必ずパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

ファイルとフォルダーについて

本機では、撮影した静止画などのひとつひとつが個別のデータとして記録されます。個別のデータのことを「ファイル」と呼びます。各ファイルは、「フォルダー」と呼ばれるまとまりにグループ分けされます。ファイル、フォルダーには、区別のための名前が自動的に付きます。

- フォルダー構造の詳細は、「メモリー内のフォルダー構造」(258ページ)をご覧ください。

	名前と最大作成数	例
ファイル	“CIMG0001”から“CIMG9999”までで、最大9999個のファイルが1つのフォルダーに作成されます。拡張子は記録したファイルの形式によって異なります。	26番目に記録したファイル名: CIMG0026.JPG 連番(4桁)　拡張子
フォルダー	“100CASIO”から“999CASIO”までで、最大900のフォルダーが作成されます。	連番100のフォルダー名: 100CASIO 連番(3桁)

- フォルダー名、ファイル名は、パソコンで見ることができます。カメラの液晶モニターでの表示については、22ページをご覧ください。
- 保存できるフォルダー数、ファイル数は、サイズや画質、メモリーカードの容量によって異なります。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像は、DCF（Design rule for Camera File system）規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。

■ DCF規格について

- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見ることができます。
- 本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のプリンターで印刷することができます。
- DCF規格対応の他社のカメラの画像を本機で見ることができます。

ただし、上記項目の動作はすべて保証するものではありません。

■ メモリー内のフォルダー構造

■ このカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンに保存する際は“DCIM”フォルダーごと保存してください。その際“DCIM”フォルダーの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンに保存したファイルをカメラに戻す場合は、フォルダー名をパソコン上で“DCIM”に戻しておいてください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダーは認識されません。“DCIM”フォルダー内の他のフォルダー名を変えた場合も同様です。
- フォルダーやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダー構造が258ページのフォルダー構造のとおりである必要があります。

その他の設定について(SETTING)

ここでは撮影モードと再生モードのどちらでも操作や設定ができるメニュー項目について説明します。

メニューの操作については、144ページをご覧ください。

省電力状態にして、撮影可能枚数を増やす(エコモード)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→エコモード

液晶モニターが少し暗くなるなど、一部の機能を低い電力で動作するように切り替えることにより、電池の消耗を抑えることができます。

"入"を選ぶとエコモードに入り、プログラムオートを選択しているときは、画面上に"ECO"が表示されます。エコモードは撮影モードが"プログラムオート"のときに省電力の効果が高くなります。撮影モードは"プログラムオート"に設定することをおすすめします。

参考

- オートパワーオフ機能(266ページ)やスリープ機能(265ページ)と組み合わせることで、さらに電力の消費を抑えることができます。

液晶モニターの明るさを変える(液晶設定)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→液晶設定

オート	周囲の環境を判断して、明るい環境下では自動的に液晶が明るくなります。
+2	"+1"に比べてさらに液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。
+1	屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。"0"に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。
0	屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。
−1	夜間や屋内などの暗い場所で使用する場合の設定です。

- "+2"または"+1"に設定した状態で"エコモード"(260ページ)を"入"にすると、液晶設定は"0"に固定されます。

カメラの音を設定する(操作音)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→操作音

起動音	音色を設定します。 サウンド1〜5:内蔵されたサンプル音が鳴ります。 切:音は鳴りません。
ハーフシャッター	
シャッター	
操作音	
操作音量	操作音の音量を設定します。テレビ出力時(188ページ)の音量にも反映されます。
再生音量	動画の音量を設定します。テレビ出力時(188ページ)の音量には反映されません。

- 音量を“0”に設定すると、音は鳴りません。

画像保存用のフォルダーを作成する(フォルダー作成)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→フォルダー作成

フォルダー作成	新しい番号のフォルダーを作ります(257ページ)。次回撮影時から、このフォルダーにファイルが保存されます。
キャンセル	フォルダーを作成しません。

- フォルダー内のファイルをすべて消去すると、作成したフォルダーも削除されます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→タイムスタンプ

撮影時に静止画の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

例)2016年7月10日 午後1時25分

日付	2016/7/10
日付+時刻	2016/7/10 1:25pm
切	日付/時刻は写し込まれません。

- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- タイムスタンプ機能を使用しなくてもDPOF機能や印刷用ソフトで、日付や時刻を入れてプリントすることができます(240ページ)。

- 写し込む内容は、日時設定(269ページ)と表示スタイルの設定(270ページ)に従って写し込みます。
- ベストショット撮影の一部のシーンでは、タイムスタンプは無効となります。

撮影時のカメラの向きに合わせて画像を表示する（縦画像回転再生）

操作手順：【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→縦画像回転再生

画像を再生時に、撮影時のカメラの向きを判断して正しい向きで表示できます。

入	撮影時のカメラの向きに合わせて画像が回転します。
切	縦画像回転再生が作動しません。

画像の連番のカウント方法を切り替える（ファイルNo.）

操作手順：【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→ファイルNo.

撮影時に画像に付く連番（257ページ）のカウント方法を切り替えます。

メモリーする	今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合で、残っているファイルのファイル名がカメラの記憶した連番より大きい場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名が付きます。
メモリーしない	ファイルをすべて消去したり、何も記録されていないメモリーカードに交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を付けます。メモリーカードにファイルが残っている場合は、残っているファイルの最大の連番＋1からファイル名を付けます。

電池の消耗を抑える(スリープ)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→スリープ

一定時間操作しないと液晶モニターの表示が消え、後面ランプが緑色に点灯します。何かボタンを押すと、表示が戻ります。

設定できる値:30秒/1分/2分/切(切を選ぶと、スリープ機能が作動しません)

- 以下の状態のときは、スリープ機能は働きません。
  - 再生モード
  - カメラをパソコンやテレビなどの機器に接続しているとき
  - 動画撮影・再生中
  - リモート撮影中
- スリープ機能とオートパワーオフ機能の設定が同じ時間の場合、オートパワーオフ機能が優先されます。

電池の消耗を抑える(オートパワーオフ)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→オートパワーオフ

電池消耗を抑えるため、一定時間操作しないと電源が切れます。

設定できる値:2分/5分/10分(再生モードでは5分に固定されます)

- 以下の状態のときは、オートパワーオフ機能は働きません。
  - カメラをパソコンなどの機器に接続しているとき
  - スライドショー中
  - 連写グループ画像再生中
  - タイムラプス撮影中
  - 動画撮影・再生中
  - リモート撮影中

液晶モニターを開いたときの動作を設定する(液晶開閉)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→液晶開閉

パワーオン	液晶モニターを開くと、電源が入ります。
切	液晶モニターを開いても、電源は入りません。

【▶】の動作を設定する(PLAY)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→PLAY

パワーオン	【▶】(再生)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	【▶】(再生)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	【▶】(再生)を押しても、電源は入りません。

- "パワーオン/オフ"に設定しているときは、再生モードで【▶】(再生)を押した場合に電源が切れます。

画像の消去操作ができないようにする(消去キー)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→消去キー

【▼】(🗑 ϟ)を押しても、画面の消去操作に入らないようにすることができます。
誤操作などにより、誤って画像を消去したくないときは、"無効"にしてください。

- フォーマット(271ページ)すると、"消去キー"を"無効"に設定していても、画像は消去されます。

海外旅行先での時刻を設定する(ワールドタイム)

操作手順:【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→ワールドタイム

自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

1. **【▲】【▼】で"訪問先"を選び、【▶】を押す**

- 通常の時刻表示の地域・都市を変更するときは"自宅"を選びます。

2. **【▲】【▼】で"都市"を選び、【▶】を押す**

- "訪問先"の設定でサマータイムを設定するときは、【▲】【▼】で"サマータイム"を選び、"入"に設定します(サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです)。

3. **【▲】【▼】で地域を選び、【SET】を押す**

4. **【▲】【▼】で都市を選び、【SET】を押す**

5. **【MENU】を2回押す**

重要

- ワールドタイムを設定する前に、自宅の都市が自分の住んでいる地域になっているかどうかを確認してください。自分の住んでいる地域になっていない場合は、手順1で"自宅"を選んで自宅の都市を変更し、続けて日時を設定し直してください(269ページ)。

カメラの日時を設定し直す(日時設定)

操作手順:【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→日時設定

日時を変更した後は、"決定"を選び【SET】を押して修正結果を確定させます。

【▲】【▼】	カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】	カーソル(選択枠)を移動します。

- 12時間表示と24時間表示を切り替えるには、"am(pm)"／"24h"にカーソルを合わせ、【▲】【▼】を押します。
- 入力できる日付は、2001年～2049年です。
- 日時を設定する前にワールドタイムの自宅の設定(268ページ)を自分の住んでいる地域にしないと、ワールドタイムの日時が正しく表示されません。

日付の表示の並びを変える(表示スタイル)

操作手順:【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→表示スタイル

画面に表示される日付の表示スタイルを3つの中から選ぶことができます。

例)2016年7月10日

年/月/日	16/7/10
日/月/年	10/7/16
月/日/年	7/10/16

表示言語を切り替える(Language)

操作手順:【MENU】→ ✿ SETTINGタブ→Language

画面のメッセージの言語を設定します。

■ 画面が外国語表示になってしまったとき

①下のタブ"✿"を選ぶ

②「Language」の項目を選ぶ
③「日本語」を選ぶ

HDMI端子の出力方法を変える(HDMI出力)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→HDMI出力

詳しくは188ページをご覧ください。

メモリーをフォーマットする(フォーマット)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→フォーマット

カメラにメモリーカードが入っている場合はメモリーカードを、メモリーカードが入っていない場合は内蔵メモリーをフォーマットできます。

- フォーマットすると、メモリーの内容がすべて消去され、元に戻すことはできません。本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 内蔵メモリーをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  – プロテクトされた画像
- メモリーカードをフォーマットした場合、次の画像も同時に消去されます。
  – プロテクトされた画像
- フォーマットすると、"消去キー"(267ページ)を"無効"に設定していても、画像は消去されます。
- フォーマットするときは、電池残量が十分な電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中は、絶対に電池カバーを開けないでください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

各種設定を購入直後の設定に戻す(リセット)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→リセット

購入直後の設定(初期値)については、304ページを参照ください。
下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません。
ワールドタイムの詳細設定、日時設定、表示スタイル、Language

カメラのファームウェアのバージョンを確認する(バージョン情報)

操作手順:【MENU】→ ⚙ SETTINGタブ→バージョン情報

カメラの機種名、カメラに搭載されているファームウェアのバージョン、およびMACアドレスを表示します。

- MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために設定されている固有の番号のことです。
- カメラのファームウェアをバージョンアップしたあとは、この画面をご確認ください。

付録

使用上のご注意

■ 取扱上のご注意

本機は精密機器です。特にレンズ部に無理な力が加わると故障や破損の原因となりますので、下記の点に特にご注意ください。

⚠
撮影するときに、レンズ部をぶつけたり、落下させるなどの強い衝撃を与えないようにご注意ください。

⚠
カメラ本体をレンズで支えるような撮影方法など、レンズに強い力がかかるようなことはしないでください。

レンズ部をぶつけたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。

外圧や衝撃、落下など取り扱い上の過失による、レンズや液晶モニター、内部基板などの破損が原因の故障修理は保証期間内でも有償となります。

⚠

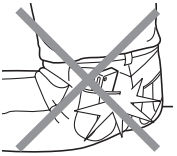
カバンなどの中に入れる場合はカメラに無理な力が加わらないようにご注意ください。

⚠

落下防止のため、ストラップに手を通して撮影してください。

⚠

ズボンやスカートのポケットに入れたまま座らないでください。



⚠

落下させるなど強い衝撃をカメラに与えないでください。
また、カメラが落下しやすいようなポケットに、カメラを入れないでください。胸ポケットに入れると、かがんだときなどにカメラが落下することがあります。

- 絵と製品本体が異なる場合があります。

■ データエラーのご注意

本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると画像データが壊れたり、カメラ本体が動作不能になったりする恐れがあります。

– カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いた
– 電源を切ったときに後面ランプが緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いた
– 通信中にUSBケーブルが外れた
– 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けた
  • 充電してもすぐに消耗してしまう電池を使用し続けると、カメラが故障する場合があります。すみやかに新しい電池に交換してください。
– その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(316ページ)。メッセージに対応した処置をしてください。

■ 使用環境について

• 使用可能温度範囲:0〜40℃
• 使用可能湿度範囲:10〜85%(結露しないこと)
• 次のような場所には置かないでください。
  – 直射日光の当たる場所、湿気やホコリ、砂の多い場所
  – 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  – 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付き(結露)、故障の原因となります。結露を防ぐには、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に十分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

- レンズ面やフラッシュ面には触れないでください。レンズ面やフラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

■ 充電式電池の取り扱いについて（リサイクルのお願い）

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

＜最寄りのリサイクル協力店へ＞
詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
- ホームページ　http://www.jbrc.com/

■ 使用済み電池の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■ 無線機能（無線LAN、Bluetooth無線技術）の使用上のご注意

- この製品は、無線を利用しているため、周りの機器に影響を与えたり、影響を及ばされる可能性があります。
- 本機は米国輸出規制（EAR）の対象となり、米国禁輸出国への輸出はできません。

使用周波数について

本機は2.4GHz帯周波数を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。
他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

本機は小電力データ通信システムの無線装置を内蔵しております。
使用している周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の使用を停止してください。
- その他、電波干渉が発生した場合などお困りのことが起きたときは、「お客様相談窓口」に記載されている連絡先までお問い合わせください。

周波数の見方について

無線LAN

この無線機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS及びOFDM方式を採用し、与干渉距離は20mです。

Bluetooth
無線技術

この無線機は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10mです。

電波転送の傍受について

電波によるデータの送受信は第三者に傍受される可能性があります。あらかじめご了承ください。

不正アクセスについて

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、当社では一切の責任を負いかねます。

無線機器としての利用について

本製品の無線機能は、この取扱説明書に記載している範囲内でお使いください。それ以外の用途で使用して損害が生じた場合、当社では一切の責任を負いかねます。

磁場・静電気・電波障害について

電子レンジ付近など磁場、静電気、電波障害が発生するところでは本製品を使用しないでください。環境により電波が届かないことがあります。
また、2.4GHz帯の電波を使用しているものの近くで使用すると双方の処理速度が落ちる場合があります。

公衆LANへの接続に関して

本機は公衆無線LAN環境を経由して無線LAN接続することはできません。

仕向地について

本機の無線LAN機能は、日本での利用を前提としています。日本国外での使用は、その国の電波関連規格等に違反するおそれがあり、当社では一切の責任を負いかねます。

■ その他の注意

使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

■ 著作権について

カメラで記録した静止画や動画は、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。ただし、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず、権利者の許可なく、ネット上のホームページや共有サイトなどに掲載したり、第三者に配布したりすることも著作権法や国際条約で固く禁じられています。たとえば、録画したTV番組やライブコンサートの映像、音楽ビデオなど自分で撮影や録画したものであっても、動画共有サイトなどに掲載したり配付したりすると、他者の権利を侵害する恐れがあります。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。なお、本文中には、™マーク、®マークを明記していません。

- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Windows、Internet Explorer、Windows Media、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1、およびWindows 10は、米国およびその他の国における Microsoft Corporationの登録商標または商標です。

- Macintosh、Mac OS、QuickTime、iPhoto、およびiPhoneは、Apple Inc.の商標です。
- iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。
- AndroidおよびGoogle PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
- iOSは米国シスコの商標もしくは登録商標です。
- Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。
- The Bluetooth® word mark and logos are registered trademarks owned by Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by CASIO COMPUTER CO., LTD. is under license. Other trademarks and trade names are those of their respective owners.
  Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、カシオ計算機(株)はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- 「宙玉」「そらたま」は実験写真家 上原ゼンジ氏の登録商標です。
- EXILIMおよびEXILIM Connectは、カシオ計算機(株)の登録商標または商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

本製品に弊社が提供しているソフトウェアを、無断で営業目的で複製(コピー)したり、頒布したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。

■ オープンソースソフトウェア(Open Source Software)について

本製品には、以下のライセンス条件に基づいてライセンスされているソフトウェアが含まれています。

OpenVG 1.1 Reference Implementation

Copyright (c) 2007 The Khronos Group Inc.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a
copy of this software and /or associated documentation files
(the "Materials "), to deal in the Materials without restriction,
including without limitation the rights to use, copy, modify, merge,
publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Materials,
and to permit persons to whom the Materials are furnished to do so,
subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included
in all copies or substantial portions of the Materials.

THE MATERIALS ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND,
EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF
MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM,
DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR
OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE MATERIALS OR
THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE MATERIALS.

bluedroid 5.0.0_r2

Copyright (c) 2014 The Android Open Source Project
Copyright (C) 1998-2014 Broadcom Corporation

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at
http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0
Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.
See the License for the specific language governing permissions and
limitations under the License.

Apache License
Version 2.0, January 2004
http://www.apache.org/licenses/

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.
"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction,
and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.
"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by
the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

(a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

(b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and

(c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and

(d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and

wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or
agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each
Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS,
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or
implied, including, without limitation, any warranties or conditions
of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A
PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the
appropriateness of using or redistributing the Work and assume any
risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory,
whether in tort (including negligence), contract, or otherwise,
unless required by applicable law (such as deliberate and grossly
negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be
liable to You for damages, including any direct, indirect, special,
incidental, or consequential damages of any character arising as a
result of this License or out of the use or inability to use the
Work (including but not limited to damages for loss of goodwill,
work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all
other commercial damages or losses), even if such Contributor
has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing
the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer,
and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity,
or other liability obligations and/or rights consistent with this
License. However, in accepting such obligations, You may act only
on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf
of any other Contributor, and only if You agree to indemnify,
defend, and hold each Contributor harmless for any liability
incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason
of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

bluedroid 5.0.0_r2

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes)
is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this
list of conditions and the following disclaimer;

2. binary distributions include the above copyright notice, this list
   of conditions and the following disclaimer in their documentation;

3. the name of the copyright holder is not used to endorse products
   built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties
in respect of its properties, including, but not limited to, correctness
and/or fitness for purpose.

libhardware 5.0.0_r2

Copyright (c) 2005-2014, The Android Open Source Project

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at

http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software
distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS,
WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Apache License
Version 2.0, January 2004
http://www.apache.org/licenses/

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.
"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction, and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all other entities that control, are controlled by, or are under common control with that entity. For the purposes of this definition, "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the direction or management of such entity, whether by contract or otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally

submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.

3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made,

use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:

(a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and

(b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and

(c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work,

excluding those notices that do not pertain to any part of
the Derivative Works; and

(d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its
distribution, then any Derivative Works that You distribute must
include a readable copy of the attribution notices contained
within such NOTICE file, excluding those notices that do not
pertain to any part of the Derivative Works, in at least one
of the following places: within a NOTICE text file distributed
as part of the Derivative Works; within the Source form or
documentation, if provided along with the Derivative Works; or,
within a display generated by the Derivative Works, if and
wherever such third-party notices normally appear. The contents
of the NOTICE file are for informational purposes only and
do not modify the License. You may add Your own attribution
notices within Derivative Works that You distribute, alongside
or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided
that such additional attribution notices cannot be construed
as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and
may provide additional or different license terms and conditions
for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or
for any such Derivative Works as a whole, provided Your use,
reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with
the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions. Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.

6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.

7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. Limitation of Liability. In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.

9. Accepting Warranty or Additional Liability. While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

電源について

充電について

■ 充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは

充電中にカメラの後面ランプが赤色に点滅したときは、以下のいずれかの場合により充電できないことを示しています。説明に従って処置したあとに、再度充電してください。

周辺温度または電池の温度が、高温または低温状態である場合

USBケーブルを抜いて常温でしばらく放置したあと、周囲の温度が15℃～35℃の温度範囲で充電を再開してください。

タイマーが働いた場合

電池の未使用期間が長期化した場合や、パソコンの種類や接続環境によっては充電時間が延びる場合があります。充電時間が最大5時間を越えると、タイマーが働き、フル充電でない場合でも充電を停止します。
また、電池の未使用期間が更に長期化した場合は約60分で充電を停止することもあります。

1) 長期間充電しなかった場合
   USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開してください。
2) パソコンで充電する際、接続環境によって十分な電力を供給できない場合
   USB2.0準拠のUSB端子からのみ充電できます。500mA程度の電流供給ができるUSBポートに直接差し込んでください。

パソコンの給電能力については、ご使用のパソコンのメーカーにお問い合わせください。
USBケーブルを一度抜いて、再度差し込んで充電を再開することもできますが、給電能力が低いパソコンの場合は、この動作を繰り返さないとフル充電にならない場合があります。

上記の処置をしてもエラーが起こる、または5時間を超えても充電が終了しない場合は、電池の不良が考えられます。別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電池に関するご注意

■ 使用上のご注意

- 寒い場所では、電池の特性上、十分に充電されていても、使用時間が短くなります。
- 15℃～35℃の温度範囲で充電してください。範囲外の温度では、充電時間が長くなったり、十分な充電ができないことがあります。
- 電池の外装ラベルを破ったり、はがしたりしないでください。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の性能寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。なお、古い電池は使用せずに充電式電池リサイクル協力店へお持ちください(277ページ)。

■ 保管上のご注意

- 充電された状態で長期間保管すると電池の特性が劣化することがあります。しばらく使わない場合は、使い切った状態で保管してください。
- 使用しないときは必ず電池をカメラから取り外してください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、カメラが壊れたりします。
- 乾燥した涼しい場所(20℃以下)で保管してください。
- 過放電を防止するために、電池は半年に1回くらいの割合で一度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。

海外で使うときは

■ 使用上のご注意

- 付属のUSB-ACアダプター(AD-C54UJ)はAC100V～240V、50/60Hzの電源に対応していますが、使用する国・地域によってUSB-ACアダプターのプラグ形状等が異なるため、あらかじめ旅行代理店などにお問い合わせください。
- USB-ACアダプターの電源に、電圧変換器等はご使用にならないでください。故障の原因となります。

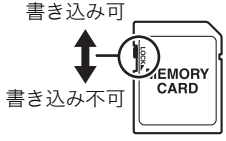
■ 予備の電池について

- 旅先で電池が切れて撮影ができなくなってしまうことを防ぐため、フルに充電した予備の電池(NP-160)をお持ちになることをおすすめします。
- 電池はお買い求めの販売店またはe-casio カシオオンラインショッピングでご購入ください(URL: http://www.e-casio.co.jp/)。

メモリーカードについて

使用できるメモリーカード、メモリーカードの入れ方については40ページをご覧ください。

■ メモリーカードについて



- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 画像を再生したときに異常が発生した場合などは、フォーマット操作(271ページ)で復帰できますが、外出先などでこの操作ができない場合に備えて複数枚のメモリーカードをお持ちになることをおすすめします。
- メモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてくるので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- 静電気、電気的ノイズ等により、記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(CD-R、CD-RW、ハードディスクなど)に控え(バックアップ)をとることをおすすめします。

■ メモリーカードのご使用上の注意

- メモリーカードの種類によっては処理速度が遅くなる場合がありますので、できるだけ超高速タイプのメモリーカードをご使用ください。ただし、超高速タイプのメモリーカードであっても、すべての動作を保証することはできません。動画の画質設定によっては、記録時間がかかるため、画像が一瞬途切れたり、音声が中断する場合があります。このとき、“REC”が黄色になります。
- 当社で動作確認されたメモリーカードをおすすめします。詳しくは、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトの「デジタルカメラお客様サポートメニュー」(http://casio.jp/support/dc/)をご覧いただくか、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

■ メモリーカードやカメラ本体を廃棄／譲渡するときのご注意

本機の「フォーマット」や「消去」機能では、メモリーカード内のファイル管理情報だけが変更され、データそのものが変更されないことがあります。メモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。たとえば以下のような手法をおすすめします。

- 廃棄の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。
- 譲渡の際は、市販のデータ消去専用ソフトなどを使用してメモリーカード内のデータを完全に消去する。

また、内蔵メモリーのデータは「フォーマット」機能(271ページ)で完全に消去してからカメラ本体を廃棄・譲渡することをおすすめします。

リセット操作でリセットされる内容

【MENU】を押したときに表示されるメニューで、リセット操作(272ページ)でリセットされる(初期値になる)内容の一覧表です。
ー:この記号の設定項目はリセット操作には影響がありません。

重要

- 撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。

■ REC MENU

連写モード	切
無線モード	機内モード:切 自動送信:切 自動送信ファイル設定:▣のみ 送信時リサイズ:3M 無線LAN パスワード:ー ペアリング解除:ー
モーションシャッター	モーション設定:切 タイマー設定:2秒 モーション位置: :右上 :左上

フロントシャッター	標準
左右キー	切
セルフタイマー	切
露出補正	0.0
ホワイトバランス	オートWB
ISO感度	オート
ISO感度上限	オート
フォーカス方式	AF
AFエリア	スポット
顔検出	切
メイクアップ	肌の色:0(切) 肌のなめらかさ:0(切)

コンティニュアスAF	切
測光方式	マルチ
手ブレ関連機能	標準
静止画サイズ	16M
静止画画質	標準-N
動画画質	FHD
ライティング	入
シャープネス	0
彩度	0
コントラスト	0
フラッシュ光量	0
超解像ズーム	シングル
デジタルズーム	入
AF補助光	入
ダブル保存(HDRアート)	入
風音低減	切
撮影レビュー	タイプ2
アイコンガイド	入

アシスト表示	グリッド:切 ヒストグラム:切 動画撮影範囲:切
モードメモリー	連写モード:切 フラッシュ:入 フォーカス方式:切 ISO感度:切 ホワイトバランス:切 露出補正:切 AFエリア:入 測光方式:切 セルフタイマー:切 フラッシュ光量:切 超解像ズーム:入 デジタルズーム:入 MF位置:切 ズーム位置:切

■ PLAY MENU

無線モード	→ 304ページ
フロントシャッター	標準
クイックコラージュ	−
スライドショー	表示画像:全画像 時間:30分 間隔:3秒 エフェクト:パターン1
ムービーカット	−
ムービー結合	−
モーションプリント	−
ライティング	−
ホワイトバランス	−
明るさ編集	0
プリント設定 (DPOF)	−
プロテクト	−
日時編集	−
回転表示	−
リサイズ	10M
トリミング	−
コピー	−
連写マルチプリント	−
グループ解除	−
グループ編集	−

■ ✿ SETTING

エコモード	切
液晶設定	オート
操作音	起動音:サウンド1 ハーフシャッター: サウンド1 シャッター:サウンド1 操作音:サウンド1 操作音量:3 再生音量:3
フォルダー作成	−
タイムスタンプ	切
縦画像回転再生	入
ファイルNo.	メモリーする
スリープ	1分
オートパワーオフ	5分
液晶開閉	パワーオン
PLAY	パワーオン
消去キー	有効
ワールドタイム	−
日時設定	−
表示スタイル	−
Language	−
HDMI出力	オート
フォーマット	−
リセット	−
バージョン情報	−

現象と対処方法

	現象	考えられる原因と対処
電源について		
	電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない(29ページ)。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(31ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の性能寿命です。別売の当社のリチウムイオン充電池(NP-160)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた可能性があります(266ページ)。電源を入れ直してください。 2) 電池が消耗している可能性があります。電池を充電してください(31ページ)。 3) カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
	電源が切れない。ボタンを押しても、カメラが動作しない。	カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください。
充電について		
	後面ランプが赤く点灯せず、充電できない。	1) カメラに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてください。 2) カメラから電池をいったん取り出し、入れ直してください(31ページ)。

現象	考えられる原因と対処
撮影について	
シャッターを押しても撮影できない。	1) 再生モードになっている場合は、シャッターを押して撮影モードにしてください。 2) フラッシュの充電中は、フラッシュの充電が終わるまで待ってください。 3) “メモリー残量が足りません”と表示されている場合は、パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
オートフォーカスなのにピントが合わない。	1) レンズが汚れている場合は、レンズの汚れを取ってください。 2) 被写体がフォーカスフレームの中央にありません。 3) ピントの合いにくい被写体の可能性があります(59ページ)。マニュアルフォーカスに切り替えて手動でピントを合わせてください(69ページ)。 4) 手ブレしている可能性がありますので、手ブレ補正の撮影状態に設定してください(159ページ)。または、三脚を使用してください。
撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない可能性があります。ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを合わせて撮影してください。
フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が“”(発光禁止)になっている場合は、発光方法を他の方法に切り替えてください(75ページ)。 2) 電池が消耗している場合は、電池を充電してください(31ページ)。 3) ベストショットでフラッシュが“”(発光禁止)のシーンを選んでいる場合は、必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えるか(75ページ)、撮影したいシーンを選び直して(122ページ)ください。

	現象	考えられる原因と対処
	液晶モニター上に“⊘”(発光禁止)が赤く点灯し、フラッシュが発光しない。	フラッシュが故障している恐れがありますので、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。なお、この状態でフラッシュは発光できませんが、撮影することはできます。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している可能性があります。
	液晶モニターに表示される画像のピントがあまい。	1) マニュアルフォーカスでピント合わせがずれています。ピントを正しく合わせてください(69ページ)。 2) 被写体が風景や人物なのに“🌷”(マクロ)になっています。風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスにしてください(68ページ)。 3) 接写しているのに、オートフォーカスになっています。接写撮影をする場合は“🌷”(マクロ)にしてください(68ページ)。
	画像にノイズが入る。	1) 被写体が暗いとカメラの感度が自動的に上がるため、ノイズが発生する場合があります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 2) 暗い場所でフラッシュを“⊘”(発光禁止)にして撮影すると、ノイズが発生し、多少ざらついた感じになることがあります。その場合は、フラッシュの発光方法を切り替えるか(75ページ)、ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 3) 静止画撮影でライティング機能(167ページ)を使うと、ノイズが増えることがあります。ライトなどを使用して明るくして撮影してください。 4) 高い気温など高温の環境で動画を長時間撮影した場合、撮影画像にノイズ(輝点)が入ることがあります。その場合はすずしい環境で撮影していただくか、カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからご使用ください。

現象	考えられる原因と対処
撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった場合、画像は保存されません。電池残量表示が“ ”になったら、速やかに電池を充電してください(37ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた場合、画像は保存されません。記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(75ページ)。または、露出補正を＋側に調整してください(73ページ)。
夜景がきれいに撮影できない。	ベストショット(122ページ)のシーンを下記のように設定して撮影してください。 • 夜景だけ撮影したいとき→“HS夜景” • 夜景と人物を撮影したとき→“HS夜景と人物”
海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。フラッシュを“ ”(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(75ページ)。または、露出補正を＋側に調整してください(73ページ)。
デジタルズームの倍率が最大値まで上がらない。	1) デジタルズームの設定が“切”になっている可能性があります。設定を“入”にしてください(169ページ)。 2) “超解像ズーム”が“シングル”になっている場合は最大値まで上がりません。“切”にしてください(84ページ)。 3) 静止画の画像サイズが“3M”以外になっている場合は最大値まで上がりません。他の設定に変更してください(161ページ)。

	現象	考えられる原因と対処
	動画撮影中に画像がぼける。	1) 撮影範囲外のためピントが合っていません。撮影範囲内で撮影してください。 2) レンズが汚れている可能性があります。清掃してください(276ページ)。 3) ハイスピード動画の撮影中は、フォーカスが撮影開始時の位置で固定となります。ピントを合わせる場合は、動画撮影をはじめる前にシャッターを半押しするか、マニュアルフォーカスでピントを合わせてから撮影してください。
	動画撮影が勝手に終了した。	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの温度を下げてからご使用ください。
	メニュー内の機能の設定が変更できない。設定項目が表示されない。	撮影モードによっては、使用できないメニューがあります。プレミアムオート PROでは、設定できる機能のみがメニュー画面に表示されます。
再生について		
	再生した画像の色が撮影時に液晶モニターで見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている可能性があります。直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用した場合は、ファイル管理形式が異なるため再生できません。

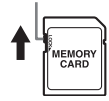
	現象	考えられる原因と対処
	画像編集(ホワイトバランス、明るさ編集、リサイズ、トリミング、回転)ができない。	次の画像は編集できません。 • モーションプリント機能で作成した画像 • 連写グループ内の画像 • 動画 • パノラマ画像 • 他のカメラで撮影した画像
消去について		
	ファイルを消去することができない。	1) ファイルにプロテクトがかかっている可能性があります。プロテクトを解除してください(205ページ)。 2) “消去キー”の設定が“無効”になっている可能性があります。設定を“有効”にしてください(267ページ)。
無線LAN機能について		
	スマートフォンとカメラを接続できない。接続が途切れる。	1) カメラとスマートフォンが離れていると、カメラに接続できません。 2) スマートフォンが他の無線LANに接続している可能性があります。スマートフォンのWi-Fi設定で、本機が選ばれているか確認してください(222ページ)。 3) 電子レンジやコードレス電話機、他の無線LAN機器などの機器を近くで使用している場合は、接続が途切れることがあります。機器から十分に離してお使いください。

	現象	考えられる原因と対処
その他		
	画面に表示される日時が正しくない。または、記録したデータの日付が正しくない。	日時の設定が間違っているので、日時を設定し直してください(269ページ)。
	画面に表示される言葉が外国語になっている。	表示言語の設定が間違っているので、表示言語を設定し直してください(270ページ)。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) USBケーブルが確実に接続されていない可能性があります。コネクタ端子部を確認して、確実に接続してください。 2) カメラの電源が入っていない場合は、電源を入れてください。 3) USBケーブルをUSBハブ等を経由してパソコンと接続をしていると、正常に認識しない場合があります。パソコンのUSB端子に直接接続してください。 4) 電池消耗マークが“ ”のときは、USB通信できない場合があります。電池を充電してから接続してください。

	現象	考えられる原因と対処
	カメラの電源を入れると、時計設定画面が表示される。	1) ご購入直後の初期設定をしていないか、電池が消耗した状態でカメラを放置しています。各設定を確実に行ってください(38、269ページ)。 2) カメラ内部のメモリー管理エリアが壊れている恐れがあります。この場合は、リセット操作によりカメラの設定内容を初期値に戻してください(272ページ)。その後、各設定を確実に行ってください。再度カメラの電源を入れたときに時計設定画面が表示されなければ、カメラ内部のメモリー管理エリアが修復されました。 再度電源を入れても時計設定画面が表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
	画面に色々なマークや数字などが表示される	画面には撮影に必要な表示や撮影した画像の情報などが表示されます。【▲】(DISP)を押すごとに、画面に表示される情報表示の有無が選べます(19ページ)。
	購入後、時計を設定したあと、すぐに電池を抜いたら、設定した時刻がリセットされた。	電池を入れ、時計を設定し直してください(38ページ)。その後、24時間以上は電池を入れたままにしておいてください。 • 24時間以上、電池を入れているのに、電池の抜き差しで時刻がリセットされる場合は、カメラの設定保持機能が壊れている恐れがあります。この場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
	電源を入れた直後、ボタン操作ができない。	メモリーカードの容量が大きい場合、電源を入れてからボタン操作ができるまでの時間が長くなります。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のときに表示されます。ズーム操作などで構図を変えて撮影しなおしてください。
温度が上昇したため電源をオフします	カメラの温度が一定温度を超えたため、保護動作が働いた可能性があります。カメラの電源を切ったまましばらく放置し、カメラの温度を下げてからお使いください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(271ページ)。 重要 • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前にパソコン等を利用して、メモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(271ページ)。

カードがロックされています	SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、またはSDXCメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。 
画像が足りないため作成できませんでした	クイックコラージュに必要な画像の枚数が足りないため、画像を作成できなかったときに表示されます。選択したレイアウトに必要な枚数以上の画像をメモリーに保存してください。
この機能は使用できません	機能の組み合わせなどにより使用できない機能を使用した場合、操作の途中で表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの“表示画像”で設定した画像が見つからないときに表示されます。スライドショーの設定をし直してください(195ページ)。
通信が切断されました	カメラとスマートフォンが通信中に、無線LAN接続が切断されると表示されます。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。

電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。
ファイルを作成できませんでした	クイックコラージュ作成時に日付が不正な画像(1994年12月31日以前の画像、または2050年1月1日以降の画像)があり、画像を作成できなかったときに表示されます。日付が不正な画像を消去してください。
フォルダーが作成できません	999番のフォルダーの中に9999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を続けるには、不要なファイルを消去する必要があります(55ページ)。
メモリー残量が足りません	撮影可能枚数を使い切った場合、または編集後のファイルを保存できるメモリーの空きがない場合に表示されます。パスト連写撮影時は、過去の画像をすべて記録できる容量がメモリーカードにない場合表示されます。不要なファイルを消去してください(55ページ)。
もう一度、電源を入れ直してください	レンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。

レンズエラー	レンズが予期せぬ動作をしたとき、このメッセージが表示され、電源が切れます。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。
レンズエラー2	手ブレ補正ユニットが故障している可能性があります。再度電源を入れても同じメッセージが表示される場合は、別冊「クイックスタートガイド」に記載の「修理に関するお問い合わせ窓口」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

撮影可能枚数／撮影可能時間

静止画

画像サイズ (pixels)	撮影画質	ファイル サイズ	内蔵メモリー※1 での撮影枚数	SDメモリーカード※2 での撮影枚数
16M (4608×3456)	高精細-F	10.71MB	3	1072
	標　準-N	5.57MB	5	1654
3:2 (4608×3072)	高精細-F	9.43MB	3	1214
	標　準-N	4.92MB	6	1873
16:9 (4608×2592)	高精細-F	7.83MB	4	1466
	標　準-N	4.1MB	7	2221
10M (3648×2736)	高精細-F	6.4MB	5	1787
	標　準-N	3.38MB	8	2728
3M (2048×1536)	高精細-F	2.0MB	14	4669
	標　準-N	1.25MB	20	6533

動画

設定内容 (pixels)／(音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル最大サイズ	内蔵メモリーでの記録時間※1	SDメモリーカードでの最大記録可能時間※2	1分録画時のファイルサイズ	一回当たりの連続撮影可能時間※3
FHD (1920×1080) (モノラル)	14.2メガビット／秒 (30フレーム／秒)	4GBまたは29分まで	26秒※4	2時間14分	106.5MB	29分
HD (1280×720) (モノラル)	10.9メガビット／秒 (12、15、20、30フレーム／秒)		33秒※5	2時間56分※5	81.8MB※5	29分※5
STD (640×480) (モノラル)	3.8メガビット／秒 (30フレーム／秒)		1分38秒	8時間33分	29.3MB	29分
HS1000 (224×64) (無し)	40.0メガビット／秒 (1000フレーム／秒)		9秒※4	48分	300.0MB	13分10秒
HS480 (224×160) (無し)	40.0メガビット／秒 (480フレーム／秒)		9秒※4	48分	300.0MB	13分2秒
HS240 (512×384) (無し)	40.0メガビット／秒 (240フレーム／秒)		9秒※4	48分	300.0MB	12分58秒
HS120 (640×480) (無し)	40.0メガビット／秒 (120フレーム／秒)		9秒※4	47分	300.0MB	12分55秒

設定内容 (pixels)／ (音声)	転送レート (フレームレート)	1ファイル 最大 サイズ	内蔵メモリー での 記録時間※1	SDメモリー カードでの 最大記録 可能時間※2	1分録画時 のファイル サイズ	一回当たりの 連続撮影可能 時間※3
HS30-240 (512×384) (30fps時のみ有り)	5.2メガビット／秒 (30フレーム／秒) 40.4メガビット／秒 (240フレーム／秒)	4GBまたは 29分まで	1分11秒※6	6時間10分 ※6	39.0MB※6	29分※6
HS30-120 (640×480) (30fps時のみ有り)	10.2メガビット／秒 (30フレーム／秒) 40.4メガビット／秒 (120フレーム／秒)		36秒※6	3時間8分※6	76.5MB※6	29分※6

※1 内蔵メモリーをフォーマット後の容量(48.9MB)の場合です。
※2 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数・記録時間は異なる場合があります。
※3 1ファイル最大サイズよりも容量の小さいSDメモリーカードを使用する場合は、記載の時間より短くなります。
※4 内蔵メモリーでは、FHD動画およびHS動画の転送レートを十分に満足できません。超高速タイプのメモリーカードをご使用ください(41、109ページ)。
※5 アートショット撮影時の数値です。
※6 30fpsで撮影した場合の撮影可能時間になります。撮影中、30fpsを120fpsまたは240fpsに切り替えると撮影可能時間は短くなります。

- 撮影枚数／撮影時間は目安(おおよその数値)であり、画像の内容によって少なくなることがあります。
- ファイルサイズ／転送レートは目安(おおよその数値)であり、撮影対象によって変化することがあります。
- 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。
- ハイスピード動画撮影時は、撮影時間と再生時間が異なります。例えば240fpsのハイスピード動画撮影を10秒間行うと再生時間は80秒になります。

主な仕様／別売品

画像ファイル形式	静止画：JPEG（Exif Ver.2.3／DCF2.0準拠／DPOF対応） 動画：MOV形式、H.264/AVC準拠、IMA-ADPCM音声（モノラル）
記録媒体	内蔵フラッシュメモリー（画像記録エリア：48.9MB※） SD／SDHC／SDXC ※ 内蔵メモリーをフォーマット後の容量
記録画素数	静止画：16M（4608×3456）／3:2（4608×3072）／16:9（4608×2592）／10M（3648×2736）／3M（2048×1536）
	動画：FHD（1920×1080 30fps）／HD（1280×720 12fps／15fps／20fps／30fps）※／STD（640×480 30fps）／HS1000（224×64 1000fps）／HS480（224×160 480fps）／HS240（512×384 240fps）／HS120（640×480 120fps）／HS30-240（512×384 30fps・240fps切替式）／HS30-120（640×480 30fps・120fps切替式） ※ HD動画は、アートショット撮影時、またはタイムラプスの一部のシーンでの撮影時のみ使用できます。
有効画素数	1610万画素
撮像素子	サイズ：1/2.3型正方画素高速CMOS 総画素数：1679万画素
レンズ／焦点距離	F3.5（W）－6.5（T）/f＝4.5～45.0mm（35mmフィルム換算25～250mm相当）
ズーム	光学ズーム10.0倍、プレミアムズーム併用時20.0倍 デジタルズーム4倍 HDズーム／デジタルズーム併用時最大89.8倍（3Mサイズ）

フォーカス	コントラスト検出方式オートフォーカス、AF補助光付き • フォーカス方式: オートフォーカス／マクロ／マニュアルフォーカス選択可能 • AFエリア:インテリジェント／スポット／マルチ(25エリアから選択)／追尾選択可能
撮影距離範囲(レンズ先端から)	オートフォーカス: 約5cm～∞(W端) マクロ:約5cm～約50cm(W端) マニュアルフォーカス: 約5cm～∞(W端) • 光学ズームにより、撮影距離は変化します。
測光方式	マルチパターン測光／ 中央重点測光／スポット測光
露出制御	プログラムAE
露出補正	−2.0EV～＋2.0EV (1/3EVステップ)
シャッター方式	CMOS電子シャッター／ メカシャッター併用

シャッタースピード	静止画(プログラムオート): 1/4～1/1000秒 静止画(プレミアムオート PRO): 4～1/4000秒 • カメラの設定により異なる場合があります。
絞り	F3.5(W)～F11.1(W) (NDフィルター) • 光学ズームにより、絞り値は変化します。
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／昼白色蛍光灯／昼光色蛍光灯／電球／マニュアルホワイトバランス
感度設定(標準出力感度)	静止画:オート／ISO80／ISO100／ISO200／ISO400／ISO800／ISO1600／ISO3200 静止画(HS ナイトショット): 最大ISO25600 動画:オート
フラッシュモード	フラッシュオート／発光禁止／強制発光／赤目軽減機能
フラッシュ撮影範囲(ISO感度オート時)	約0.4～約2.9m(W端) 約1.5～約1.6m(T端) • 光学ズームにより範囲は変化します。

フラッシュ光量調整	−2、−1、0、+1、+2
フラッシュ充電時間	約4秒
通信機能	Bluetooth: • 通信規格:Bluetooth® Smart Wi-Fi: • 準拠規格: IEEE 802.11b/g/n • 使用周波数範囲 :1〜11ch • 暗号化方式: WPA2
画像モニター	3.0型TFTカラー液晶 (高性能クリア液晶) 921,600ドット チルト機構(180度)
外部接続端子	マイクロUSB端子(Hi-Speed USB準拠／USB充電対応) HDMI output(マイクロ／タイプD)
マイク	モノラル
スピーカー	モノラル
電源	リチウムイオン充電池 (NP-160)×1個

電池寿命

下記の電池寿命は温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

静止画撮影枚数※1	約280枚
静止画撮影枚数(ECO)※1	約340枚
動画実撮影時間(FHD動画)※1	約1時間
動画連続撮影時間(FHD動画)※2	約1時間35分
動画連続撮影時間(ハイスピード動画(HS240))※2	約1時間45分
タイムラプス撮影時間※2(FHD動画※3)	約2時間55分
連続再生時間(静止画)※4	約3時間45分

- 温度:23℃
- 使用電池:NP-160(定格容量:1200mAh)
- 記録メディア:16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)

※1 CIPA(カメラ映像機器工業会)規格に準ずる
※2 カシオ基準による
※3 その他設定
タイムラプスシーン:TTL スタンダード、撮影間隔:1/2秒、トータル時間:OFF、スリープ:1分のとき
※4 約10秒に1枚ページ送り

- 前記は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- この数値は実際の使用での電池寿命を保証するものではありません。
- フラッシュ、ズーム、オートフォーカス、高速連写の使用頻度や電源が入った状態の時間、その他設定、使用時の温度により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

消費電力	DC3.7V 約5.0W
外形寸法	幅99.6mm×高さ59.5mm×奥行き25.0mm (突起部除く奥行き24.7mm)
質量	約202g (電池およびメモリーカード※含む) 約175g (電池およびメモリーカード除く) ※ 16GB SDHCメモリーカード(SanDisk Corporation製)の場合

■ リチウムイオン充電池(NP-160)

定格電圧	3.7V
定格容量	1200mAh
使用周囲温度	0～40℃
外形寸法	幅37.5mm×高さ44.9mm×奥行き7.0mm(突起部除く)
質量	約25g

■ USB-ACアダプター（AD-C54UJ）

入力	AC100-240V 50/60Hz 90mA
出力	DC5.0V 650mA
使用周囲温度	5～35℃
外形寸法	幅64.6mm×高さ38.4mm×奥行き24mm（突起部除く）
質量	約40g

■ 別売品（2015年10月現在）

- 充電器 BC-110L
- リチウムイオン充電池 NP-160
- USB-ACアダプター AD-C54UJ
- オリジナルジャケットケース／ネックストラップセット EJC-50
- オリジナルケース ESC-270
- オリジナルケース ESC-360
- オリジナルケース ESC-380
- ネックストラップ ENS-2

上記をはじめとする別売品の最新情報については、携帯電話やスマートフォンで下のQRコードを読み取るか、下記アドレスに接続して、Webサイトでご確認ください。
また、カタログでもご確認いただけます。

http://casio.jp/dc/option/

別売品は、お買い求めの販売店、または e-casio カシオオンラインショッピングにご用命ください。

URL：http://www.e-casio.co.jp/

索引

英数字

AF エリア 154
AF 補助光 170
AF 連写 91
Bluetooth.....214
DCF 規格.....258
DPOF.....236
Exif Print 241
EXILIM Connect.....221
FHD 動画 110
HDMI.....188
HDMI 出力 191, 271
HDMI テレビ出力.....142
HDR.....131
HS（ハイスピード）動画.....111
HS シーン撮影 50
HS 手ブレ補正 129
HS ナイトショット 130
ISO 感度 71
ISO 感度上限 152
Language.....270
MODE..... 49, 60
PLAY 267
PLAY MENU.....192
PRINT Image Matching III.....241
REC MENU.....144
SD メモリーカード 40
SDHC メモリーカード 40
SDXC メモリーカード 40
SETTING 260
STD 動画 105
USB ドライバー 252

あ

アートショット 97
アイコンガイド 172
赤目軽減..... 75
明るさ編集.....204
アシスト表示 173
印刷.....235
インテリジェント 154
液晶開閉.....266
液晶設定.....261
液晶モニター 19
エコモード.....260
オート撮影..... 48

オートパワーオフ 266
オートフォーカス 59, 68
オートマクロ 69
音声 108
音量 262

か

回転表示 208
顔検出 156
拡大 187
画素 163
機内モード 230
強制発光 75
クイックコラージュ 194
クイック送信 227
グリッド 173
グループ 180
グループ解除 184, 212
グループ編集 213
コピー 186, 211
コンティニュアス AF 158
コントラスト 168

さ

再生（再生モード） 54, 177
彩度 168
撮影（撮影モード） 48, 60, 105
撮影レビュー 171
左右キー 150
時刻 39, 263
自動送信 231
自動送信ファイル設定 232
シャープネス 167
シャッター 49
充電 29, 299
消去 55
消去キー 267
シングル超解像ズーム 79, 84
ズーム 79
スチルインムービー 121
スマートフォンから見る 228
スマートフォンで撮影 225
スマートフォンへ送る 226
スライドショー 195
スライドパノラマ 135
スリープ 265
静止画 48, 54
静止画画質 164
静止画サイズ 161, 209

セルフィーアート.....101
セルフィータイマー.....104
セルフタイマー 63
全焦点マクロ 134
操作音 262
操作パネル 62
送信時リサイズ 232
測光方式 78

た

タイムスタンプ 263
タイムラプス 117
縦画像回転再生 264
ダブル保存（HDR アート）.....100
超解像ズーム 79, 84
追尾.....155
デジタルズーム 79, 169
手ブレ 107, 159
手ブレ関連補正 159
テレビ 188
電源..... 29, 299
電池 29
電池残量 37
動画.....105, 177
動画画質.....165
動画撮影範囲 174
トリプルショット 127
トリミング.....210

な

内蔵メモリー 40, 211
日時.....38, 208, 268, 269
日時設定.....269
日時編集.....208

は

バージョン情報 272
背景ぼかし 132
ハイスピード動画 111
パストムービー 114
パソコン 242
発光禁止..... 75
被写体ブレ 159
ヒストグラム 173
日付.....263, 270
日付プリント 240
表示言語.....270
表示スタイル 270
ピント.....51, 59

ファイル.....257
ファイル No.....264
風音低減.....171
フォーカスフレーム.....51, 155
フォーカス方式.....68
フォーカスロック.....70
フォーマット.....43, 271
フォルダー.....257, 258
フォルダー作成.....263
フラッシュ.....75
フラッシュ光量.....168
プリンター.....235
プリント.....235
プリント設定.....236
プレミアムオート PRO.....48
プレミアムズーム.....79, 85
プログラムオート.....48
プロテクト.....205
フロントシャッター.....148, 192
ペアリング解除.....234
ベストショット.....122
ホワイトバランス.....65, 203

ま

マクロ.....68
マニュアルフォーカス.....68
マルチ超解像ズーム.....79, 85
ムービー.....105, 177
ムービーカット.....199
ムービー結合.....201
無線 LAN.....214
無線 LAN パスワード.....233
無線設定.....230
無線モード.....147
メイクアップ.....72, 125
メイクアップ BKT.....126
メッセージ.....316
メッセージの言語.....270
メニュー.....144
メモリーカード.....40, 271, 302
モーションシャッター.....93, 96
モーションプリント.....202
モードメモリー.....176

や

夜景撮影.....311

ら

ライティング 167, 202
リサイズ 209
リセット 272
連写 86
連写マルチプリント.....212
連写モード 86, 146
録音 108
露出補正 73

わ

ワールドタイム 268
ワイドショット 138

CASIO

カシオ計算機株式会社
〒151-8543　東京都渋谷区本町1-6-2

MA1511-A

© 2015 CASIO COMPUTER CO., LTD.